前二項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ義務就學者ノ教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメントスルトキハ關係市町村、市町村學校組合、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クベシ

第二十七條 地方長官ハ町村カ其ノ資力青年學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘス且青年學校設置ノ爲他ノ市町村ト學校組合ヲ設クルコト能ハスト認ムルトキハ其ノ町村ヲシテ青年學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

地方長官ハ前條第一項ノ事由アルモ町村ヲシテ同項ノ規定ニ依ラシムルコト能ハスト認ムルトキハ其ノ町村ノ區域ノ全部又ハ一部ニ關シ青年學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得前條第二項ノ事由アルモ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲシテ同項ノ規定ニ依ラシムルコト能ハスト認ムルトキ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ區域ノ一部ニ關シ亦同シ

前二項ノ規定ニ依リ青年學校設置ノ義務ヲ免セラレタル區域内ノ義務就學者ノ保護者ハ第十二條ニ規定スル義務ヲ免除セラレタルモノトス

第六章 費用負擔及授業料

第二十八條 青年學校設置ニ關スル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外道府縣立青年學校ニ在リテハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トシ市町村立青年學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス其ノ費用ノ概目左ノ如シ

一 設備及其ノ維持ノ費用

二 職員ノ俸給、旅費其ノ他ノ諸給與

三 校費

第二十六條ノ規定ニ依ル教育事務ノ委託ニ關スル費用ハ之ヲ委託シタル市町村、市町村學校組合若ハ町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス

第二十九條 區長及其ノ代理者並ニ學區ノ學務委員カ青年學校ニ關スル國ノ教育事務ヲ執行スル爲ニ要スル費用ハ市町村會、市町村學校組合會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ學區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第三十條 青年學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アルトキハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條 道府縣立青年學校ノ授業料ハ北海道地方費又ハ府縣ノ收入トシ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ收入トス

第三十二條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七章 管理及監督

第三十三條 市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ青年學校ニ關スル教育事務ヲ管掌シ市町村立青年學校ヲ管理ス

第三十四條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年學校ニ關スル教育事務ノ爲市制第八

十三條若ハ町村制第六十九條ノ規定又ハ其ノ準用規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ此ノ場合ニ於テハ市町村會、市町村學校組合會又ハ町村學校組合會ノ議決ニ依ルコトヲ要セス

市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ハ青年學校ニ關スル教育事務ノ爲前項ニ依リ其ノ學區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立青年學校ノ學校長又ハ教員ヲ加フヘシ

第三十五條 學務委員ハ市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理委員中學校長又ハ教員ヨリ出ツル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第三十六條 學務委員ノ職務其ノ他ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十七條 市町村立青年學校ノ學校長及教員ハ其ノ執行スル青年學校ニ關スル國ノ教育事務ニ付地方長官之ヲ監督ス

私立青年學校ハ地方長官之ヲ監督ス

第八章 補 則

第三十八條 町村組合ニシテ其ノ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合會ハ之ヲ町村會ト看做ス

第三十九條 町村制ヲ施行セサル地域ニ於テハ本令中町村、町村組合、町村吏員、町村會及町村組合會ニ關スル規定ハ其ノ地域ニ於ケル此等ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第三十四條第一項中町村制第六十九條トアルハ前項ノ地域ニ於テハ北海道一級町村制第一條、又ハ北海道二級町村制第七十二條トス

第一項ノ地域ニ於テ本令ニ依リ難キ事項ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 本令ニ依ラサル學校ハ青年學校ト稱スルコトヲ得ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル青年學校ニシテ本科ノ男子ノ教授及訓練期間ヲ二年又ハ三年ト爲スモノニ付テハ第三條第二項ノ規定ニ拘ラス昭和十六年三月三十一日迄ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第十二條ノ規定ハ大正十五年四月一日以前ニ出生シタル者ニ關シテハ之ヲ適用セス

特別ノ事情アル場合ニ限リ青年學校ニハ地方長官ノ認可ヲ受ケ當分ノ內專任教員ヲ置カサルコトヲ得

附 則 (昭和十六年三月勅令第一五五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第十三條第一項及第三十九條第二項ノ改正規定ハ公布ノ日ヨリ第十二條ノ改正規定(年齡ニ關スル部分ヲ除ク)ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中年齡ニ關スル第十二條ノ改正規定ハ昭和十九年四月一日以前ニ出生シタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令中第二條、第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項、第十一條第一項、第十三條第二項ノ改正規定ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

「國民學校初等科修了者」ニ「高等小學校卒業者」ヲ「國民學校高等科修了者」ニ改メ昭和十

六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校普通科ニシテ其ノ課程ガ國民學校高等科ノ課程ト同等以上ト認メラルルモノハ第二條、第三條第一項、第四條第一項及第十一條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ昭和二十年四月一日以降當分ノ內仍之ヲ存續スルコトヲ得

普通科修了者ハ昭和二十年四月一日ヨリ本科入學ニ關シテハ之ヲ國民學校高等科修了者ト看做ス

青年學校令施行規則

（昭和十四年四月二十六日文部省令第二四號）
（昭和十六年三月文部省令第二一號改正）

第一章　課程

第一條　普通科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一號表、女子ニ在リテハ第二號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第一號表

教授及訓練	學年	第一學年	第二學年
修身及公民科		二〇	二〇
普通學科		九〇	九〇
職業科		六〇	六〇

第二號表

教授及訓練科目	學年	第一學年	第二學年
修身及公民科		二〇	二〇
普通學科		八〇	八〇
職業科		八〇	八〇
家庭科		三〇	三〇
體操科		二〇	二〇
合計		一一〇	一一〇
體操科		四〇	四〇
合計		一一〇	一一〇

本科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第三號表、女子ニ在リテハ第四號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ但シ男子ニ於テ教授及訓練期間ヲ四年ト爲シタル場合ニ在リテハ第三號表ノ第一學年乃至第四學年、女子ニ於テ教授及訓練期間ヲ二年ト爲シタル場合ニ在リテハ第四號表ノ第一學年及第二學年ノ時數以上トス

第三號表

學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
教授及訓練科目 修身及公民科	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
普通學科	五〇	五〇	九〇	九〇	九〇
職業科	七〇	七〇			
教練科	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
合計	二一〇	二一〇	一八〇	一八〇	一八〇

第四號表

學年	第一學年	第二學年	第三學年
教授及訓練科目 修身及公民科	二〇	二〇	二〇
普通學科	五〇	五〇	五〇
職業科 家庭科	一一〇	一一〇	一一〇
體操科	三〇	三〇	三〇
合計	二一〇	二一〇	二一〇

研究科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ

第二條 青年學校令第七條ノ規定ニ依リ特別ノ學歷又ハ素養ヲ有スル生徒ニ對シ課セサルコトヲ得ル科目ハ本科第三學年以上ノ普通學科及職業科トス

第三條 青年學校令第七條ノ規定ニ依リ教授及訓練科目ノ免除ヲ受ケントスルトキハ生徒ノ保護者ハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ青年學校長ニ其ノ旨申出ヅベシ

第四條 左ニ揭グル者青年學校令第七條ニ規定スル特別ノ學歷又ハ素養ヲ有スル者ト認定シタルトキハ之ヲ青年學校令第七條ニ規定スル特別ノ學歷又ハ素養ヲ有スル者ト認定シタル者

一 文部大臣ノ指定シタル者

二 地方長官ニ於テ青年學校令第七條ニ規定スル特別ノ學歷又ハ素養ヲ有スル生徒ト認定シタル者

第五條 左ニ揭グル施設ハ青年學校令第七條ニ規定スル施設ト認定シタル施設

一 文部大臣ノ指定シタル施設

二 地方長官ニ於テ青年學校令第七條ニ規定スル施設ト認定シタル施設

第六條 前二條ニ規定スル地方長官ノ認定ヲ受ケントスルトキハ第四條第二號ノ認定ニ在リテハ關係施設ノ、前條第二號ノ認定ニ在リテハ當該施設ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ

地方長官ニ申請スヘシ

一　目的
二　名稱
三　位置
四　學則又ハ規則
五　青年學校ニ於テ免除ヲ受ケントスル教授及訓練科目及期間
六　前號ノ教授及訓練科目ニ相當スヘキ科目、擔任教職員ノ氏名、資格及履歷
七　校地又ハ使用地ノ面積、校舍其ノ他建物ノ配置及附近ノ狀況ヲ記載シタル圖面

前項第一號乃至第四號ノ變更ハ豫メ之ヲ地方長官ヨリ開申スヘシ

第七條　地方長官ハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ認定シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

一　認定シタル者又ハ認定シタル施設
二　免除科目
三　第四條第二號又ハ第五條第二號ノ規定ニ依リ認定ヲ受ケタル施設位置、設立者及學則又ハ規則
四　認定ノ年月日

第八條　第三條ノ申出ニシテ第四條ノ規定ニ依リ指定若ハ認定セラレタル者又ハ第五條ノ規定ニ依リ指定若ハ認定シタル施設ニ於テ教育ヲ受クル者以外ノモノニ係ルトキハ學校長ハ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ稟申シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

一　生徒氏名、生年月日、所屬學年
二　科目ヲ免除セントスル事由

第九條　青年學校ニ於テ教科用圖書ヲ使用スル場合ニハ修身及公民科並ニ普通學科ニ在リテハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ又ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長ニ於テ之ヲ定メ地方長官ニ報告スヘシ

修身及公民科並ニ普通學科以外ノ教授及訓練料目ニ付教科用圖書ヲ使用スル場合ニハ豫メ地方長官ニ開申スヘシ但シ地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十條　青年學校ノ專修科ノ教授及訓練期間、入學資格、專修項目其ノ他必要ナル事項ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

專修科ニ於テハ專修科目ノ外修身及公民科ヲ課スヘシ

第十一條　青年學校ニ於テハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第二章　學生、教授及訓練ノ日時及式日

第十二條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十三條　青年學校ノ教授及訓練ハ晝間ニ於テ之ヲ行フ但シ土地ノ情況ニ應ジ午後九時ヲ過ギザル夜間ニ於テ之ヲ行フコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ教授及訓練ノ性質上特ニ夜間ニ於テ行フ必要アルモノニ付テハ之ヲ適用セス

第十四條 敎授及訓練ヲ行フヘキ日及時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第十五條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第十六條 非常變災其ノ他已ムヲ得ザル事情アルトキハ學校長ハ敎授及訓練ヲ行フ日ニ於テ之ヲ行ハサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ地方長官ニ報告スヘシ

第三章 就學

第十七條 青年學校ノ入學期ハ每年四月トス但シ特別ノ事情アル者ハ中途之ヲ入學セシムルコトヲ得

第十八條 國民學校高等科、高等學校尋常科、師範學校、中學校、高等女學校又ハ實業學校ノ中途退學者及國民學校高等科又ハ實業學校ノ卒業者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ入學セシムヘシ

一 國民學校高等科第一學年修了者ハ普通科第二學年、國民學校高等科修了者ハ本科第一學年

二 高等學校尋常科、中學校、高等女學校又ハ國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ普通科第二學年、同第二學年修了者ハ本科第一學年、同第三學年修了者ハ本科第三學年

三 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年又ハ三年ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ普通科第二學年、同第二學年修了者又ハ卒業者ハ本科第一學年、同第三學年卒業者ハ本科第三學年

四 國民學校高等科第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ本科第一學年、同第二學年修了者又ハ卒業者ハ本科第三學年

五 國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ本科第三學年

六 師範學校本科第一部第一學年修了者ハ本科第三學年

專門學校入學者檢定規程ニ依リ指定ヲ受ケタル學校又ハ高等女學校實科ノ各學年修了者ノ編入ニ關シテハ其ノ程度ニ應ジ前項ノ例ニ準スヘシ

前二項ノ規定ニ該當セサル者ニ付テハ其ノ年齡及學歷素養ニ應ジ青年學校ノ相當科ノ相當學年ニ入學セシムヘシ

第十九條 學校長ハ他ノ青年學校ヨリ轉學スル生徒アルトキハ之ヲ相當科ノ相當學年ニ入學セシムヘシ

第二十條 生徒ニシテ特別ノ事由ニ依リ他ノ青年學校ニ於テ敎授及訓練ヲ受クルコトヲ志望スル者アルトキハ學校長ハ其ノ生徒ヲシテ他ノ青年學校ニ於テ敎授及訓練ノ一部ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十一條 各學年ノ課程又ハ普通科、本科若ハ研究科ノ全課程ノ修了ニハ相當時數其ノ他平素ノ學修情況ヲ標準トシテ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 學校長ハ普通科ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證、本科ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證ヲ授與スヘシ

第二十三條 市町村長ハ其ノ市町村内ニ居住シ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ間ニ滿十三歳ニ達スヘキ男子ニシテ右期間ニ於テ青年學校ニ就學セシムヘキ者ヲ調査シ第五號表ノ樣式ニ依リ毎年一月末日迄ニ翌年度ノ義務就學者名簿ヲ編成スヘシ

前項ノ義務就學者名簿ハ國民學校令施行規則第六十七條ニ規定スル學齡簿ニ第六號表ノ樣式ニ依リ必要事項ヲ追加記入シテ之ニ代フルコトヲ得

第二十四條 市町村長ハ其ノ市町村ニ來住シ又ハ其ノ市町村義務就學者名簿（學齡簿ヲ代用シタルトキハ學齡簿以下同シ）ニ未登載ノ者ニシテ其ノ市町村内ニ居住シ青年學校ニ就學セシムヘキモノアルトキハ遲滯ナク之ヲ其ノ者ノ年齡ニ應シ義務就學者名簿ニ記入スヘシ

義務就學者名簿編製後三月末日迄ニ其ノ年四月ニ於テ青年學校ニ就學セシムヘキ者ニシテ其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキ亦前項ニ同シ

第二十五條 市町村長ハ義務就學者名簿ニ登載ノ者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアルトキハ遲滯ナク之ヲ抹消スヘシ但シ第三號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ義務就學者名簿ノ謄本、第二十三條第二項ノ規定ニ依リ學齡簿ヲ代用シタルトキハ青年學校ニ關スル部分ノ抄本ヲ其ノ者ノ轉住地ノ市町村長ニ送付シ次項ノ記入手續完了ノ通知アリタル後之ヲ抹消スヘシ

一　死亡シタルトキ

二　日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ

三　市町村外ニ轉住シタルトキ

前項但書ノ規定ニ依リ義務就學者名簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ遲滯ナク義務就學者名簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ本人ノ來住セサル旨ヲ通知スヘシ

第二十六條 市町村長ハ前二條ニ規定スルモノノ外義務就學者名簿ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第二十七條 市町村長ハ義務就學者ヲシテ青年學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ定メ豫メ其ノ保護者及義務就學者ニ通知スヘシ

第二十八條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ於テ市町村立青年學校二以上アルトキハ市町村長ハ前條ノ通知ヲ爲スニ當リ義務就學者ノ入學スヘキ青年學校ヲ指定スルコトヲ得但シ保護者ハ義務就學者ヲ入學セシメントスル青年學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ得

第二十九條 市町村長ハ前二條ノ規定ニ依リ通知シタル義務就學者ノ氏名、入學期日其ノ他關係事項ヲ關係市町村立青年學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後義務就學者ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第三十條 青年學校令第十四條ニ揭クル事由アルトキハ保護者ハ就學ノ免除又ハ猶豫ヲ市町村長ニ申出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ市町村長癲癇白痴又ハ不具癈疾以外ノ事由ニ因リ就學ヲ免除セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

市町村長就學ノ免除又ハ猶豫ヲ爲シタルトキハ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

就學猶豫ノ期間ハ當該學年ノ終迄トス但シ其ノ期間經過後仍就學猶豫ヲ必要トスル事由アルトキハ引續キ猶豫ヲ爲スヲ妨ケス

第三十一條 義務就學者ノ保護者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ關係施設ノ管理者若ハ設立者又ハ學校長若ハ之ニ該當スル者ノ承認書又ハ證明書ヲ添ヘ關係市町村長ニ屆出ツヘシ

一 義務就學者ヲ第二十八條ノ規定ニ依リ入學セシムヘキ學校以外ノ青年學校ニ入學セシメントスルトキ

二 義務就學者青年學校令第十五條ニ規定スル青年學校以外ノ施設ニ於テ教育ヲ受ケントスルトキ

義務就學者青年學校ニ在學スル場合ニ於テ他ノ青年學校ニ轉學セントスルトキ又ハ青年學校令第十二條第一號乃至第五號及第七號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ亦同シ

第三十二條 左ニ揭クル課程ハ青年學校令第十五條第一項ニ規定スル課程トス

一 文部大臣ノ指定シタル課程

二 地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル課程

第三十三條 前條第二號ノ認定ヲ受ケントスルトキハ當該施設ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則又ハ規則

五 認定ヲ受ケントスル課程

六 前號ノ課程ノ教科目ヲ擔任スル教員ノ氏名、資格、履歷及專任兼任ノ區別

七 校地又ハ使用地ノ面積、校舍其ノ他建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面

八 經費及維持ノ方法

認定ヲ受ケントスル課程ハ特別ノ事情アルモノヲ除クノ外第一條第一號及第三號表ニ揭クル各教授及訓練科目ノ最低時數以上ヲ各其ノ相當スヘキ科目ニ付課スルモノタルヲ要ス

第一項第一號乃至第二號ノ變更ハ豫メ之ヲ地方長官ニ開申スヘシ

第三十四條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 管理者又ハ設立者

五 學則又ハ規則

六 認定ヲ爲シタル課程

七 認定ノ年月日

第三十四條ノ二 地方長官ハ第三十二條第二號ノ規定ニ依リ認定シタル施設ノ教授及訓練設備其

ノ他ノ事項ニシテ教育上適當ナラズト認ムルトキハ之ガ變更ヲ命ジ又ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ニ違反シタルトキハ地方長官第三十二條第二號ノ規定ニ依リ與ヘラレタル認定ヲ取消スコトヲ得

第三十五條 市町村立青年學校長ハ第二十九條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル義務就學者中入學期日後十日以內ニ其ノ青年學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第三十六條 市町村立青年學校ニ在學スル義務就學者正當ノ事由ナク引續キ缺席シタルトキハ學校長ハ速ニ其ノ保護者ニ對シ生徒ノ出席スヘキ旨ヲ通知シ仍出席セサルトキハ關係市町村長ニ其ノ旨報告スヘシ

第三十七條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ保護者ニ對シ其ノ生徒ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セサルトキハ市町村長ハ地方長官ニ其ノ旨報告スヘシ

第三十八條 道府縣立青年學校又ハ私立青年學校ニ在學スル義務就學者正當ノ事由ナク引續キ缺席シタルトキハ學校長ハ速ニ其ノ保護者ニ對シ生徒ノ出席スヘキ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ通知ヲ爲スモ仍出席セサルトキハ學校長ハ地方長官ニ其ノ旨報告スヘシ

第三十九條 地方長官ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ保護者ニ對シ生徒ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第四十條 前四條ノ規定ニ依リ生徒ノ就學又ハ出席スヘキ旨ノ通知又ハ督促ヲ爲ス場合ニ於テハ當該生徒ニ對シテモ就學又ハ出席スヘキ旨ノ通知又ハ督促ヲ爲スヘシ

第四十一條 市町村立青年學校長ハ每學年ノ終ニ於テ本科、本科ヲ置カサル青年學校ニ在リテハ普通科ノ課程ヲ修了シタル義務就學者ノ氏名ヲ遲滯ナク關係市町村長ニ報告スヘシ

第四十二條 道府縣立青年學校又ハ私立青年學校ニ在學スル義務就學者本科、本科ヲ置カサル青年學校ニ入學シタル義務就學者本科、本科ヲ置カサル青年學校ニ在リテハ普通科ノ課程ヲ修了シタルトキ又ハ之ヲ修了セスシテ退學シタルトキハ學校長ハ其ノ旨關係市町村長ニ屆出ツヘシ

第四十三條 義務就學者私立青年學校又ハ第三十六條第二號ノ施設ニ在學スルトキハ地方長官ハ關係市町村長ヲシテ當該施設ニ付其ノ出席狀況ヲ調査セシムルコトヲ得

第四十四條 青年學校令第十二條第一號乃至第五號及第七號ノ一又ハ同第十五條ニ該當スル其ノ事實止ミタルトキハ義務就學者ノ保護者及關係施設ノ長ハ其ノ旨關係市町村長ニ屆出ツヘシ

第四十五條 義務就學者ヲ就學セシムル青年學校ニ於テハ義務課程ヲ設クヘシ

前項ノ青年學校ニシテ第一條ニ揭クル各學年ノ最低時數ヲ超ユル時數ノ課程ヲ設クル場合ニ於テハ義務課程ハ之ヲ其ノ課程中ニ於テ編制スルコトヲ得

第四十六條 學校長ハ義務就學者ノ義務課程履修ノ爲出席スヘキ日及時刻ヲ定メ豫メ之ヲ其ノ保護者及使用者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ每學年ノ始ニ於テ又ハ每學年二回若ハ三回ニ分割シテ之ヲ爲スヘシ

已ムヲ得サル事由アルトキハ學校長ハ第一項ノ日及時刻ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ保護者及使用者ニ通知スヘシ

前三項ノ通知ハ第四十八條ニ規定スル青年學校手帳ニ記載スルノ方法ニ依ルヲ妨ケス

第四十七條 青年學校令第九條ノ規定ニ依リ出席ヲ停止シタルトキハ學校長ハ當該生徒ノ保護者及使用者ニ其ノ旨通知スヘシ

第四十八條 青年學校ニ於テハ常時生徒ヲシテ青年學校手帳ヲ携帶セシムヘシ

前項ノ手帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 義務課程履修ノ爲出席スヘキ日及時刻竝ニ其ノ變更

二 入學、轉學、退學及就學ノ免除又ハ猶豫ニ關スル事項

三 青年學校令第七條及第八條ノ規定ニ依ル科目免除竝ニ同第九條ノ規定ニ依ル出席停止

四 教授及訓練科目別出席時數

五 其ノ他必要ナル事項

青年學校手帳ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十九條 義務就學者其ノ保護者ト居住地ヲ異ニスル場合ニ於テハ保護者ハ義務就學者ノ居住地ノ市町村長ニ左ノ事項ヲ届出ツヘシ

一 義務就學者ノ氏名、生年月日及居所

二 保護者ノ氏名及住所

前項ノ場合ニ於テ義務就學者ノ居住地ノ市町村長必要ト認ムルトキハ保護者ヲシテ本令ニ規定スル事項ヲ代理人ヲ置カシムルコトヲ得

第四章 教員

第五十條 公立青年學校ニハ公立學校職員制ニ定ムル職員ノ外生徒ノ教育ヲ擔任セシムル爲指導員ヲ置クコトヲ得

指導員ハ地方長官之ヲ囑託ス

指導員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第五章 設置

第五十一條 青年學校令第二十二條ノ規定ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ申請スヘシ

一 名稱
二 位置
三 學則
四 生徒概數
五 開校年月
六 經費及維持ノ方法

前項第一號、第二號及第五號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第二號ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、校舍其ノ他ノ建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記較シタル圖面ヲ添附スヘシ

第五十二條 青年學校ノ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 科竝ニ教授及訓練期間ニ關スル事項
二 教授及訓練科目竝ニ教授及訓練時數ニ關スル事項
三 教授及訓練ノ時期及時刻ニ關スル事項ノ大要
四 課程ノ修了及卒業ニ關スル事項
五 入學、退學等ニ關スル事項
六 其ノ他必要ナル事項

前項第一號及第二號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三號乃至第六號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ開申スヘシ

第五十三條 青年學校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ申請スヘシ

第五十四條 青年學校ノ設置者ヲ變更セントスルトキハ第五十一條第一項第一號乃至第四號及第六號ノ事項竝ニ變更ノ事由ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ關スル場合ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ學校ニ關スル場合ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ

第五十五條 青年學校令第二十一條ノ規定ニ依リ青年學校ヲ設置シタル法人ニ非サル社團ニシテ代表者ニ變更ヲ生シタルトキハ運滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ社團ニシテ代表者ニ曠缺ヲ生シタルトキハ社團ノ關係者又ハ學校長ニ於テ運滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

第五十六條 青年學校令第二十四條ノ規定ニ依リ設置スル青年學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ名稱及學則ヲ定ムヘシ

第五十一條第二項及第五十二條中名稱及學則ニ關スル規定ハ前項ノ名稱及學則ニ之ヲ準用ス

第五十七條 青年學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具其ノ他必要ナル設備ヲ設クヘシ

校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

第五十八條 青年學校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類概ネ左ノ如シ

一 青年學校ニ關係アル法令
二 學則、學校日誌及備品臺帳
三 職員ノ履歷書及出勤簿
四 生徒ノ學籍簿及出席簿
五 其ノ他地方長官ニ於テ定ムルモノ

前項ノ表簿ノ保存期間ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第五十九條 位置ノ變更ニ非サル校地ノ變更竝ニ校舍其ノ他ノ建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條　青年學校ハ學校、試驗場、講習所等ニ併設スルコトヲ得

第六十一條　青年學校ニハ土地ノ情況ニ依リ分教場ヲ設クルコトヲ得

第六章　學務委員

第六十二條　市町村、市町村學校組合、町村學校組合及學區ノ學務委員ノ員數ハ地方長官ノ定ム
ル所ニ依ル

第六十三條　學務委員ハ左ニ揭クル事項ニ付市町村長、市町村學校組合管理者、町村學校組合管
理者、區長竝ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述ス

一　就學ノ奬勵督促ニ關スルコト
二　就學ノ免除又ハ猶豫ニ關スルコト
三　設備ニ關スルコト
四　經費預算ノ調製ニ關スルコト
五　授業料ニ關スルコト
六　教授及訓練期間ニ關スルコト
七　教授及訓練時數ニ關スルコト

第六十四條　公民ヨリ出ツル學務委員ノ任期ハ四年トス
補缺ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第六十五條　學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第七章　雜　則

第六十六條　町村制ヲ施行セサル地域ニ於テ青年學校令ニ依リ難キ事項ニ關シテハ地方長官ハ文
部大臣ノ認可ヲ經テ別段ノ處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
青年學校規程ハ之ヲ廢止ス
青年學校ノ教科用圖書ハ當分ノ內第九條第一項ノ規定ニ拘ラス地方長官ノ認可ヲ經テ文部大臣ノ
檢定ヲ經サルモノヲ使用スルコトヲ得
第二十三條ノ規定ニ依ル義務就學者名簿ハ昭和十四年度ニ於テ就學セシムヘキ者ニ付テハ各條ノ
規定ニ拘ラス本令施行後一月以內ニ之ヲ編製スヘシ
本令施行ノ際現ニ公立青年學校ノ指導員ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ同手當又ハ
無給ヲ以テ各公立青年學校長ノ指導員ヲ囑託セラレタルモノトス
青年學校令附則第二項ノ青年學校ノ本科ノ各學年ニ於ケル教授及訓練時數ハ四百二十時以上トシ
各教授及訓練科目ニ付夫々第一條第三號表ノ第一學年ノ時數ヲ下ラサルモノトス

○青年學校令施行規則第四條第一號ノ規定ニ依ル指定

（昭和十四年六月二十九日文部省告示第三四號）

第八編　其ノ他

本科第三學年以上ニ於テ普通學科ヲ課セサルコトヲ得ル者
神宮皇學館普通科第三學年修了者
陸軍幼年學校第二學年修了者
高等學校尋常科第三學年修了者
中學校第三學年修了者
高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者
專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業者ニ付文部大臣ノ指定シタル學校ニシテ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスルモノノ第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスルモノノ第二學年又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスルモノノ第一學年ヲ修了シタル者青年學校本科第一學年及第二學年ニ於テ各普通學科二百十時以上ヲ修メタル者
修業年限三年ノ高等小學校ヲ卒業シ青年學校本科第二學年ニ於テ普通科二百十時以上ヲ修メタル者
高等學校高等科入學資格試驗規程ニ依ル試驗合格者
專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者
高等試驗令第七條ノ試驗合格者
普通試驗合格者
小學校准教員又ハ尋常小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

資源調査法

（昭和四年四月十二日法律第五十三號）

第一條 政府ハ人的及物的資源ノ調査ノ爲必要アルトキハ個人又ハ法人ニ對シ之ニ關スル報告又ハ實地申告ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ資源調査ノ範圍、方法其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 當該官吏又ハ吏員ハ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設立及遂行ニ必要ナル資源調査ノ爲必要ナル場所ニ立入リ、檢査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ證票ヲ携帶スベシ

第三條 工業的發明ニ依リ其ノ他特殊ナル業務上ノ秘密ニ屬スル事項又ハ設備ニシテ命令ニ定ムルモノニ付テハ第一條ノ報告若ハ實地申告ヲ命ジ又ハ前條ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲シ調査資料ノ提供ヲ求メ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 第一條ノ規定ニ依リ報告又ハ實地申告ヲ命ゼラレタル者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ於テ報告又ハ實地申告ヲ爲スノ義務ヲ有ス

第五條 第一條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告又ハ實地申告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告若ハ實地申告ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　第二條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サズ、若ハ虚僞ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第三條ノ規定ニ違反シタルトキ亦同ジ

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ罰前項ニ同ジ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年勅令第三百二十六號ヲ以テ昭和四年十二月一日ヨリ施行）

資源調査令（昭和四年十一月二十日勅令第三百二十九號改正昭和十六年二月勅令第二十六號）

第一條　內閣總理大臣ハ資源調査法ノ施行ヲ統轄ス

第二條　各省大臣ハ資源調査法第一條第二項ノ命令ヲ發セントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スベシ

第三條　各省大臣ハ別表ノ定ムル所ニ依リ定期ニ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル資源調査ヲ行ヒ內閣總理大臣ニ報告スベシ

第四條　各省大臣前條ノ資源調査ヲ行フニ付必要アリト認ムルトキハ關係各廳ニ對シ調査報告ヲ求ムルコトヲ得

第五條　各省大臣第三條ノ資源調査ヲ行フニ付第二條ノ規定ニ依ル命令ニ依ラズシテ必要ナル資源ヲ整備セントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スベシ

第五條ノ二　地方長官資源調査法第一條ノ規定ニ依ル命令ヲ發セントスルトキハ主務大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

主務大臣前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ內閣總理大臣ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第六條　內閣總理大臣人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ付必要アリト認ムルトキハ臨時ニ關係各廳ニ對シ資源ノ調査報告ヲ求ムルコトヲ得

第三條ニ規定スルモノニ關シ前項ノ調査報告ヲ求ムル場合ニ於テハ之ニ關スル同條ノ調査報告ヲ省略セシムルコトヲ得

第七條　資源調査法第二條ノ證票ハ別記樣式ニ依リ企劃院ニ於テ之ヲ交付ス

第八條　工業的發明ニ係リ其ノ特殊ナル業務上ノ秘密ニ屬スル事項又ハ設備ニシテ資源調査法第三條ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノニ付テハ主務大臣之ヲ指定ス

第九條　主務大臣資源調査法第一條ノ規定ニ依リ資源調査ヲ行フニ付必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市長、市制第六條第八十二條第三項ノ市ノ區長ハ町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ調査上必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第九條ノ二　資源調査ノ爲必要アルトキハ市、市制第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區長ハ町村

又ハ之ニ準ズベキモノニ資源調査員ヲ置クコトヲ得

資源調査員ハ地方長官之ヲ命ズ

資源調査員ハ名譽職トス主務大臣、地方長官又ハ市區町村長ノ指揮監督ヲ承ケ資源調査ノ調査ニ從事ス

資源調査員ハ名譽職トス主務大臣、地方長官又ハ市區町村長ノ指揮監督ヲ承ケ資源調査ノ調査票用紙ノ配付、調査票ノ募集其ノ他之ニ關連スル事務ニ從事ス

第九條ノ三 第五條ノ二及前條第三項ニ規定スル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ厚生大臣ニ在リテハ醫藥品其ノ他ノ衞生用物資ニ付テハ警察署長（臺灣ニ在リテハ廳長）トス

前條第三項中市區町村長トアルハ醫藥品其ノ他ノ衞生用物資ニ付テハ警察署長（臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東州廳長官之ヲ行フ

ハ群守、支廳長又ハ警察署長、南洋群島ニ在リテハ支廳長）トス

第十條 本令中各省主臣又ハ主務大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

テハ南洋廳長官之ヲ行フ

本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第九條ノ二ニ規定スル地方長官ノ職務ハ關東州ニ在リテハ關東州廳長官之ヲ行フ

第十一條 資源調査員又ハ其ノ職ニ在リタル者其ノ職務ノ執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ昭和四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勞務動態調査規則

（昭和十四年十一月二十八日厚生省令第三八號改正昭和十六年二月一日厚生省令第二號）

第一條 常時勞務者ヲ雇傭スル者（以下雇傭主ト稱ス）ハ勞務者使用ノ場所毎ニ毎年二回三月及九月各月末現在ヲ以テ勞務者ノ雇入、解雇、雇入豫定數其他勞務動態ニ關スル事項ニ付勞務者使用ノ場所ヲ管轄スル地方長官ニ報告ヲ爲スベシ

第二條 前條ノ報告ハ別表樣式ニ依ル勞務動態調査票用紙ニ依リ正副二通各翌月十日迄ニ勞務者使用ノ場所ヲ管轄スル市町村長ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第三條 交通至難ノ地ニ勞務者使用ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ地方長官ハ前條ノ報告期限ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第四條 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事故アルトキハ地方長官ハ區域ヲ限リ前二條ニ依ル報告期限ヲ延長スルコトヲ得

第五條 市町村長ハ豫メ勞務動態調査票用紙ヲ當該市町村內ニ勞務者使用ノ場所ヲ有スル雇傭主ニ交付スベシ

雇傭主前項ノ用紙ノ交付ヲ受ケザルトキハ勞務者使用ノ場所ヲ管轄スル市町村長ニ其ノ旨申出デ之ガ交付ヲ受クベシ

㊟勞務動態調査ニ關スル件

（昭和十六年九月十九日職業局總務課長通牒）

勞務動態調査ニ於テ報告スベキ勞務者ノ範圍ニ關シテハ累次通牒指示ニヨリ簡明ノコトト被存候處國民徵用令ニ依ル被徵用者、竝ニ國民勤勞報告隊ノ協力ヲ得タル場合ノ取扱ニ就テハ本調

査ノ趣旨ニ鑑ミ便宜左記ニ依リ爾今取扱相成様致度

一、勞務者徴用ニ依リ就職スル場合ハ現ニ雇傭セラルル勞務者當該就業場ニ於テ徴用セラレタル場合ヲ除クノ外雇入アリタルモノトシテ取扱フコト

二、現ニ雇傭セラルル勞務者現職ノ儘他ノ就業場ニ徴用セラレタル場合従前ノ就業場ニ於テハ解雇トシテ取扱フコト

三、被徴用者、徴用解除セラレタル場合ハ被徴用者ガ引續キ當該就業場ニ於テ就職スル場合ヲ除クノ外解雇アリタルモノトシテ取扱フコト

四、現ニ雇傭セラルル勞務者ニシテ現職ノ儘他ノ就業場ニ徴用セラレタル場合又ハ右被徴用者ガ徴用解除ニ依リ原職ニ復歸シタル場合ハソノ就業場ニ於テハ雇入トシテ取扱フコト

五、現ニ雇傭セラルル勞務者當該就業場ニ於テ徴用セラレタル場合ハ何レモ雇入、解雇トシテ取扱ハザルモノトスセラレ引續キ當該就業場ニ於テ就業スル場合ハ何レモ雇入トシテ取扱フコト

六、勤勞報國隊ノ協力ヲ受ケタル就業場ニ於テハ其ノ延人員ヲ「日傭勞務者延人員」欄ニ算入スルコト

問　毎年季節的ニノミ勞務者ヲ雇傭スル者ノ取扱如何

答　調査期日ニ於テ勞務者ヲ雇傭シ其ノ雇傭期間ガ引續キ三ケ月以上ニ亙ル者又ハ調査期日ニ於テ勞務者ヲ雇傭セザルモ調査期日ヲ基準トシテ過去六ケ月間ニ引續キ三ケ月以上勞務者ヲ雇傭シタル者ハ報告ノ義務アルモノトス、之ニ反シ農繁期、年末年始等繁忙期ニ於テノミ勞務者ヲ三ケ月未滿臨時雇傭スル場合ハ報告ヲ要セズ

問　酒造業等ニシテ毎年季節的ニ十一月ヨリ翌年二月迄四ケ月間ノミ勞務者ヲ雇傭スル者ハ、報告ノ義務アリヤ

答　然リ

問　私鐵會社ノ各驛又ハ電燈會社ノ發電所及變電所等ニ就テハ各々其ノ所在地市町村ニ於テ報告セシムルヲ本體トスルヤ

答　各就業場所在地ノ市町村毎ニ報告スルヲ本體トスルモ一人乃至二人ノ如ク少數ノ勞務者ヲ使用スル就業場ガ散在シ各就業場毎ニ報告セシムルコト困難ナルトキハ假令其ノ所在地ガ隣接數市町村ノ區域ニ亙ル場合ト雖モ便宜當該就業場ヲ統轄スル事務所ニ於テ取纏報告スルモ差支ナシ、但シ報告ノ重複ナキ樣關係者間ニ於テ聯絡スベシ

問　工場新設中ニシテ五月ヨリ勞務者雇入レノ豫定アル者ハ三月末調査ニ於テ報告ノ義務アリヤ

答　設立準備ニ從事スル事務所其ノ他ノ勞務者一人以上アラバ當然報告ノ義務アリ今後六ケ月間ノ雇入豫定人員ノ報告ヲ要ス、常傭勞務者ナキ場合ハ報告セシムル樣取扱ヒタシ

問　法人格ヲ有セザル各種團體ノ取扱如何

答　當該團體代表者ヨリ當該團體ニ於テ雇傭スル勞務者ニ付報告ヲ要スルモノトス

問　（イ）船員法第一條第一項第一號乃至第三號ニ規定スル船舶以外ノ船舶ニ乘組ムコック

給仕等ニシテ船舶所有者ニ雇傭セラルル者ハ調査ノ對象トナルヤ

（ロ）又船舶所有者以外ノ者ニ雇傭セラルル勞務者、例ヘバ船舶所有者以外ノ者ガ船内食堂ヲ經營スル場合其ノ雇傭勞務者タルコック、給仕等ハ調査ノ對象トナルヤ

（ハ）調査ノ對象トナルトセバ其ノ報告義務者及就業場所所在地如何

答（イ）船員法ノ船員ナルヲ以テ調査ノ對象ニアラズ

（ロ）船員法ノ船員ニアラザルヲ以テ調査ノ對象トナル

（ハ）報告義務者ハ食堂經營者ニシテ經營者ノ陸上事務所ヲ以テ就業場所所在地トス

問　船員法ノ船員ガ下船シタル場合ハ調査ノ對象トナルヤ

答　船員法ノ船員ニアラザルヲ以テ調査ノ對象トナル

問　船員法第六條ニ依ル船員手帳ヲ所持スル者ハ凡テ船員法ノ船員ト看做シ調査ノ對象ヨリ除外スルモ可ナリヤ

答　船員法施行規則第二十二條ノ規定ニ依リ船員法ノ船員以外ノ者ニシテ船員手帳ヲ所持スル者アルヲ以テ船員手帳ヲ所持スル者ヲ凡テ調査對象ヨリ除外スルコトハ不可ナリ

問　報告義務者ガ勞務者ナル場合ニ於テハ規則第十四條ニ該當セザル限リ之ヲ調査ノ對象トシテ雇傭人員中ニ算入スベキヤ

答　然リ

問　市町村長、助役、收入役ハ勞務者トシテ調査ノ對象トナルヤ

答　規則第十二條ニ依リ市町村ニ於テ吏員ヲ使用スル場合ハ當該吏員ニ付報告スル義務アルモ市町村長、助役、收入役ニ付テハ一般吏員ト異ナリ雇傭ニ準ズル使用關係ニ在ルモノト認メラレザルヲ以テ調査ノ對象ヨリ除外スルヲ適當トス

問　月俸百圓ノ事務從事者ハ規則第十四條ニ依ル調査範圍ヨリ除外サレルモノナリヤ

答　月俸百圓ノ事務從事者ハ「百圓ヲ超ユル者」ニアラザルヲ以テ調査對象トナル

問　（イ）學校ノ教職員等ハ勞務者トシテ調査ノ對象トナルヤ

（ロ）調査ノ對象トナルトセバ其ノ勞務者種別如何

答（イ）一、官立及道府縣立ノ學校ハ報告ヲ要セズ（規則第十三條參照）

二、市町村立學校ニ於テハ事實上管理スル者トシテ學校長ガ報告義務者トナリ（規則第十五條參照）、教職員及ビ規則第十四條ノ規定ニ該當スル者ヲ除キ他ノ者ハ凡テ報告ノ對象トナル

三、私立學校ニ於テハ規則第十四條ノ規定ニ該當セザル限リ雇傭セラルル者ハ凡テ調査ノ對象トナル

（ロ）教職員ハ凡テ教育ニ從事スルモノトシテ「事務從事者」トシ小使給仕等ハ「其ノ他ノ勞務者」トス

問　市町村立小學校代用教員ハ勞務者トシテ調査ノ對象トナルヤ

答　前項（イ）ノ二、教職員ニ該當スルモノトシテ調査ノ對象トナラズ

問　農會、產業組合等各種團體ノ會長、理事者等ハ勞務者トシテ調査ノ對象トナルヤ

答　理事者ノ地位ニ立ツモノトシテ認メラレ從ツテ雇傭關係ニ在リト認メ難キ者ハ調査ノ對

象トナラザルモノトス

問　公立學校ノ小使、給仕ハ調査ノ對象トナルヤ

答　市町村立學校ノ雇員、小使、給仕ハ調査對象トナルモ道府縣立學校ノ雇傭員ニハ適用ナシ（道府縣立學校雇傭員ニ付テハ別途ニ調査スルノ扱ナリ）

問　縣營印刷所、縣營電氣局從業員ハ調査ノ對象トナルヤ

答　本規則ハ道府縣ニ適用ナキヲ以テ調査ノ對象トナラズ別途ニ調査スル扱ナリ

問　工場等ニ於テ形式ハ日傭ナルモ同一人ヲ引續キ使用シ實質上常傭勞務者トヘ變ラザル場合ハ一般勞務者トシテ夫々該當欄ニ計上スルモ可ナリヤ

答　同一人ヲ引續キ三十日以上使用シ常傭勞務者ト同樣ノ關係ニ在ルモノト認メラルル場合ハ一般勞務者ト看做シ取扱フモノトス

問　會社、工場事務所等ニ於ケル炊事婦ノ勞務者種別如何

答　「一般勞務者」ノ「其ノ他ノ勞務者」トス

問　會社、工場等ニ於テ停年ニ依リ解雇サレタル者ハ減耗トスベキヤ

答　然リ

問　現在雇傭人員中引續キ三ケ月以上刑務所ニ收容中ノ者ハ五ノ欄「長期缺席人員」ニ計上スベキヤ

答　解雇セラレザル限リ御見込ノ通

問　町村農林技手タル農村指導員ハ「技術職員」ナリヤ

答　然リ

問　技術的知識ヲ有スル者カ技術ニ關スル統計報告等ノ事務ニ從事スル場合ハ其ノ勞務者種別如何

答　技術ニ從事スル者トシテ「技術職員」トス

第六條　市町村長報告期限迄ニ勞務動態調査票ヲ取纏メ報告期限後十日以內（地方長官ノ指定スル市町村ニ在リテハ十五日以內）ニ之ヲ當該市町村ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ提出スベシ

第七條　國民職業指導所長勞務動態調査票ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ五日以內ニ正票ヲ地方長官ニ提出スベシ

第八條　地方長官ハ勞務動態調査票ヲ集計シ厚生大臣ニ報告スベシ

第九條　厚生大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ第一條ノ規定ニ依ル報告ノ外全部又ハ一部ノ雇傭主ニ對シ勞務者ノ全部又ハ一部ニ付勞務動態ニ關スル報告ヲ命ズルコトアルベシ

第十條　市町村ノ區域ニ勞務動態調査員ヲ置ク

勞務動態調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ受ケ調査票ノ配付及蒐集ニ從事ス

第十一條　勞務動態調査員ハ地方長官之ヲ任免ス

勞務動態調査員ハ名譽職トス

第十二條　本則ハ市町村ニ於テ吏員ヲ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　本則ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セズ

第十四條　本則ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ調査ニ付テハ之ヲ適用セズ

一　船員法ノ船員
二　醫師、歯科醫師、藥劑師
三　獸醫師
四　年齢十二年未滿又ハ六十年以上ノ者
五　年俸又ハ月俸ヲ受ケ其ノ月額百圓ヲ超ユル事務從事者
六　其ノ他厚生大臣ノ指定スル者

第十五條　雇傭主自ラ勞務者使用ノ場所ノ管理ヲ爲サザルトキハ事實上之ヲ管理スル者ヲ以テ本則ノ雇傭主ト看做ス

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル時ハ雇傭主ノ事務所ヲ以テ本則ノ勞務者使用ノ場所ト看做ス

一　雇傭主勞務供給業者ナルトキ
二　勞務者ノ使用ノ場所一定セザルトキ
三　勞務者ヲ常時船舶內ニ於テ使用スルトキ

雇傭主同一勞務者ヲ二以上ノ場所ニ於テ使用スルトキハ主タル使用ノ場所ヲ以テ本則ノ勞務者使用ノ場所ト看做ス

第十七條　町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ本則中町村又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノ又ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

統計資料實地調査ニ關スル法律

（大正十一年四月十九日法律第五二號）
（昭和十五年三月法律第二號改正）

第一條　政府ハ農業、勞動及技術ニ關スル統計資料蒐集ノ爲必要アルトキハ特ニ期日ヲ定メ全國ニ涉リ又ハ一定ノ區域ヲ劃シテ本法ニ依ル實地調査ヲ行フコトヲ得

前項ノ實地調査ノ期日、範圍、方法其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　實地調査ニ依リテ蒐集シタル個個ノ資料ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三條　實地調査ニ關スル事務ニ從事シタル者其ノ職務執行ニ關シ知得タル個人、法人、組合又ハ其ノ業務ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條　實地調査ニ際シ調査ヲ忌避シ、申告ヲ拒ミ又ハ故意ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計若ハ威力ヲ用ヰテ實地調査ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

勞働技術統計調査令

（昭和十六年四月二日勅令第三百八十號）

（昭和十六年勅令第三百七十九號ニ於テ依ル場合ヲ含ム）

第一條 大正十一年法律第五十二號（昭和十六年勅令第三百七十九號ニ於テ依ル場合ヲ含ム）ニ基キテ政府ハ毎年六月十日現在ニ依リ勞働及技術ノ統計ニ關スル實地調査（勞働技術統計調査）ヲ行フ

各年ノ勞働技術統計調査ノ名稱ニハ之ヲ行フ年次毎ニ其ノ年號ヲ冠ス

第二條 調査ハ官營ニ屬セザル事業體ノ事業主、勞務者及技術者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付之ヲ行フ

一 常時五人以上ノ勞働者ヲ使用シ又ハ五人以上ノ勞働者ヲ使用スル設備ヲ有スル工業事業體（土木建築事業體ヲ除ク）又ハ鑛業事業體ノ事業主

二 延人員三百人以上ノ勞働者ヲ使用スル運輸事業體ノ事業主

四 前條ノ期日ニ於テ勞働者以外ノ勞務者十人以上ヲ使用スル事業體、運輸事業體、農業事業體、水產業事業體、船舶又ハ娛樂興行若ハ接客ニ關スル事業體ニ非ザルモノ（事務所商店）ノ事業主

五 前條ノ期日ニ於テ三十人以上ノ勞働者ヲ使用スル第一號乃至第三號ニ規定スル事業體ノ勞務者

六 第四號ニ規定スル事業體ノ勞務者

七 第一號乃至第四號ニ規定スル事業體ノ技術者

第三條 本令ニ於テ工業事業體ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業體ヲ謂フ

一 一定ノ場所ニ於テ物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝又ハ修理ノ事業ヲ營ムモノ（工場）

二 一定ノ場所ニ於テガス、電氣若ハ各種動力ノ發生、變更若ハ傳導ヲ爲ス事業又ハ水道ノ事業ヲ營ムモノ（ガス電氣水道事業體）

三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、破壞又ハ其ノ準備ノ事業ヲ營ムモノ（土木建築事業體）

四 船舶（木造船舶ヲ除ク）ノ解體ノ事業ヲ營ムモノ（船舶解體事業體）

本令ニ於テ鑛業事業體ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業體ヲ謂フ

一 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（採鑛事業體）

二 砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（砂鑛事業體）

三 土石ヲ採取スル事業ヲ營ムモノ（土石採取事業體）

本令ニ於テ運輸事業體ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業體ヲ謂フ

一 地方鐵道法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（地方鐵道）

二 軌道法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（軌道）

三 索道事業規則ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（架空索道）

四 自動車交通事業法ニ依ル旅客自動車運輸事業ヲ營ムモノ（乘合自動車運輸事業體）

五 自動車交通事業法ニ依ル旅客自動車運送事業ヲ營ムモノ（旅客自動車運送事業體）

六 自動車交通事業法ニ依ル貨物自動車運送事業ヲ營ムモノ（貨物自動車運送事業體）

七　小運送事業法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（小運送事業體）
八　前各號ノ事業以外ノ陸上運輸事業ヲ營ムモノ（其ノ他ノ陸上運輸事業體）
九　航空機ニ依リ旅客又ハ貨物ノ運送事業ヲ營ムモノ（航空輸送事業體）
十　回漕業ヲ營ムモノ（回漕事業體）

第四條　本令ニ於テ事業主ト稱スルハ事業體ヲ事實上管理スル者ヲ謂フ
本令ニ於テ勞務者ト稱スルハ他人ニ雇傭セラレ勞働ニ從事スル者（主トシテ家事ニ從事スル者ヲ除ク）ヲ謂フ
本令ニ於テ勞働者ト稱スルハ勞務者中小使、給仕、門衞及寫字、印字、電話交換、物品販賣、作業現場以外ノ運搬配達ニ關スル勞働其ノ他之ニ類スル勞働ニ從事スル者以外ノ者ヲ謂フ
本令ニ於テ技術者ト稱スルハ事業體ニ於テ現ニ技術ニ從事スル者（現技術者）、嘗テ技術ニ從事シタルコトアル者（元技術者）竝ニ內閣總理大臣ノ指定スル學歷ヲ有スル者及內閣總理大臣ノ指定スル資格ニ關スル試驗又ハ檢定ノ合格者ニシテ現技術者又ハ元技術者ニ非ザルモノ（技術能力者）ヲ謂フ

第五條　事業主ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス
一　事業體ノ所在地
二　事業體ノ名
三　事業ノ種類
四　勞務者現在數
五　一箇年ノ解雇勞務者（日々雇入ルル者ヲ除ク）數
六　一箇月ノ勞務者賃金支拂總額

勞務者ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス
一　氏名
二　男女ノ別
三　出生ノ年月日
四　卒業シタル（卒業セザル者ニ付テハ最後ニ修業シタルトス）國民學校（小學校其ノ他國民學校ニ準ズルモノヲ含ム）ノ所在地
五　配偶者ノ有無
六　教育ノ程度
七　職名
八　職歷
九　賃金
十　就業時間
十一　民籍

技術者ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス
一　氏名
二　男女ノ別

三　出生ノ年月日
四　現技術者、元技術者又ハ技術能力者ノ別
五　職名
六　教育

第六條　調査ハ各事業體ニ就キ之ヲ行フ但シ調査ノ際事業體ニ出勤セザル者ニ付テハ其ノ居所ニ就キ之ヲ行フコトヲ得

第七條　事業主ハ第五條第一項各號ノ事項ヲ、勞務者ハ同條第二項各號ノ事項ヲ申告スル義務アルモノトス

第八條　府縣知事ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域內ノ採鑛事業體及砂鑛事業體ヲ除キタル他ノ事業體ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第九條　鑛山監督局長ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域內ノ採鑛事業體及砂鑛事業體ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第十條　二以上ノ府縣又ハ鑛山監督局長ノ管轄區域ニ跨ル事業體ニ付テハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル府縣知事又ハ鑛山監督局長第八條又ハ前條ノ職權ヲ行フ

第十一條　府縣支廳長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域內ノ採鑛事業體及砂鑛事業體ヲ除キタル他ノ事業體ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第十二條　市町村長ハ採鑛事業體及砂鑛事業體ヲ除キタル他ノ事業體ニ在リテハ府縣知事（府縣支廳長ノ管轄區域內ノ町村長ハ府縣支廳長）、採鑛事業體及砂鑛事業體ニ在リテハ鑛山監督局長

ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ管轄區域內ノ事業體ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第十三條　調査ノ事務ノ執行ヲ指導セシムル爲必要アルトキハ府縣、鑛山監督局、府縣支廳又ハ市町村ニ勞働技術統計調査指導員ヲ置クコトヲ得

第十四條　調査ノ事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ勞働技術統計調査員及勞働技術統計副調査員ヲ置ク

第十五條　勞働技術統計調査指導員、勞働技術統計調査員及勞働技術統計副調査員ハ名譽職トス
知事又ハ鑛山監督局長ノ推薦ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第十六條　勞働技術統計調査指導員、勞働技術統計調査員及勞働技術統計副調査員故障アルトキハ市町村長ハ之ニ代ルベキ適當ノ者ヲ選任シ其ノ職務ヲ執行セシムベシ

第十七條　勞働技術統計調査員及勞働技術統計副調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ事業票用紙勞務票用紙及技術票用紙ノ配付、事業票、勞務票及技術票ノ蒐集、調査事項ニ關スル質問記入其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十八條　本令中府縣支廳、府縣支廳長、市町村竝ニ市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ各市、市長、區及區長ニ之ヲ適用シ府縣トアリ又ハ府縣知事トアルハ北海道廳又ハ北海道廳長官ヲ、府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳長ヲ、町村トアリ又ハ町村長トアルハ之ニ準ズベキモノヲ包含ス

第十九條　官營ニ屬スル工業事業體及鑛業事業體竝ニ政府管掌ノ郵便、電信及電話ノ事業ニ關シ

テハ本令ニ準ジテ其ノ調査ヲ行フ其ノ手續ハ主務大臣内閣總理大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二十條 第三條中鑛業法ノ適用ヲ受クル事業トアルハ朝鮮、臺灣、關東州及南洋群島ニ於テ、砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業トアルハ朝鮮、臺灣、關東州及南洋群島ニ於テ、軌道法ノ適用ヲ受クル事業トアルハ朝鮮、臺灣、關東州及南洋群島ニ於テ、索道事業規則ノ適用ヲ受クル事業トアルハ朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於テ、自動車交通事業法ニ依ル旅客自動車運輸事業トアルハ朝鮮、關東州、樺太及南洋群島ニ於テ、自動車交通事業法ニ依ル旅客自動車運送事業トアルハ朝鮮、關東州、樺太及南洋群島ニ於テ、自動車交通事業法ニ依ル貨物自動車運送事業トアルハ朝鮮、關東州、樺太及南洋群島ニ於テ、小運送業法ノ適用ヲ受クル事業トアルハ朝鮮、關東州、樺太及南洋群島ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル事業ニ準ズベキモノヲ謂フ

第四條第四項中内閣總理大臣トアルハ朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋廳長官又ハ南洋廳長官トス

第二十一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於テ必要アルトキハ各朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官又ハ南洋廳長官内閣總理大臣ノ承認ヲ受ケ第一條乃至第三條及第五條ノ規定ニ拘ラズ調査ノ時期範圍及事項ニ關シ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル勞働技術統計調査ノ執行ニ關シテハ第八條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セズ各朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官又ハ南洋廳長官ニ於テ内閣總理大臣ノ承認ヲ受ケ別ニ其ノ手續ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勞働技術統計調査施行規則

（昭和十六年四月二日 内閣令第六號）

第一條 勞働技術統計調査員及勞働技術統計副調査員其ノ職務ヲ執行スル期間ハ毎年六月一日ヨリ同月二十日迄トス

但シ調査事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事故ノ爲勞働技術統計調査員及勞働技術統計副調査員前條ノ期間内ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハザルトキハ市町村長ハ該事故アル事業體ニ限リ其ノ期間ヲ十日以内延長スルコトヲ得

第三條 事業體ノ所在地二以上ノ市町村ニ跨リ調査ニ關スル所屬分明ナラザルモノアルトキハ關係市町村長ハ協議ノ上其ノ所屬ヲ定ムベシ協議調ハザルトキハ工業事業體、土石採取事業體、運輸事業體及事務所商店ニ關シテハ府縣知事、採鑛事業體及砂鑛事業體ニ關シテハ鑛山監督局長之ヲ指定ス

第四條 事業票用紙ニシテ事務所商店竝ニ勞働技術統計調査令（以下令ト稱ス）第一條ノ期日ニ於テ勞働者三十人以上ヲ使用スル工業事業體、鑛業事業體及運輸事業體用ノモノ（第一種、

令第一條ノ期日ニ於テ勞働者三十人未滿ヲ使用スル工業事業體、鑛業事業體及運輸事業體用ノモノ（第二種）、勞務票用紙及技術票用紙ハ夫々別表第一號樣式甲、別表第一號樣式乙、別表第二號樣式及別表第三號樣式ニ依リ其ノ寸法ハ夫々昭和六年商工省告示第十一號ノ日本標準規格B列五番、同B列四番、同B列四番及同B列六番トス

第五條 事業主ハ事業票用紙ニ各調査事項ヲ記入シ署名又ハ捺印ノ上調査期日後五日以內ニ之ヲ勞働技術統計調査員ニ提出スベシ

第六條 勞働技術統計調査員又ハ勞働技術統計副調査員ハ勞務者又ハ技術者ニ就キ各調査事項ヲ問ヒ其ノ申告ニ基キ勞務票用紙又ハ技術票用紙ニ記入シ之ヲ勞務者又ハ技術者ニ示スベシ勞務者又ハ技術者ハ自己ノ勞務票又ハ技術票ノ記入事項ニ誤謬ナシト認メタルトキハ之ニ署名又ハ捺印スベシ

第七條 勞働技術統計調査員又ハ勞働技術統計副調査員ハ調査期日後五日以內ニ前條ノ事務ヲ完結スベシ

第八條 調査期日後五日ヲ經過スルモ居所不明其ノ他ノ事由ニ因リ調査不能ノ勞務者又ハ技術者アルトキハ勞働技術統計調査員又ハ勞働技術統計副調査員ハ勞務票用紙又ハ技術票用紙ニ「調査不能」ト記入スベシ

第九條 市町村長ハ調査漏ノ事業體アリト認メタルトキハ勞働技術統計調査員ヲシテ調査ヲ爲サシメ又ハ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ調査スベシ

第十條 令第十八條ノ規定ハ本規則ニ之ヲ準用ス

勞働統計每月調査令

（昭和十六年八月九日勅令第八〇九號）
（昭和十七年二月五日勅令第七六號改正）

第一條 勞働ニ關スル指數作成ノ爲大正十一年法律第五十二號ニ基キ政府ハ每月末日現在ニ依リ調査ヲ行フ

前項ノ調査ハ之ヲ勞働統計每月調査ト稱ス

第二條 勞働統計每月調査ハ官營ニ屬セザル左ノ事業體ニシテ府縣知事、鑛山監督局長又ハ海務局長ノ指定スルモノニ付之ヲ行フ

一 一定ノ場所ニ於テ物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝又ハ修理ノ事業ヲ營ムモノ（工場）

二 一定ノ場所ニ於テガス、電氣若ハ各種動力ノ發生、變更若ハ傳導ヲ爲ス事業又ハ水道ノ事業ヲ營ムモノ（ガス電氣水道事業體）

三 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（採鑛事業體）

四 砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（砂鑛事業體）

五 地方鐵道法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（地方鐵道）

六 軌道法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（軌道）

七 自動車交通事業法ニ依ル旅客自動車運輸事業ヲ營ムモノ（乘合自動車運輸事業體）

八 自動車交通事業法ニ依ル貨物自動車運送事業ヲ營ムモノ（貨物自動車運送事業體）

九 小運送業法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ムモノ（小運送事業體）

十 船舶法ノ適用ヲ受クル船舶ニ依リ海上運輸事業ヲ營ムモノ（船舶運輸事業體）

前項ノ規定ニ依ル指定ハ同項第一號、第二號又ハ第五號乃至第九號ニ揭グル事業體ニ在リテハ
府縣知事、同項第三號又ハ第四號ニ揭グル事業體ニ在リテハ鑛山監督局長、同項第十號ニ揭グ
ル事業體ニ在リテハ海務局長之ヲ行フ

第三條 前條第一項第一號乃至第四號ニ揭グル調査事業體ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス但シ第四號
ニ揭グル事項ハ同項第三號又ハ第四號ニ揭グル調査事業體ニ限リ之ヲ調査ス

一 事業體ノ所在地
二 事業體ノ名
三 事業ノ種類
四 勞働者數
　イ 前月ノ調査期日現在數
　ロ 一箇月ノ雇入數
　ハ 一箇月ノ解雇數
　ニ 調査期日現在數
　ホ 一箇月ノ延就業人員
　ヘ 一箇月ノ延工數
五 賃金
六 就業時間
　イ 一箇月ノ延實就業時間

　ロ 一日ノ所定就業時間
　　內所定休憩時間
　ハ 一箇月ノ實際作業日數

前條第一項第五號乃至第九號ニ揭グル調査事業體ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス

一 事業體ノ所在地
二 事業體ノ名
三 事業ノ種類
四 勞働者數
　イ 前月ノ調査期日現在數
　ロ 一箇月ノ雇入數
　ハ 一箇月ノ解雇數
　ニ 調査期日現在數
　ホ 一箇月ノ延就業人員
五 賃金
六 就業時間
　イ 一日ノ平均所定就業時間
　　內平均所定休憩時間
　ロ 一箇月ノ平均就業日數

前條第一項第十號ニ揭グル調査事業體ニ付テハ船舶法ノ適用ヲ受ケ海上運輸ニ從事スル船舶ニ關シ船舶每ニ左ノ事項ヲ調査ス

一　事業體ノ所在地
二　事業體ノ名
三　船名
四　航行區域
五　乘組普通船員數
　イ　前月ノ調査期日現在數
　ロ　一箇月ノ雇入數
　ハ　一箇月ノ解雇數
　ニ　調査期日現在數
　ホ　一箇月ノ延乘組人員
六　給料
七　勤務時間
　イ　一日ノ平均所定勤務時間
　　內平均所定休憩時間
　ロ　一箇月ノ平均勤務日數

第四條　第一條第一項ノ期日現在ニ依リ前條ノ事項ヲ調査スルコト適當ナラズト認ムル調査事業體ニ付テハ同項ノ期日ニ代ヘ指定官廳（第二條ノ規定ニ依リ當該事業體ヲ指定シタル府縣知事鑛山監督局長又ハ海務局長ヲ謂フ以下同ジ）ガ別ニ指定スル日現在ニ依リ調査ヲ行フ

第五條　調査期日ニ休業スル調査事業體ニシテ前月ノ調査期日ノ翌日ヨリ引續キ休業中ノモノニ關シテハ其ノ月分ノ調査ヲ行ハズ

調査事業體ニシテ天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ調査ヲ行フコト能ハズト指定官廳ニ於テ認ムルモノニ關シ亦前項ニ同ジ

第六條　事業主（調査事業體ヲ事實上管理スル者ヲ謂フ以下同ジ）ハ內閣總理大臣ノ定ムル所ニ依リ第三條第一項各號ノ事項、同條第二項各號ノ事項又ハ同條第三項各號ノ事項ヲ申告スル義務アルモノトス

第七條　調査事業體ガ第五條第一項ノ規定ニ該當スルモノナルトキハ事業主ハ調査期日後五日以內ニ其ノ旨ヲ指定官廳ニ報告スベシ

第八條　調査事業體ノ所在地、名若ハ事業ノ種類ニ付變更アリタルトキハ事業主ハ直ニ其ノ旨ヲ指定官廳ニ報告スベシ

第九條　府縣知事ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ第二條第一項第一號、第二號又ハ第五號乃至第九號ニ揭グル事業體ノ調査ニ關スル事務ノ執行ヲ管掌ス

第十條　鑛山監督局長ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ第二條第一項第三號又ハ第四號ニ揭グル事業體ノ調査ニ關スル事務ノ執行ヲ管掌ス

第十一條　海務局長ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ第二條第一項第十號ニ揭グル事業體ノ調査ニ關ス

ル事務ノ執行ヲ管掌ス

第十二條 二以上ノ府縣又ハ鐵山監督局若ハ海務局ノ管轄區域ニ跨ル事業體ニ付テハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル府縣知事、鐵山監督局長又ハ海務局長第九條、第十條又ハ前條ノ職權ヲ行フ

第十三條 內閣總理大臣ノ指定スル官營ニ屬スル工場、國有鐵道（之ニ關聯スル國營自動車ヲ含ム）並ニ政府管掌ノ郵便、電信及電話ノ事業ニ關シテハ各其ノ主務大臣本令ニ準ジテ其ノ調査ヲ行フ其ノ手續ハ主務大臣內閣總理大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十四條 本令中府縣知事トアルハ北海道廳長官ヲ包含ス

附　則

本令ハ昭和十六年十一月三十日現在ニ依リ行フ勞働統計每月調査ヨリ之ヲ適用ス

勞働統計每月調査施行規則

（昭和十六年八月九日閣令第一七號）
（昭和十七年二月六日閣令第三號改正）

第一條 勞働統計每月調査令（以下令ト稱ス）第二條ノ規定ニ依リ府縣知事、鐵山監督局長又ハ海務局長ノ指定スベキ事業體數ハ別表第一號ノ定ムル所ニ依ル

第二條 事業主ハ每月令第三條第一項各號ノ事項、同條第二項各號ノ事項又ハ同條第三項各號ノ事項及調査ノ年月ヲ勞働每月調査票用紙ニ記入シ記名捺印ノ上令第二條第一項第一號、第二號又ハ第五號乃至第九號ニ揭グル調査事業體ノ事業主ニ在リテハ翌月十日迄ニ、同項第三號、第四號又ハ第十號ニ揭グル調査事業體ノ事業主ニ在リテハ翌月十五日迄ニ指定官廳ニ之ヲ提出ス

ベシ

前項ノ勞働每月調査票用紙ハ指定官廳ヨリ事業主ニ之ヲ交付ス

第三條 勞働每月調査票用紙ニシテ令第二條第一項第一號又ハ第二號ニ揭グル調査事業體用（工場及ガス電氣水道事業體用）ノモノ、同項第三號又ハ第四號ニ揭グル調査事業體用（採鑛事業體及砂鑛事業體用）ノモノ、同項第五號乃至第七號ニ揭グル調査事業體用（地方鐵道、軌道及乘合自動車運輸事業體用）ノモノ、同項第八號又ハ第九號ニ揭グル調査事業體用（貨物自動車運送事業體及小運送事業體用）ノモノ及同項第十號ニ揭グル調査事業體用（船舶運輸事業體用）ノモノハ夫々別表第二號樣式甲、別表第二號樣式乙、別表第二號樣式丙、別表第二號樣式丁及別表第二號樣式戊ニ依リ其ノ寸法ハ昭和六年商工省告示第十一號ノ日本標準規格B列五番トス

第四條 令第十四條ノ規定ハ本規則ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十六年十一月三十日現在ニ依リ行フ勞働統計每月調査ヨリ之ヲ適用ス

○陸軍防衛召集規則

（昭和十七年九月二十六日陸軍省令第五十三號）

第一章　總　則

第一條 本規則ハ防衛召集ニ關シ必要ナル事項ヲ定ム

防衛召集ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノヲ除クノ外陸軍召集規則ヲ準用ス

第二條 防衛召集トハ戰時又ハ事變ニ際シ防衛上必要アル場合ニ於テ在鄉軍人（待命、豫備、豫備役ノ將校及准士官、豫備役ノ下士官兵、歸休兵、補充兵ヲ謂フ以下同ジ）及國民兵役ノ下士官兵（徵兵終決處分ヲ經ザル者ヲ除ク以下同ジ）ヲ召集スルヲ謂フ

第三條 防衛召集ハ之ヲ防空召集及警備召集ニ分ツ

防空又ハ警備召集ハ防空又ハ警備召集待命令狀（第三樣式）ニ記載セル期間（概ネ一箇年ヲ標準トス）中ニ於テ防空又ハ警備ノ必要ニ應ジ召集シ又ハ召集ヲ解除スルモノトス

第四條 防空又ハ警備召集待命令狀ヲ受領セル者ハ其ノ令狀ニ記載セル期間中之ヲ防衛召集待命者、其ノ期間ヲ防衛召集待命期間ト稱ス

第五條 防衛召集ハ充員召集及臨時召集ノ實施ヲ妨ゲズ

防衛召集待命者ハ其ノ待命期間中陸軍大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外演習召集、敎育召集、歸休兵召集及簡閱點呼ヲ免ズ

第六條 防衛召集ノ應召者中兵種ヲ有セザル者ニハ新ニ兵種ヲ定ムルコトナシ

第七條 軍司令官又ハ師團長ハ必要ニ應ジ隷下ノ將校ヲ指定シ防衛召集ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得之ヲ防衛召集擔任官ト稱ス

軍司令官又ハ師團長ハ前項ノ外必要ニ應ジ官公吏、公共團體ノ長、工場事業場ノ長等ヲ指定シ防衛召集ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得之ヲ防衛召集取扱者ト稱ス但シ官公吏以外ノ者ニ付テハ其ノ擔任事務ハ兵役ニ關スル屆出ニ關スルモノニ限ル

第八條 軍司令官又ハ師團長ハ其ノ指定セル防衛召集擔任官及防衛召集取扱者ヲ關係者ニ通知ス

ベシ

第九條 防衛召集取扱者ハ防衛召集擔任官ノ指定スル範圍內（通勤者ニ在リテハ其ノ通勤先トス）ニ在ル在鄉軍人及國民兵役ノ下士官兵ニ付防衛召集擔任官ノ定ムル所ニ依リ在鄉軍人名簿（第一樣式）ヲ調製保管スベシ

前項ノ範圍內ニ在ル在鄉軍人及國民兵役ノ下士官兵ハ防衛召集取扱者ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ關スル屆出ヲ爲スベシ

第十條 防衛召集待命者ハ防空又ハ警備召集待命令狀受領後遲滯ナク防空又ハ警備召集待命者居住屆（第四樣式）ヲ防衛召集取扱者ヲ經テ防衛召集擔任官ニ差出スベシ爾後異動アル場合亦同ジ

第十一條 防衛召集待命者旅行セントスルトキハ防衛召集擔任官ノ定ムル所ニ依リ防空又ハ警備召集待命者旅行屆（第五樣式）ヲ防衛召集取扱者ヲ經テ防衛召集擔任官ニ差出スベシ

第十二條 防衛召集待命者疾病其ノ他家事ノ事情等ニ依リ一定ノ期間應召シ難キコトヲ豫メ豫察シ得ルトキハ防空又ハ警備召集待命者疾病（家事事故）屆（第六樣式）ニ疾病ニ在リテハ醫師ノ診斷書、家事事故ニ在リテハ防衛召集取扱者ノ證明ヲ添附シ防衛召集取扱者ヲ經テ防衛召集擔任官ニ差出スベシ

第十三條 防衛召集待命者離職、轉職、解雇、轉居、徵用又ハ徵用解除、充員（臨時）召集等ニ依リ第九條ニ規定スル者ニ該當セザルニ至リタルトキハ防空又ハ警備召集待命者事故屆（第七樣式）ニ防空又ハ警備召集待命令狀ヲ添ヘ防衛召集取扱者ヲ經テ防衛召集擔任官ニ屆出ヅベシ

防衛召集取扱者ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ屆ニ之ガ事實ヲ證明スル奥書ヲ附スベシ

第十四條 防衛召集擔任官前諸條ノ屆ヲ受理セルトキハ應召ニ關シ必要ナル事項ヲ書類ヲ以テ指示スベシ

第二章 召集準備

第十五條 軍司令官又ハ師團長ハ防衛召集待命者ト爲スベキ人員、階級、特業其ノ他必要ナル事項ヲ順序ヲ經テ達ス

第十六條 防衛召集擔任官前條ノ達ヲ受ケタルトキハ第九條ニ規定スル在鄉軍人名簿ニ依リ所要ノ人員ヲ選定シ防衛召集待命豫定者連名簿（第二樣式）ヲ順序ヲ經テ軍司令官又ハ師團長ニ進達スベシ

第十七條 軍司令官又ハ師團長ハ前條ノ連名簿ニ基キ所要ノ人員ヲ選定シ之ヲ其ノ本籍地所管ノ師團長ニ通報（二通トシ第二樣式ニ準ズ）スベシ

第十八條 本籍地所管師團長前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ニ之ヲ達シ其ノ召集準備ヲ命ズベシ

第十九條 聯隊區司令官前條ノ達ヲ受ケタルトキハ防空又ハ警備召集待命令狀及防空又ハ警備召集令狀（第八樣式）ヲ作リ防空又ハ警備召集待命者ノ現住地ヲ管轄スル軍司令官又ハ師團長ニ送付スベシ

第二十條 軍司令官又ハ師團長前條ノ規定ニ從リ防空又ハ警備召集待命令狀及防空又ハ警備召集令狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ順序ヲ經テ之ヲ防衛召集擔任官ニ送付シ防衛召集擔任官ハ防空又ハ警備召集令狀ニ在リテハ之ヲ防衛召集取扱者ニ送付スベシ

第二十一條 防衛召集取扱者前條ノ防空又ハ警備召集待命令狀ヲ受領セルトキハ之ヲ本人ニ交付スベシ但シ防衛召集取扱者官公吏以外ノ者ナルトキハ防衛召集擔任官防空又ハ警備召集待命令狀ヲ本人ニ交付スベシ

第二十二條 令狀ノ交付ヲ受ケタル者ハ該令狀ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印（應召員又ハ召集待命者ニ代リ受領シタル者ハ記名捺印）ノ上直ニ之ヲ返付スベシ

第三章 召集實施

第二十三條 防衛召集ノ實施ハ防空又ハ警備召集令狀ヲ以テ本人ニ通達ス但シ船舶ニ乘船シアル警備部隊ノ場合及緊急已ムヲ得ザル場合ニ在リテハ所要ニ應ジ防衛召集擔任官ノ口頭又ハ電話命令等ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

防衛召集待命者ハ召集令狀記載ノ日時ニ所定ノ場所ニ到著シ防衛召集擔任官又ハ其ノ指定セル者ニ屆出ヅベシ

第二十四條 前條ノ規定ニ依ルノ外防空ニ關スル警戒警報ノ發令アリタルトキハ防空召集令狀ヲ交付セラレタルモノト看做ス

防空召集待命者ハ防空召集待命令狀ニ記載ノ部隊ニ速ニ到著シ防衛召集擔任官又ハ其ノ指定セル者ニ屆出ヅベシ

第二十五條　召集部隊ノ長ハ應召員ノ到著ト共ニ之ヲ當該部隊ニ編入スルモノトス

第四章　召集解除

第二十六條　防衞召集ノ解除ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル但シ部隊ノ編制ニ對シ過剩ト爲ル者ハ召集部隊長ニ於テ直ニ召集ヲ解除スルコトヲ得

第二十七條　防衞召集待命者ノ防衞召集待命ノ解除ハ第十四條ノ規定ニ依ル解除ノ指示ヲ受ケタルトキ、防衞召集待命期間滿了セルトキ又ハ防衞召集待命期間滿了セザルモ防衞召集待命令狀ノ返還ヲ命ゼラレタルトキトス

防衞召集擔任官ハ軍司令官若ハ師團長ノ命ニ依リ又ハ防衞召集待命令狀ヲ返納セシムベシ但シ防衞召集取扱者官公吏以外ノ者ナルトキハ直接防衞召集待命者ヨリ返納セシムベシ

第五章　罰　則

第二十八條　正當ノ事由ナクシテ第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條及第十三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ昭和十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○俘虜派遣規則

（昭和十七年十月二十一日陸軍省令第五十八號）

第一條　本令ニ於テ俘虜ノ派遣ト稱スルハ俘虜ヲ勞務ニ服セシムル爲俘虜收容所外ニ派遣居住セシムルヲ謂ヒ派遣俘虜ト稱スルハ派遣セラレタル俘虜ヲ謂フ

第二條　工場、事業場等ニ於テ俘虜ノ派遣ヲ受ケントスル者ハ第六條乃至第十一條ノ規定ノ實施ニ關スル計畫書ヲ定メ之ヲ別紙樣式ノ願書ニ添附シ當該俘虜收容所ヲ管理スル軍司令官又ハ衞戍司令官（以下單ニ俘虜收容所管理長官ト稱ス）ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ計畫書ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三條　公共團體又ハ法人ノ願出ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第四條　俘虜ノ派遣ヲ許可セラレタル者（以下單ニ派遣俘虜使用者ト稱ス）ハ本令及第二條ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル計畫ノ實施ニ關シ俘虜ヲ差出シタル俘虜收容所長（以下單ニ俘虜收容所長ト稱ス）ノ指示ヲ受クベシ

第五條　派遣俘虜使用者ハ前項ノ實施ニ關シ隨時俘虜收容所長ノ巡視又ハ査閱ヲ受クベシ

第六條　派遣俘虜使用者ハ本令及第二條ノ規定ニ依リ俘虜收容所長ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第七條　派遣俘虜使用者ハ派遣俘虜ノ居住、取締ニ要スル設備ヲ整備維持スベシ

前項ノ設備ハ概ネ俘虜收容所ニ準ズルモノトス

第八條　派遣俘虜使用者ハ派遣俘虜ノ取締ノ爲所要ノ警戒員ヲ差出シ俘虜ヲ差出シタル俘虜收容

所（以下單ニ俘虜收容所ト稱ス）ヨリ派遣セラレタル職員ノ指揮ヲ承ケシムベシ

第八條 派遣俘虜使用者ハ派遣俘虜ノ勞務指揮ニ任ズベシ

第九條 派遣俘虜ノ糧食、寢具、煖室用薪炭、日用品、旅費（俘虜ノ派遣及復歸ニ要スル旅費ヲ含ム）其ノ他ノ給與ハ派遣俘虜使用者之ヲ擔當シ概ネ俘虜收容所ニ準ジタル給與ヲ爲スベシ但シ將校タル派遣俘虜及敵國軍衞生人員ノ俸給竝ニ俘虜著裝被服使用ニ堪ヘザルニ至リタルトキ之ニ貸與スベキ被服ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ外派遣俘虜使用者ハ派遣俘虜ノ勞務ニ要スル被服ヲ整備スベシ

第十條 派遣俘虜使用者ハ俘虜給與規則第十三條ニ定ムル金額（三十五錢以內ノ增給額ヲ含ム）ヲ基準トスル賃金ヲ俘虜收容所長ニ納付スベシ

第十一條 派遣俘虜ノ醫療ニ關シテハ派遣俘虜使用者之ヲ擔當スベシ但シ入院ヲ要スル派遣俘虜ノ收療ニ關シテハ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 派遣俘虜死亡シタルトキハ死亡ノ日ニ遡リテ俘虜收容所ニ復歸ノ手續ヲ爲スモノトス

第十三條 派遣俘虜使用者ハ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依リ日誌ヲ備ヘ派遣俘虜ニ關シ必要ナル事項ヲ記入スベシ

第十四條 派遣俘虜使用者ハ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依リ每月十日、二十日及月末ニ於テ派遣俘虜ノ狀況（勞務ノ成績、衞生狀態其ノ他主要ナル事項）ヲ俘虜收容所長ニ報告スベシ

第十五條 派遣俘虜使用者本令又ハ第二條ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル計畫ニ違反シタルトキハ俘虜收容所管理長官ハ俘虜派遣ノ許可ヲ取消スコトヲ得

前項ノ取消ニ由ル俘虜ノ復歸ニ要スル一切ノ費用ハ派遣俘虜使用者ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ派遣俘虜使用者ハ許可ノ取消ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ

第十六條 派遣俘虜使用者ハ本令ニ規定ナキ事項ヲ行フコトヲ得ズ

第十七條 本令ニ依リ俘虜收容所管理長官ト派遣俘虜使用者間ニ授受スベキ書類ハ俘虜收容所ヲ經由スベシ

第十八條 前諸條ノ規定ハ官廳ニ俘虜ヲ派遣スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙

（用紙適宜）

俘虜派遣許可願

年　月　日

住所
職業　氏名㊞
生年月日

何軍司令官（師團長）殿

左記ニ依リ俘虜派遣規則ニ依ル俘虜ノ派遣ヲ受ケ度候間御許可相成度別冊計畫書相添ヘ申請候他

左記

一、俘虜ノ員數
一、俘虜ノ使用場所
一、俘虜使用期間

○派遣俘虜取扱規則

（昭和十七年十月二十一日陸達第七十四號）

第一條　派遣俘虜ノ取扱ニ關シテハ俘虜派遣規則及本達ニ依ルノ外俘虜取扱規則、俘虜取扱細則、俘虜勞役規則及其ノ他ノ關係諸條規ニ依ル

第二條　俘虜收容所管理長官俘虜ヲ工場、事業場等ニ派遣セントスルトキハ俘虜勞役規則第四條及第五條、俘虜派遣規則及本達ノ定ムル所ニ依リ派遣俘虜ノ居住、取締、勞務、給與、醫療等ニ關スル事項ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三條　派遣俘虜ノ取扱ニ關シテハ俘虜派遣規則及本達ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外之ヲ差出シタル俘虜收容所長（以下單ニ俘虜收容所長ト稱ス）ニ於テ處理スルモノトス

第四條　俘虜收容所長俘虜ヲ派遣スルニ方リテハ其ノ有スル技能ノ外特ニ其ノ性質、思想、經歷等ニ就キ周密ナル調査、觀察ヲ爲シ逃走及不慮ノ災害等ノ豫防ニ努メ且派遣ニ先チ所要事項ニ關シ嚴肅ナル宣誓ヲ爲サシムルモノトス

第五條　俘虜收容所長俘虜ヲ派遣スルニ方リテハ所要ノ職員ヲ附シ派遣俘虜ノ取締警戒ニ任ゼシムルモノトス

第六條　派遣俘虜ノ取締ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルモノトス

一　特ニ取締警戒ヲ嚴重ニシ防牒ニ努ムルト共ニ派遣俘虜ノ逃走及不慮ノ災害等ヲ防止スルモノトス

二　派遣俘虜ノ外出ハ特別ナル事由アルニ非ザレバ實施セザルモノトス又外出ノ際ハ必ズ監視人ヲ附スルモノトス

三　派遣俘虜ノ發受スル電信及郵便物ハ總テ俘虜收容所長ヲ經由シ其ノ檢閱ヲ受クルモノトス

四　派遣俘虜ニ對スル面會及派遣場所ノ視察等ハ俘虜收容所長ヲ經テ俘虜收容所管理長官ノ許可ヲ得タルモノノ外之ヲ行ハシメザルモノトス

五　派遣俘虜自費ヲ以テ嗜好品其ノ他日用品等ヲ購入センコトヲ申出ヅルトキハ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

六　派遣俘虜ニ對シ金錢物品ヲ寄贈セントスル者アルトキハ俘虜收容所長ヲ經由シ其ノ檢查ヲ受クルモノヲ許可スルコトヲ得

派遣俘虜ヨリ金錢物品ヲ發送セントスルトキハ俘虜收容所長ヲ經由シ其ノ檢查ヲ受クルモノトス

第七條　俘虜收容所長ハ隨時派遣俘虜ニ對スル巡視又ハ查閱ヲ實施スルモノトス

第八條　俘虜收容所管理長官ハ派遣俘虜ノ交替ヲ命ジ又ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ派遣俘虜ノ增加若ハ復歸ヲ命ズルコトヲ得

機械技術者檢定令

（昭和十六年五月三十一日勅令第六百四十四號）

第一條　機械工作又ハ金屬加工ヲ行フ工場事業場ニ於ケル機械工作又ハ金屬加工ノ生產作業ニ從事スベキ技術者ノ需給ノ圓滑ニ資スル爲本令ニ依リ當該技術者タルニ須要ナル能力ノ檢定ヲ行フ

第二條　檢定ハ每年一回以上之ヲ行フ

第三條　檢定ハ筆記試檢、作業試檢及口頭試問ニ依リ之ヲ行フ

第四條　檢定ハ機械技術者檢定委員之ヲ行フ

第五條　機械技術者檢定委員ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ委員長、常任委員及臨時委員ヲ以テ之ヲ組織ス常任委員ハ二十人以內トス

第六條　委員長ハ厚生次官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル常任委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第七條　委員長ハ檢定ノ事務ヲ統理ス

第八條　常任委員ハ檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　臨時委員ハ作業試驗及口頭試問ノ事ヲ掌ル

第十條　機械技術者檢定主事一人ヲ置キ厚生大臣ノ奏請ニ依リ厚生省高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ檢定ニ關スル庶務ヲ整理ス

第十一條　機械技術者檢定常任書記及機械技術者檢定臨時書記ヲ置キ關係各官廳判任官ノ中ヨリ厚生大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　本令ニ定ムルモノノ外檢定ヲ受クル者ノ資格其ノ他檢定ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前昭和十五年厚生省令第八號機械技術者檢定規則ニ依ル檢定ニ合格シタル者ハ本令ニ依ル檢定ニ合格シタル者ト看做ス

機械技術者檢定令施行規則

（昭和十六年七月五日厚生省令第三五號）

第一條　檢定ノ期日、場所及出願期間ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二條　年齡二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ非ザレバ檢定ヲ受クルコトヲ得ズ

一　機械工作又ハ金屬加工ヲ行フ工場事業場ニ於ケル機械工作又ハ金屬加工ノ生產作業ニ五年以上從事シ且現ニ從事スル者

二　前號ノ生產作業ニ三年以上從事シ且現ニ從事スル者ニシテ受檢ニ付特ニ工場事業場ノ長ノ推薦シタルモノ

三　第一號ノ生產作業ニ五年以上從事シタル者ニシテ現ニ工場事業場技能者養成令ニ依ル養成施設、青年學校、國民職業指導所ノ職業補導施設其ノ他厚生大臣ノ指定スル養成施設ノ指導員其ノ他ノ敎職員タルモノ

前項ノ年齡及從事シタル年數ノ計算ニ付テハ受檢セントスル年ノ四月一日現在ヲ以テ計算スルモノトシ仍從事シタル年數ノ計算ニ付テハ月數ニ依リ計算シ從事シタル日數一月ニ充タザル場合ハ一月トシテ計算スルモノトス

第三條　筆記試驗ハ前期試驗及後期試驗ニ分チテ之ヲ行フ

第四條　前期筆記試驗ニ合格シタル者ニ非ザレバ後期筆記試驗ヲ受クルコトヲ得ズ

前期及後期筆記試驗ニ合格シタル者ニ非ザレバ作業試驗及口頭試問ヲ受クルコトヲ得ズ

第五條　前期筆記試驗ニ合格シタル者ニハソノ合格シタル年ノ翌翌年末迄ニ行ハルル檢定ニ限リ其ノ合格シタル試驗ヲ免除ス

前期及後期ノ筆記試驗ニ合格シタル者ニハ後期筆記試驗ニ合格シタル年ノ翌翌年末迄ニ行ハルル檢定ニ限リ筆記試驗ヲ免除ス

第六條　筆記試驗ハ左ノ事項ニ付之ヲ行フ

前期試驗　一、工業數學
二、工業理科
三、機科學
四、製圖
後期試驗　一、材料
二、一般工作法
三、電氣
四、工場管理常識

第七條　作業試驗ハ左ノ事項ニ付之ヲ行フ

一　製圖（專門作業ニ付機械設計作業ヲ選擇シタル者ニ付テハ仕上及組立作業）

二　左ノ專門作業中ヨリ受驗者ノ選擇シタル一專門作業

機械作業
仕上及組立作業
木型及鑄造作業
火造及熱處理作業
製罐及熔接作業
機械設計作業

三　工場事業場ニ於ケル一般作業常識

第八條　口頭試問ハ受驗者ガ國民常識其ノ他機械技術者タルニ須要ナル能力ヲ有スルヤ否ヤ考査スルニ必要ナル事項ニ付之ヲ行フ

第九條　檢定ヲ受ケントスル者ハ願書（樣式第一號）ニ左ノ書類ヲ添ヘ勤務地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ機械技術者檢定委員長ニ提出スベシ

一　履歷書（樣式第二號）

二　戶籍抄本

三　寫眞（手札形トシ、半身脫帽ニテ出願前一年內ニ撮影シ臺紙ニ貼附セス、裏面ニ氏名ヲ自署シタルモノ）

四　第二條第一號又ハ同條同項第三號ニ該當スル者ニ在リテハ現ニ勤務スル工場事業場又ハ養成施設ノ長ノ證明書（樣式第三號）、同條同項第二號ニ該當スル者ニ在リテハ現ニ勤務スル工場事業場ノ長ノ推薦書（樣式第四號）

第十條　檢定ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ五圓ヲ納付スベシ

第十一條　檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書（樣式第五號）ヲ付與シ且其ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十二條　合格證書ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更又ハ合格證書ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ合格證書ノ書換又ハ再交付ヲ機械技術者檢定委員長ニ出願スルコトヲ得

合格證書ノ書換又ハ再交付ヲ出願スル者ハ手數料トシテ一圓ヲ納付スヘシ

第十三條　不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケントシタル者又ハ本令ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ

其ノ試驗ヲ停止シ其ノ合格ヲ無效トス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ對シテハ三年以內ニ於テ期間ヲ定メ檢定ヲ受ケシメザルコトアルベシ

第十四條 手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ願書ニ貼附スベシ

既ニ納メタル手數料ハ何等ノ事由アルモ還付セズ

附　則

本令ハ昭和十六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

機械技術者檢定規則ハ之ヲ廢止ス

機械技術者檢定規則ニ依ル前期又ハ後期ノ筆記試驗ニ合格シタル者ハ本令ニ依ル前期又ハ後期ノ筆記試驗ニ合格シタル者ト看做ス

○大東亞戰爭ノ爲召集セラレタル者ノ機械技術者檢定受驗ノ特例ニ關スル件

（昭和十六年十月十四日厚生省令第四九號　改正昭和十七年五月四日厚生省令第二九號）

第一條 機械技術者檢定（以下檢定ト稱ス）ノ前期又ハ後期ノ筆記試驗ニ合格シタル者ニシテ大東亞戰爭ノ爲召集セラレタルニ因リ其ノ回ノ檢定ノ後期筆記試驗、作業試驗又ハ口頭試問ヲ受クルコト能ハザリシモノハ之ニ代ハルベキモノトシテ召集解除ノ年又ハ其ノ翌年ニ於テ行ハル檢定ノ中一回ニ限リ後期筆記試驗、作業試驗又ハ口頭試問ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ後期筆記試驗、作業試驗又ハ口頭試問ヲ受ケントスルモノハ大東亞戰爭ノ爲召集セラレタルコト及其ノ召集ヲ解除セラレタルコトヲ證スル書類（召集ノ種類及年月日並ニ召集解除ノ年月日ヲ記載シタル市町村長、聯隊區司令官、聯隊長等ノ證明書）及寫眞（手札形トシ半身脫帽ニテ出願前一年內ニ撮影シ臺紙ニ貼附セス、裏面ニ氏名ヲ自署シタルモノ）ヲ添ヘ檢定ノ出願期間中ニ機械技術者檢定委員長ニ書面ヲ以テ願出ヅベシ

第二條 規則第五條ノ規定ニ依リ前期又ハ後期ノ筆記試驗ヲ免除セラルル者ニシテ大東亞戰爭ノ爲召集セラレタルモノニハ同條ノ規定ニ拘ラズ尙召集解除ノ年ノ翌翌年末迄ニ行ハルル檢定ニ限リ前期又ハ後期ノ筆記試驗ヲ免除ス

第三條 規則第十條ノ規定ニ依リ手數料ヲ納メタル後大東亞戰爭ノ爲召集セラレタルニ因リ檢定ヲ受クルコト能ハザリシ者召集解除ノ年又ハ其ノ翌年ニ於テ檢定ヲ受ケントスル場合ニ於テハ一回ニ限リ手數料ヲ免除ス

第四條 第一條第三項又ハ第二條ノ規定ニ依リ前期又ハ後期ノ筆記試驗ノ免除ヲ受ケントスル者ハ規則第九條ノ受檢願書ニ其ノ旨ヲ記載シ尙大東亞戰爭ノ爲召集セラレタルコト及其ノ召集ノ解除セラレタルコトヲ證スル書類（召集ノ種類及年月日並ニ召集解除ノ年月日ヲ記載シタル市町村長、聯隊區司令官又ハ聯隊長等ノ證明書）ヲ添附スヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○機械技術者檢定施行要綱

（昭和十五年三月二十五日厚生省告示第五十八號）
（改正昭和十六年七月五日厚生省告示第二八八號）

第一　機械技術者檢定令ニ依ル機械技術者ノ檢定ハ受驗者ガ機械工作又ハ金屬加工ヲ行フ工場事業場ニ於テ其ノ生產作業ニ從事スル技術者即チ所謂現場技術者タルノ能力ヲ有スルヤ否ヤヲ考試セントスルモノニシテ其ノ試驗及試問ノ程度ハ概ネ工業學校（甲種程度）ヲ卒業シ工場事業場ニ於ケル實務ニ相當期間（四、五年）從事シ現ニ技術者タル者ノ通常保有スベキ實務的知識技能ト同程度タルモノトス

第二　筆記試驗ハ概ネ左ノ範圍ニ於テ主トシテ實際的問題ヲ選擇シテ之ヲ行フモノトス

一　工業數學
算術、代數、平面幾何初步及三角法初步

二　工業理科
物性、熱、光、水力學、原動機及無機化學

三　機械學
機械ノ要素、機械力學及材料力學

四　製圖
用器畫法及讀圖

五　材料
金屬材料、燃料及減磨劑

六　一般工作法
木型、鑄造、火造、製罐、熔接、械機工作及仕上組立

七　電氣
電氣回路、電動機、變壓器、電氣計器、開閉器及電氣照明

八　工場管理常識
工程管理、賃金、工場原價計算及安全管理

第三　作業試驗ハ製圖及專門作業ニ在リテハ概ネ左ノ範圍ニ於ケル作業ヲ行ハシメ且必要ニ應ジ實地ニ於テ作業ノ實際ニ付檢定委員ノ質問ニ答ヘシメ、工場事業場ニ於ケル作業常識ニ在リテハ實地ニ於テ一般作業ノ常識ニ付檢定委員ノ質問ニ答ヘシメ之ヲ行フモノトス

一　製圖
簡單ナル見取圖ノ作成（專門作業ニ付機械設計作業ヲ選擇シタル者ニ付テハ簡單ナル仕上及組立作業）

二　機械作業
旋盤、フライス盤、形削盤、平削盤、ボール盤及研磨盤作業ノ中一作業又ハ二作業

三　仕上及組立作業
ケガキ、鑢、タガネ及キサゲ作業

四　木型及鑄造作業
木型、原圖引キ、木取リ及平面削リ作業又ハ鑄型込作業
五　火造及熱處理作業
火造作業
六　製罐及熔接作業
原圖引キ、鉄打チ及塡隙作業又ハガス熔接作業若ハ電氣熔接作業
七　機械設計作業
機械及器具ノ設計製圖作業

第四　口頭試問ハ一般國民トシテ理會スヘキ常識問題其ノ他機械技術者トシテ理會スヘキ常識問題並ニ産業人トシテノ心掛等ニ付之ヲ行フモノトス

入營者職業保障法

（昭和六年四月二日法律第五十七號改正昭和十三年四月法律第六十二號）

第一條　何人ト雖モ被傭者ヲ求メ又ハ求職者ノ採否ヲ決スル場合ニ於テ入營（應召ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ命ゼラレタル者又ハ入營ヲ命ゼラルルコトアルベキ者ニ對シ其ノ故ヲ以テ不利益ナル取扱ヲ爲スベカラズ

第二條　雇傭者ハ入營ヲ命ゼラレタル被傭者ヲ解雇シタルトキ又ハ被傭者ノ入營中雇傭期間ノ滿了シタルトキハ其ノ者ガ退營（入營ノ際行フ身體檢査ノ結果歸鄉ヲ命ゼラレタル場合ヲ含ム）シタル日ヨリ三月以内ニ更ニ之ヲ雇傭スルコトヲ要ス但シ左ノ各號ニ揭グル事由ノ一ニ該當スルニ因リ解雇シ又ハ現ニ左ノ各號ニ揭グル事由ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　被傭者ガ入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超ユル期間服役ヲ志願シ採用セラレタルトキ

二　被傭者ガ第二項ニ規定スル通知ヲ爲サズ又ハ雇傭者ヨリ同項ニ規定スル通知ニ於テ勞務ニ就クベキ旨ヲ指定セラレタル日ヨリ故ナク二十日以内ニ勞務ニ就カザルトキ

三　被傭者ガ疾病又ハ傷痍ニ因リ勞務ニ堪ヘザルトキ

四　被傭者ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルトキ

五　被傭者ニ著シキ不良行爲アリタルトキ

六　雇傭ノ目的タル事業ノ廢止、終了又ハ著シキ整理縮少其ノ他之ニ準ズル事由アルトキ

雇傭者及被雇傭者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ規定スル雇傭ニ關シ必要ナル事項ヲ相互ニ通知スルコトヲ要ス雇傭者ハ第一項各號ニ揭グル場合ヲ除クノ外同項ノ規定ニ依リ雇傭シタル被傭者ヲ其ノ雇傭ノ日ヨリ三月以內ニ於テ民法第六百二十七條又ハ第六百二十八條ノ規定ニ依リ解雇スルコトヲ得ズ

第三條 前條第一項ノ規定ニ依リ退營者ヲ雇傭スル場合ニ於テ之ニ與フベキ勞務及給與ハ少クトモ其ノ者ノ入營直前ノ勞務及給與ト同等ノモノナルコトヲ要ス但シ被傭者ガ疾病又ハ傷痍ニ因リ入營直前ノ勞務ニ堪ヘザルトキ其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ之ト異ル勞務及給與ヲ與フルコトヲ妨ゲズ

第四條 前二條ノ規定ハ入營ヲ命ゼラレタル被傭者ガ解雇セラレザル場合ニ於ケル退營後ノ復職及取扱ニ付之ヲ準用ス

第五條 前三條ノ規定ハ雇傭者ガ常時三十人以上ノ被傭者ヲ使用スル場合ニ之ヲ適用ス

第五條ノ二 職業紹介事業ヲ行フ行政廳（船員職業紹介法第三條第二項ノ規定ニ依リ船員職業紹介事業ヲ行フ者ヲ含ム）ハ退營者ニシテ原職ナキモノ又ハ原職ニ復歸スルコト困難ナリト認ムルモノノ職業紹介ニ付テハ被傭者ヲ求メントスル者ニ對シ其ノ雇傭者タルニ適スト認ムル退營者ヲ優先シテ雇傭スルコトヲ慫慂スルコトヲ得

前項ノ規定ハ退營者ガ退營シタル日ヨリ三月ヲ經過シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六條 當該官吏又ハ公吏ハ第二條乃至第五條ノ規定ノ施行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當事者ニ對シ勸解ヲ爲スコトヲ得

前項ノ當該官吏又ハ公吏ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ適用ニ付テハ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズルモノノ被傭者ニシテ官吏又ハ公吏ニ準ジ取扱フコトヲ要スル者ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年勅令第二百六十號ヲ以テ昭和六年十一月一日ヨリ施行ス）

入營者職業保障法施行令

（昭和六年十月三十日勅令第二百六十一號）
（改正昭和十三年三月勅令第百三十五號）

第一條 入營者職業保障法第六條第二項ニ規定スル官吏又ハ公吏左ノ如シ

一　國ノ被傭者ニ關スル勸解ニ付テハ當該被傭者ヲ雇傭シタル者ノ直接上級ノ部局ノ長但シ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ屬スル官吏ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ定ムル官吏

二　道府縣又ハ市町村ノ被傭者ニ關スル勸解ニ付テハ當該被傭者ヲ雇傭シタル者ノ直接上級ノ監督官廳又ハ直接上級ノ部局ノ長

三　前二號ノ適用アル場合ヲ除キ船員法ノ適用アル船員ニ關スル勸解ニ付テハ遞信局長（朝鮮船員令ノ適用アル船員ニ關スル勸解ニ付テハ朝鮮總督府遞信局長）又ハ船員法第四十五條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ事務ヲ行フ市町村長、鑛業法ノ適用アル鑛業又ハ砂鑛業ニ從事スル鑛夫ニ關スル勸解ニ付テハ鑛山監督局長又ハ第四號ニ揭グル官吏若ハ公吏

四　前三號ニ揭グル者以外ノ被傭者ニ關スル勸解ニ付テハ地方長官、市町村長又ハ職業紹介所長

第二條　本令中道府縣、市町村又ハ地方長官、市町村長ニ關スル規定ハ道府縣、市町村又ハ地方長官、市町村長ニ準ズルモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ入營者職業保障法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年十一月一日ヨリ施行）

入營者職業保障法施行規則

（昭和六年十月三十一日內務、陸軍、海軍、遞信省令）
（改昭和十七年二月厚生、陸軍、海軍、遞信省令第一號）

第一條　被傭者（入營者職業保障法ノ適用アル被傭者ヲ謂フ以下之ニ同ジ）ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ書面ヲ以テ雇傭者ニ通知スベシ

一　入營スベキ期日及部隊定マリタルトキ

二　入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超ユル期間服役ヲ志願シ採用セラレタルトキ

三　傷痍疾病其ノ他ノ事由ニ因リ退營後再ビ雇傭セラルルコト又ハ復職スルコトヲ希望セザルトキ

第二條　被傭者ハ退營豫定期日前三月ヨリ退營後二十日以內（入營又ハ應召ノ際行フ身體檢查ノ結果歸鄉ヲ命ゼラレタル者並ニ臨時退職ヲ命ゼラレタル者ニ在リテハ退營後二十日以內）ニ左ノ事項ヲ書面ヲ以テ雇傭者ニ通知スベシ

一　退營豫定期日又ハ退營シタル日

二　退營後再ビ勞務ニ就キ得ベキ豫定期日

三　退營後ノ受信場所

被傭者前項ノ通知ヲ爲シタル後退營豫定期日ニ變更アリタルトキ又ハ前項第二號及第三號ノ事項ヲ變更スル必要ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク之ヲ雇傭者ニ通知スベシ

第三條　被傭者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ雇傭者ヨリ勞務ニ就クベキ旨ヲ指定セラレタル日ヨリ二十日以內ニ勞務ニ就クコト能ハザルトキハ速ニ其ノ事由ヲ書面ヲ以テ雇傭者ニ通知スベシ

一　疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキ

二　直系尊屬、妻又ハ直系卑屬ガ死亡シタルトキ又ハ重態ナルトキ

三　本人ト同一戶籍又ハ同一世帶內ニ在ル者死亡シ他ニ後始末ヲ爲ス者ナキトキ

四　本人ト同一戶籍又ハ同一世帶內ニ在ル者重態ニシテ他ニ看護ヲ爲ス者ナキトキ

五　本人ノ住家ノ火災、流失又ハ倒壞其ノ他重大ナル災害ヲ蒙リ他ニ後始末ヲ爲ス者ナキトキ

六　其ノ他前各號ニ揭グル事由ニ準ズル已ムヲ得ザル事由アルトキ

第四條　雇傭者ハ第二條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ書面ヲ以テ被傭者ニ通知スベシ

一　再ビ勞務ニ就カシメ得ベキ期日

二　入營直前ノ勞務又ハ給與ト異ナル勞務又ハ給與ヲ與フル場合ニ於テハ當該事項

三　其ノ他必要ト認ムル事項

第五條　雇傭者ハ入營者職業保障法第二條第一項第二號乃至第六號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ被傭者ヲ解雇シタルトキ又ハ被傭者ヲ再雇傭若ハ復職セシメ得ザルトキハ遲滯ナク其ノ事由ノ要旨ヲ書面ヲ以テ被傭者ニ通知スベシ

第六條　雇傭者ハ地方長官（船員法ノ適用アル船員ニ付テハ所轄海務局長）ニ對シ遲滯ナク左ノ事項ヲ書面ヲ以テ屆出ヅベシ

一　被傭者ニシテ入營ヲ命ゼラレタル者アルトキハ其ノ氏名、住所、勞務及給料

二　第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ勸解ヲ求メントスル者ハ

前項第一號ノ屆出ニハ事業ノ種類及被傭者ノ總數ヲ附記スベシ

第七條　雇傭者又ハ被傭者ニシテ入營者職業保障法第六條ノ規定ニ依リ勸解ヲ求メントスル者ハ入營者職業保障法施行令ノ定ムル所ノ當該官吏又ハ公吏ニ書面又ハ口頭ヲ以テ申出ヅベシ

附　則

本令ハ入營者職業保障法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年十一月一日ヨリ施行ス）

國民貯蓄組合法

（昭和十六年三月十三日法律第六十四號）
（改正昭和十七年三月法律第八十二號）

第一條　本法ニ於テ國民貯蓄組合トハ左ノ各號ノ一ニ揭グル者ヲ以テ組織シ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム）ニ於ケル國民貯蓄ノ增強ニ資スル爲組合員ノ貯蓄ノ斡旋ヲ爲スモノヲ謂フ

一　市町村（町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ）ノ一部ニシテ命令ヲ以テ定ムル區域內ニ居住スル者

二　官公署、學校、事務所、營業所、工場、事業場又ハ之ニ準ズベキモノニ勤務スル者

三　產業組合、商業組合、工業組合其ノ他同業者ノ組織スル團體ノ構成員

四　前各號ニ揭グル者ノ外命令ヲ以テ定ムル者

第二條　國民貯蓄組合ノ斡旋ヲ爲ス貯蓄ハ左ノ方法ニ依ルベシ

一　郵便貯金又ハ郵便年金ノ掛金若ハ簡易生命保險ノ保險料ノ拂込

二　銀行ヘノ預ケ金又ハ定期積金

三　信託會社ヘノ金錢信託

四　產業組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル產業團體ヘノ貯金

五　無盡會社ヘノ無盡ノ掛金ノ拂込

六　生命保險ノ保險料ノ拂込

七　國債、貯蓄債券又ハ報國債券ノ買入

八　地方債又ハ社債（特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券ヲ含ミ前號ニ揭グル債券ヲ除ク以下同ジ）ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ買入

九　其ノ他主務大臣ノ指定スルモノ

前項ノ貯蓄ノ斡旋ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ組合規約ヲ變更シタルトキ亦同ジ

國民貯蓄組合解散シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ

第四條　國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル銀行預金、產業組合貯金其ノ他ノ預金又ハ合同運用信託ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ元本ガ三千圓ヲ超エザルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ免除ス國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依リ買入レ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル國債、地方債又ハ社債ニシテ額面金額七千圓ヲ超エザルモノノ利子ニ付亦同ジ

前項ノ場合ニ於テ預金又ハ合同運用信託ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サルルトキハ元本ハ組合員每ニ其ノ預金又ハ合同運用信託ニ付之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ於テ國債ノ保管ノ委託又ハ登錄ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サルル場合ノ額面金額ノ計算ニ之ヲ準用ス

前三項ノ元本及額面金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第五條　政府ハ豫算ノ範圍內ニ於テ國民貯蓄組合ニ補助金又ハ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第六條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一條各號ノ一ニ揭グル者ニ對シ國民貯蓄組合ヲ組織スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第七條　主務大臣ハ國民蓄貯組合ノ代表者ニ對シ貯蓄ニ關シ報告ヲ爲サシメ、帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢查ヲ爲シ又ハ組合ノ代表者ノ改任其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條　主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

地方長官ハ前項ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村長（市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ）ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第九條　貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ貯蓄銀行法第一條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル場合ニ限リ同法第一條第一號又ハ第三號ニ揭グル業務ヲ營ムコトヲ得

所得稅法第十一條、第二十一條及第二十九條中銀行貯蓄預金ニ關スル規定ハ前項ノ規定ニ依リ受入レタル預金ニハ之ヲ適用セズ

第十條　貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スベシ

前條第二項ノ預金ヲ爲シタル者ハ其ノ預金ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付

他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ預金額ヲ限度トス

第十一條 國民貯蓄組合ノ代表者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ科料ニ處ス

第十二條 本法ニ規定スルモノノ外國民貯蓄組合ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第七百十號ヲ以テ昭和十六年六月二十日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ存スル團體ニシテ第一條各號ノ一ニ揭グル者ヲ以テ組織シ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム）ニ於ケル國民貯蓄ノ增强ニ資スル爲第二條ニ揭グル貯蓄ノ斡旋ヲ爲スモノハ之ヲ本法ノ國民貯蓄組合ト看做ス

前項ノ國民貯蓄組合ノ代表者ハ本法施行後三月以內ニ第三條第一項ノ規定ニ準ジ組合規約ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ

印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

九ノ二　國民貯蓄組合ノ代表者ガ組合ノ業務ニ關シ發スル金錢ノ委託若ハ信託行爲ニ關スル證書若ハ通帳又ハ委任狀

附　則（昭和十七年三月法律第八十五號）

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

國民貯蓄組合法施行規則

（昭和十六年六月十九日大藏省令第三十三號　改正昭和十七年七月大藏省令第五十六號）

第一條 國民貯蓄組合法（以下法ト稱ス）第一條第一號ノ隣保班又ハ之ニ準ズベキモノノ地域トス

第二條 法第一條第四號ニ規定スル者ハ左ニ揭グルモノトス

一　在鄉軍人會、青年團、少年團、婦人團體其ノ他之ニ準ズル團體ノ團員又ハ會員

二　學生、生徒又ハ兒童

三　宗教團體ノ檀徒、教徒又ハ信徒

三ノ二　道、府又ハ縣ノ一部ノ區域內ニ居住シ當該區域內ニ在ル銀行又ハ市街地信用組合（產業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合ヲ謂フ）ノ同一ノ店舖又ハ事務所ニ取引ヲ有スル者

四　其ノ他大藏大臣ノ指定スル者

第三條 法第二條第一項第四號ノ產業團體ハ、商業組合、工業組合、貿易組合、漁業協同組合及自動車運送事業組合トス

第三條ノ二 法第二條第一項第八號ニ規定スル命令ヲ以テ定ムルモノハ地方債又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル社債（特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券ヲ含ミ貯蓄債券及報國債券ヲ除ク以下同ジ）ヲシテ其ノ買入ノ日前一年以內ニ發行セラレタ

ルモノトス

一　元本ノ償還及利子ノ支拂ニ付政府ノ保證アルモノ

二　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ發行スルモノ

三　其ノ他大藏大臣ノ指定スルモノ

第四條　法第二條第一項第九號ノ規定ニ依ル貯蓄ノ方法トシテ勤務先ヘノ預ケ金及滿洲國債ノ買入ヲ指定ス

國民貯蓄組合ガ前項ノ預ケ金ノ斡旋ヲ爲サントスルトキハ組合長地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ當該勤務先ノ名稱、事業主、事業ノ種目及勤務者數並ニ當該組合ノ組合員數、貯蓄增加目標等ヲ記載シタル申請書ニ組合規約並ニ當該勤務先ガ會社ノ場合ニ在リテハ最終ノ貸借對照表及損益計算書ヲ添附シテ地方長官ニ提出スベシ

第五條　國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄ハ組合長各組各員ノ名義ヲ以テ之ヲ爲サシムベシ

前項ノ貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ハ各組合員ヲシテ之ヲ保管セシムベシ但シ法令又ハ組合規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ斡旋ニ依リ買入レタル有價證券ハ郵便官署、銀行若ハ信託會社ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外各組合員ヲシテ之ヲ保管セシムベシ但シ法令ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ代表者ノ名儀ヲ以テ貯蓄ヲ爲スコトヲ得

一　資本金千萬圓以上ノ法人ノ事務所、營業所若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ勤務者數常時千人以上ノ工場、事業場若ハ之ニ準ズベキモノニ於ケル組合ガ貯蓄ノ斡旋ヲ爲ストキ

二　組合長地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキ

前項第一號ノ貯蓄ノ斡旋ヲ爲サントスルトキ又ハ前項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ當該名儀人ノ住所、職業及氏名並ニ組合員數、貯蓄增加目標額、貯蓄ノ方法等ヲ記載シタル屆出書又ハ申請書ニ組合規約ヲ添附シテ地方長官ニ提出スベシ

第一項第二號ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ名儀人ヲ變更セントスルトキハ組合長地方長官ノ認可ヲ受クベシ但シ組合規約ニ於テ特定ノ資格ヲ有スル者ヲ組合ノ代表者ト定メ之ヲ名儀人ト爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

組合長ハ第一項ノ貯蓄ニ付別ニ帳簿ヲ備ヘ各組合員毎ノ計算ヲ明ニスベシ

第七條　組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ノ名儀ニハ國民貯蓄組合ノ組合員又ハ代表者タルコトヲ表示スベシ

第八條　法第三條第一項ノ規定ニ依ル組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　名稱及事務所ノ所在地

二　組合員タル資格ニ關スル規定

三　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

四　組合長其ノ他組合ノ代表者ノ選任及解任ニ關スル規定

五　貯蓄ノ方法及業務ノ執行ニ關スル規定

六　貯蓄計畫ニ關スル規定

第九條　國民貯蓄組合ハ其ノ名稱中ニ國民貯蓄組合ナル文字ヲ用フベシ

第十條　國民貯蓄組合ニハ之ヲ管理シ代表スル組合長ヲ置クコトヲ要ス

國民貯蓄組合ハ組合長選任ノ日ヨリ二週間以內ニ之ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ　組合長ノ解任ニ付亦同ジ

第十一條　國民貯蓄組合ハ組合員ノ貯蓄ノ斡旋及之ニ附隨スル業務以外ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第十二條　組合規約ハ國民貯蓄組合ノ組合員タラントスル者ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムベシ

組合規約ハ國民貯蓄組合ノ組合員數四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十三條　國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ組合長組合規約成立ノ日ヨリ二週間以內ニ組合規約ニ設立ノ年月日、組合員數、組合ノ斡旋ヲ爲ス貯蓄ノ見込金額等ヲ記載シタル書類ヲ添附シ地方長官ニ提出スベシ

國民貯蓄組合規約ヲ變更シタルトキハ組合長組合規約變更ノ日ヨリ二週間以內ニ其ノ內容ヲ記載シタル屆出書ヲ地方長官ニ提出スベシ

第十三條ノ二　銀行又ハ市街地信用組合ノ取引者ヲ以テ組織スル國民貯蓄組合（以下預金者貯蓄組合ト稱ス）ノ組合長ハ左ノ事項ニ付豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

一　當該組合ノ組合員タルベキ者ノ居住スル地域ノ範圍

二　當該組合ノ斡旋ヲ爲サントスル貯蓄ノ種類及條件

三　當該組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄ノ基準

前項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ組合長ノ職業及氏名竝ニ前項各號ノ事項、組合員數、貯蓄增加豫定額等ヲ記載シタル申請書ニ組合規約ヲ添附シ第三十五條ノ規定ニ拘ラズ地方長官ヲ經テ大藏大臣ニ提出スベシ

第十四條　國民貯蓄組合ハ其ノ斡旋ヲ爲サントスル貯蓄ニ付毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年間ノ貯蓄增加目標額ヲ定メ其ノ達成ニ必要ナル貯蓄計畫ヲ樹立スベシ

第十五條　國民貯蓄組合ノ組合長ハ其ノ斡旋ニ依ル各組合員毎ノ貯蓄現在高ヲ記載シタル組合貯蓄臺帳ヲ作成シ之ヲ事務所ニ備付クベシ

前項ノ組合貯蓄臺帳ニハ各組合ノ貯蓄スル金錢若ハ買入ルル有價證券ガ組合ヲ通ジテ授與セラルル場合又ハ貯蓄ニ關スル契約ガ組合ヲ通ジテ成立シ且貯蓄ノ拂戻若ハ有價證券ノ賣却ニ付組合長ノ同意ヲ要スル場合ノ貯蓄ニ限リ之ヲ記載スルモノトス

第十六條　國民貯蓄組合ノ組合長ハ九月及翌年三月ノ各月末現在ニ依リ組合員數及貯蓄金額等ヲ記載シタル國民貯蓄組合現況報告書ヲ各翌月十五日迄ニ地方長官ニ提出スベシ

第十七條　國民貯蓄組合ヲ解散シタルトキハ組合長解散ノ日ヨリ二週間以內ニ解散ノ年月日、解散ノ事由及各組合員ノ貯蓄ノ處理方法等ヲ記載シタル解散屆ヲ地方長官ニ提出スベシ

第十八條　法第四條ノ規定ニ依リ利子又ハ利益ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受クル預金、合同運用信託、國債、地方債又ハ社債ノ第二十條各號ニ規定スルモノニシテ左ノ要件ヲ備フルモノナルコトヲ要ス

一　組合員數常時十人以上ヲ有スル國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ルモノナルコト

二　第十五條ノ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルベキモノナルコト

前項第一號ノ組合ハ每年一回同號ニ該當スルモノナルコトヲ證スル市町村長（市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノヲ以下同ジ）ノ證明書ヲ利子又ハ利益ノ支拂者ニ提出スベシ但シ陸海軍ノ官衙（學校ヲ含ム以下同ジ）又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ當該官衙ノ長其ノ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ指定スル者又ハ當該工場事業場ヲ管理スル官衙ノ長若ハ其ノ代理官ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スルモノトス

第十九條　法第四號第一項ノ其ノ他ノ預金ハ商業組合、工業組合、貿易組合、漁業協同組合又ハ產業組合貯金、前條ノ貯金、合同運用信託、國債、地方債又ハ社債ハ左ニ揭グルモノナルコトヲ要ス

一　契約期間二年以上ノ定期預金（契約ノ更新ニ依リ二年以上ノ期間繼續スベキコトヲ約シタル定期預金ヲ含ム）

二　拂戻ニ付期限ヲ定ムル預金契約ノ期間二年以上ニシテ最終ノ預ケ入ノ時ヨリ拂戻ノ期限ニ至ル期間一年以上ナルコトヲ約シタル据置貯金

三　信託期間三年以上ノ合同運用信託

四　國民貯蓄組合ヲ通ジテ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル三分半利國債ニシテ二年以上ノ期間其ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約シタルモノ

五　國民貯蓄組合ヲ通ジテ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル地方債又ハ社債ニシテ二年以上ノ期間其ノ交付若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約シタルモノ

第二十一條　法第四條第一項ノ元本額ハ支拂ヲ受クベキ預金ノ利子金額又ハ合同運用信託ノ利益金額ヲ年額ニ換算シタルモノヲ當該預金又ハ合同運用信託ノ年利率又ハ年利率ニ相當スル利率若ハ收益交付率ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

第二十二條　同一ノ組合員ガ二口以上ノ第二十條第一號乃至第三號ノ預金又ハ合同運用信託ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ此等ノ銀行預金、貯蓄銀行預金、產業組合貯金、第十九條ノ貯金又ハ合同運用信託ヲ各別ニ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

同一ノ組合員ガ同一ノ郵便貯金通帳ヲ以テ保管ノ委託ヲ爲シタル二以上ノ第二十條第四號ノ國債ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ額面金額ハ各國債ノ額面金額ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス同一組合員ガ登錄シタル二以上ノ第二十條第四號ノ國債ヲ有スル場合亦同ジ

同一ノ組合員ガ二以上ノ第二十條第五號ノ地方債ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ額面金額ハ各地方債ノ額面金額ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス同一ノ組合員ガ二以上ノ第二十條第五號ノ社債ヲ有スル場合亦同ジ

第二十二條ノ二　同一人ガ預金者貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル二口以上ノ第二十條第一號又ハ第二號ノ預金ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ銀行預金、貯蓄銀行預金又ハ產業組合貯金ヲ各

別ニ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

第二十三條 法第四條第一項ノ規定ニ依リ預金、合同運用信託又ハ國債ガ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルルモノナルコトヲ證スル組合長ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スベシ

所得稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ當該預金、合同運用信託又ハ國債ノ利子又ハ利益ニ付分類法第四條第一項ノ規定ニ依リ地方債又ハ社債ノ利子ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスル組合員ノ名儀ヲ以テ爲サルルモノナルコト及各組合員ノ當該地方債又ハ社債ガ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルルモノナルコトヲ證スル組合長ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スベシ

第二十四條 國民貯蓄組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ預金若ハ合同運用信託ヲ爲シ又ハ國債、地方債若ハ社債ノ保管ノ委託若ハ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ法第四條第一項ノ規定ニ依リ分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ各組合員別ノ明細書（地方債又ハ社債ニ關スルトキハ他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額ヲ附記スベシ但シ一組合員ノ支拂者毎ノ貯蓄現在高（地方債又ハ社債ニ關スルトキハ他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額ヲ合算シタルモノ）ガ二千五百圓未滿ノモノニ付テハ其ノ組合員數及貯蓄ノ合計金額ノミヲ記載スルヲ以テ足ルモノトス

第二十五條 法第四條第一項ノ規定ニ依リ預金又ハ合同運用信託ノ利子又ハ利益ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケタル者ガ其ノ契約ノ日ヨリ二年以內（合同運用信託ノ場合ハ當該信託契約ノ日ヨリ三年以內）ニ於テ全部又ハ一部ノ元本ノ拂戻ヲ受クルトキハ當該元本ヨリ生ジタル利子又ハ利益ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケタル分類所得稅額ニ相當スル金額ヲ其ノ拂戻ノ際支拂者ニ於テ徵收スベシ

前項ノ場合ニ於テ拂戻ヲ受クル元本ニ付拂戻ノ際未ダ支拂ヲ僞サザル利子又ハ利益アルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ分類所得稅ノ免除ハ之ヲ爲サズ

前二項ノ規定ハ法第四條第一項ノ規定ニ依リ國債、地方債又ハ社債ノ利子ニ付分類所得稅ノ免除ヲ受ケタル者ガ其ノ保管ノ委託又ハ登錄ノ日ヨリ二年以內ニ當該國債、地方債又ハ社債ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 國民蓄貯組合法第五條ノ規定ニヨリ補助金又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ガ收支計算ヲ明ニスベシ

第二十七條 大藏大臣法第六條ノ規定ニ依リ國民貯蓄組合ノ組織ヲ命ズル場合ニ於テハ組合ヲ組織スベキ者ノ範圍及組織スベキ期限ヲ指定シタル命令書ヲ組合員タルベキ者ニ送付ス

第二十八條 法第七條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢查ヲ爲ス當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス別記樣式ニ依ル證票ヲ携帶スベシ

第二十九條 國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル合同運用信託ニ限リ信託業法施行細則第八條ノ規定ニ依ル制限ハ之ヲ三百圓未滿トス

第三十條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行法第一條第一項第一號又ハ第三號ニ揭ゲル業務ヲ營マントスルトキハ業務ノ種類及方法ヲ記載シタル屆出書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

貯蓄銀行法施行細則第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ屆出書ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行前條ノ業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セントスルトキハ其ノ內容及事由ヲ記載シタル書面ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

第三十二條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ預金ヲ受入レタルトキハ別ニ帳簿ヲ備ヘ其ノ元利ノ受拂ニ關スル事項ヲ記載スベシ

第三十三條 貯蓄銀行法第九條第三項及貯蓄銀行法施行細則第五條乃至第八條ノ規定ハ法第十條第一項ノ規定ニ依ル國債ノ供託ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 銀行法施行細則第二十九條ノ規定ハ第三十五條、第三十六條並ニ前條ノ規定ニ於テ準用スル貯蓄銀行法施行細則第七條及第八條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行ニ非ザル銀行ノ大藏大臣ニ提出スベキ書類ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 國民貯蓄組合ノ提出スベキ書類ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外之ヲ一通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出スベシ

一　陸海軍ノ官衙ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成シ大藏大臣ニ提出スベシ

二　工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成シ大藏大臣ニ提出スベシ但シ勤務者數常時千人以上ノ工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ニ付テハ之ヲ三通トス

三　工場法、鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル工場又ハ事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ前號但書ノ書類ハ之ヲ二通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出スベシ但シ勤務者數常時千人以上ノ工場又ハ事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ夫々一通ヲ加フルモノトス

四　資本金千萬圓以上ノ會社ノ事務所又ハ之ニ準ズベキモノニシテ其ノ役員及職員ノ數常時百人以上ノモノニ於ケル組合ニ在リテハ第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ハ之ヲ二通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出スベシ

第三十六條 第十條第二項及第十二條ノ規定ハ陸海軍ノ官衙ニ於ケル國民貯蓄組合ニ之ヲ適用セズ

本令ニ地方長官トアルハ陸海軍ノ官衙又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル國民貯蓄組合ニ在リテハ之ヲ大藏大臣トス

附　則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○許可認可等行政事務處理簡捷令

（昭和十六年十一月十四日）
（勅令第九百六十七號）

第一條 行政廳ハ許可、認可等ノ申請アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ處理スベシ

第二條 國家總動員法（關東州國家總動員令及昭和十三年勅令第三百十七號ヲ含ム）及閣令ヲ以テ指定スル法令ニ基キ許可、認可、免許又ハ承認ヲ要スル事項（命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク）

事務簡捷令

ニ付テハ處分行政廳ニ他ノ行政廳ヲ經由セズシテ申請書ヲ提出スベキ場合ニ在リテハ處分行政廳ニ於テ、處分行政廳ニ他ノ行政廳ヲ經由シテ申請書ヲ提出スベキ場合ニ在リテハ經由行政廳（經由行政廳二以上アルトキハ最下級經由行政廳）ニ於テ申請書ヲ受取リタル日ノ翌日ヨリ起算シ三十日以内ニ處分行政廳又ハ經由行政廳其ノ申請ニ關シ申請者（其ノ承繼人ヲ含ム以下同ジ）ニ對シ文書ニ依ル指令、照會又ハ通知ヲ發セザルトキハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ許可、認可、免許又ハ承認アリタルモノト看做ス處分行政廳又ハ經由行政廳照會ニ對スル文書ニ依ル回答ニ接シ又ハ文書ニ依ル指令、照會又ハ通知ヲ發セザルトキ亦同ジ

特別ノ事情ニ依リ必要アル場合ニ於テハ前項ノ期間ニ關シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條　前條ノ許可、認可、免許又ハ承認ニ關スル處分ヲ爲スニ付關係行政官廳間ノ協議（共管ノ場合ニ於ケル合議ヲ含ム以下同ジ）ヲ要スル場合（閣令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク）ニ於テ甲行政廳ノ協議ニ關スル文書ノ乙行政廳ニ到達シタル日ノ翌日ヨリ起算シ十日以内ニ甲行政廳ニ於テ文書ニ依ル照會又ハ回答（合議ニ關スル文書ノ回付ヲ含ム）ニ接セザルトキハ甲行政廳ハ協議調ヒタルモノト看做スコトヲ得乙行政廳ヨリノ文書ニ依ル照會ニ對スル甲行政廳ノ回答書ノ乙行政廳ニ到達シタル日ノ翌日ヨリ起算シ十日以内ニ甲行政廳ニ於テ文書ニ依ル照會又ハ回答（合議ニ關スル文書ノ回付ヲ含ム）ニ接セザルトキ亦同ジ

特別ノ事情ニ依リ必要アル場合ニ於テハ前項ノ期間ニ關シ閣令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第四條　經由行政廳ハ第二條ノ許可、認可、免許又ハ承認ノ申請書ヲ受取リタルトキハ受取リタル日ノ翌日ヨリ起算シ七日以内ニ（經由行政廳ニ於テ同期間内ニ申請者ニ對シ文書ニ依ル照會ヲ發シタルトキハ之ニ對スル回答ニ接シタル日ノ翌日ヨリ起算シ七日以内ニ）申請書ヲ處分行政廳又ハ上級經由行政廳ニ發送スベシ

特別ノ事情ニ依リ必要アル場合ニ於テハ前項ノ期間ニ關シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五條　第二條ノ許可、認可、免許又ハ承認ノ申請者ハ行政廳ニ於テ申請書又ハ照會ニ對スル回答書ヲ受取リタルコトノ證明及同條ノ規定ニ依リ許可、認可、免許又ハ承認ニ關スル證明ヲ受クルコトヲ得

前項ノ證明ニ關シテハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令中第一條ノ規定ハ公布ノ日ヨリ其ノ他ノ規定ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年一月一日ニ於テ又ハ第二條ノ規定ニ依リ法令ヲ指定スル閣令施行ノ際現ニ申請書ノ受取ラレアル事項ニ關シテハ同條乃至第四條ノ期間ノ起算日ガ昭和十七年一月一日前又ハ第二條ノ規定ニ依リ法令ヲ指定スル閣令施行前ナル場合ニ於テハ同條乃至第四條ノ期間ハ昭和十七年一月一日又ハ第二條ノ規定ニ依リ法令ヲ指定スル閣令施行ノ日ヨリ之ヲ起算スルモノトス

參　照

昭和十三年五月四日公布勅令第三百十七號ハ南洋群島ニ於ケル國家總動員ニ關スル件ナリ

○許可認可等行政事務處理簡捷令

（昭和十七年一月十五日 厚生省令第二號）

第二條第一項ノ適用除外事項

一　學校卒業者使用制限令第二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項
二　國民徵用令第十八條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項
三　勞務調整令第七條第二號ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項
四　勞務調整令施行規則第十一條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項
五　地代家賃統制令第四條第一項及第七條第一項又ハ第八條ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クベキ事項

附　則

本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

國家總動員法

（昭和十三年四月法律第五十五號）
（昭和十六年三月法律第十九號改正）

第一條　本法ニ於テ國家總動員トハ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下同ジ）ニ際シ國防目的ノ達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ發揮セシムル樣人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
二　國家總動員上必要ナル被服、食糧、飮料及飼料
三　國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衞生用物資及畜產用物資
四　國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
五　國家總動員上必要ナル通信用物資
六　國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資
七　國家總動員上必要ナル燃料及電力
八　前各號ニ揭グルモノノ生產、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資
九　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條　本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　總動員物資ノ生產、配給、輸出、輸入、又ハ保管ニ關スル業務
二　國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三　國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務
四　國家總動員上必要ナル衞生、家畜衞生又ハ救護ニ關スル業務
五　國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務
六　國家總動員上必要ナル試驗研究ニ關スル業務
七　國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務
八　國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務
九　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務ヲ指定スルコト

○國家總動員法第三條第九號ノ規定ニ依リ國家總動員上必要ナル業務ヲ指定スル件（昭和十四年七月五日勅令第四四三號）

左ノ如シ

單事上特ニ必要ナル土木建築ニ關スル業務

第四條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國、地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇、就職、從業若ハ退職又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物資ノ生產、修理配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要アル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出稅若ハ輸入稅ヲ增加又ハ減免スルコトヲ得

第十條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ使用若ハ收容セシムルコトヲ得

第十一條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ增加、合併、目的ノ變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲナシ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲ノ社債ノ募集ニ付商法第二百九十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル

事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ揭グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地若ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ使用若ハ收用セシムルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ特許發明及ビ登錄實用新案ヲ實施セシメ若ハ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用セシムルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ政府ノ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年以內ニ拂下グルトキ又ハ第十三條第三項ノ規定ニ依リ總動員業務ヲ行フ者ノ收用シタルモノ收用シタル時ヨリ十年以內ニ不用ニ歸シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡、其ノ他ノ處分、出資、使用又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ三 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ開始委託、共同經營、讓渡、廢止若ハ休止又ハ法人ノ目的ノ變更、合併若ハ解散ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業主又ハ其ノ團體ニ對シ當該事業ノ統制又ハ統制ノ爲ニスル經營ヲ目的トスル團體又ハ會社ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ設立セラルル團體ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ團體設立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該團體ノ構成員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ團體ノ構成員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ團體ニ對シ其ノ構成員（其ノ構成員ヲ含ム以下同ジ）ノ事業ニ關スル

統制規定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ機成員若ハ機成員タル資格ヲ有スル者ニ對シ國體ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ國體又ハ會社ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ二 第十六條ノ二ノ規定ニ依リ設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資ヲ命ジ又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ事業ノ讓渡ヲ命ジタル場合ニ於テ讓渡者又ハ出資者ノ負擔スル債務ノ承繼及其ノ擔保ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資、第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ讓渡若ハ法人ノ合併又ハ第十八條第一項若ハ第三項ノ規定ニ依リ設立セラルル團體若ハ會社ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設ケ又ハ租稅ノ減免ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料、加工賃、修繕料、其ノ他ノ財產的給付ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ揭載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ檢査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヨシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保存セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヨシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生產若ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ試驗研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生產若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條、第十四條若ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ

融通、有價證券ノ應募、引受又ハ買入、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ノ命令、第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ委託、讓渡、廢止若ハ休止若ハ法人ノ目的變更若ハ解散ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス但シ第二項ノ場合ハ此ノ限リニ在ラズ

總動員業務ヲ行フ者ハ第十條、第十三條第三項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ使用、收用又ハ實施ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スベシ

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル買受ノ價格ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

三 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者

四 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十六條ノ三ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六　第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

七　第二十六條ノ規定ニ違反シ生產、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條　前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ供科スルコトヲ得

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二　第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二　第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三　第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試驗研究ヲ爲サザル者

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ團體又ハ會社ノ設立ヲ爲サザル者

二　第十八條第六項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

四　第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條　第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及揭載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條　第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規程ヲ適用セズ

第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條　總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條　公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラレタル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員若ハ使用人又ハ其ノ職ニアリ

タル者其ノ業務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキ亦前項ニ同ジ

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設定セラレタル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用人其ノ擔當スル統制事務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十七條 前條第一項ニ揭グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條ノ二乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス

有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ

本法ノ罰則ハ本法施行他外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項（軍機ニ關スルモノヲ除ク）ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第三百十五號ヲ以テ同年五月五日ヨリ施行ス）

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國民職業指導所

（管轄區域ノ内分所ハ業務擔當區域ヲ示ス）

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
北海道	札幌	五、四六八 五、七一五 四、五七九・五、四二九	札幌市南一條西十五丁目	札幌市、札幌郡、千歲郡、石狩郡、厚田郡
	函館		函館市新川町一四函館共愛會館	函館市、龜田郡、上磯郡、松前郡
	小樽勞働分所	一、四三六 一、二六〇・三、三九	小樽市稻穗町東三丁目七	小樽市、忍路郡
	旭川勞働分所	三、六一〇・四、四〇八	旭川市三條通十丁目左七	旭川市、上川郡（石狩國）ノ内蛟田町、豐浦村、洞爺村、白老郡
	釧路	一、一六・四一〇	釧路市北大通一丁目一番地	釧路市、釧路郡、厚岸郡、川上郡、阿寒郡、白糠郡
	室蘭	九〇	室蘭市常盤町一番地	室蘭市、幌別郡、有珠郡、虻田郡ノ内虻田町
	帶廣勞働分所	五七八 九四七	釧路市黑金町六丁目二番地	帶廣市、河西郡、上川郡（十勝國）、河東郡、中川郡（十勝國）ノ内幕別村、廣尾郡
	岩見澤	三五五 四〇六	帶廣市西三條南六丁目二	空知郡ノ内岩見澤町、北村、栗澤村、幌向村、三笠山村、美唄町、樺戸郡（新十津川村ヲ除ク）
	北見	三八三	空知郡岩見澤町六條東二丁目	北見市常呂郡（常呂村ヲ除ク）、網走郡ノ内津別村、美幌町、紋別郡ノ内遠輕町、生田原村、上湧別村、下湧別村
北海道	瀧川	二六九 一七八	北見市高台觀兵通	空知郡ノ内瀧川町、砂川町、江部乙村、歌志内町、赤平村、濱益郡、樺戸郡ノ内新十津川村
	江差	一七六	空知郡瀧川町本町四丁目檜山郡江差町字茂尻町七	檜山郡、爾志郡、久遠郡、奥尻郡
	浦河	一七六	浦河郡浦河町旭町三番地	浦河郡、様似郡、幌泉郡、三石郡、靜内郡、新冠郡、沙流郡
	根室	六一〇	根室郡根室町字常盤町二丁目	根室郡、花咲郡、野付郡、標津郡、目梨郡、國後郡、色丹郡、擇捉郡、紗那郡、蘂取郡、得撫郡、新知郡、占守郡
	稚内	三四九	宗谷郡稚内町字本通北四丁目	宗谷郡、枝幸郡、天鹽郡、利尻郡、禮文郡

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
北海道	留萌	三八	留萌町南大通五九	留萌郡、增毛郡、苫前郡
	余市	三五四	余市町大字大川町	余市郡、美國郡、積丹郡、古平郡
	岩内	三三六	岩内町大字鰮台町	岩内郡、磯谷郡、壽都郡、歌棄郡、島牧郡、古宇郡、虻田郡ノ內俱知安町、京極村、喜茂別村、留壽都村、眞狩村、狩太村
	森	二三八	茅部郡森町字御幸町九四	茅部郡、山越郡、瀨棚郡、太櫓郡
	名寄	二四四	上川郡名寄町西一條南五丁目	中川郡（天鹽國）、上川郡（天鹽國）
	網走	一八七	網走郡網走町南二條東二丁目	斜里郡、網走郡ノ內網走町、女滿別村常呂郡ノ內常呂村
	苫小牧	八三	勇拂郡苫小牧町本町七三	勇拂郡（占冠村ヲ除ク）
	夕張	二四二	夕張郡夕張町字旭町西二條七丁目	夕張郡
	十勝池田	一六一	中川郡池田町西二條七丁目一二	中川郡（十勝國）（幕別村ヲ除ク）、十勝郡、足寄郡
	紋別	七八	紋別郡紋別町一〇五番地	紋別郡ノ內紋別町、渚滑村、上渚滑村、瀧上村、興部村、西興部村、雄武村
	富良野	〇	空知郡富良野町本通南三丁目	空知郡ノ內富良野町、中富良野村、山部村、東山村、南富良野村、麓別町、勇拂郡ノ內占冠村
	深川	三九	雨龍郡深川町森元町六丁目字芽生一六	雨龍郡、空知郡ノ內雨龍郡、空知郡ノ內音江村
青森	八戸	四八四	八戸市番町一一	青森市、東津輕郡（東平內村ヲ除ク）
	弘前	四七四	弘前市元寺町一	東津輕郡ノ內三厩村、今別村、一本木村、平館村、蟹田町、蓬田村、後潟村
	青森勞働分所	三、四九六	青森市大字安方町一九七二	弘前市、中津輕郡、南津輕郡ノ內碇ヶ關村、藏館村、大鰐町、石川町
	青森	三、三九二	青森市柳町五ノ五	八戸市、三戸郡（三戸國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、上北郡ノ內百石町、下田村
	蟹田分所		東津輕郡蟹田町大字蟹田	
	青		青森市大字濱田字芽生一六	
岩手	盛岡	一、五五四・一、〇〇四	盛岡市內丸	盛岡市、紫波郡、岩手郡（沼宮內國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	釜石	五六二	釜石市只越	釜石市、上閉伊郡ノ內唐丹村
	遠野分所	呼四七	上閉伊郡遠野町五番ノ一	上閉伊郡ノ內遠野町、松崎村、土淵村、青笹村、上鄉村、附馬牛村、綾織村、小友村、宮守村、達曾部村、鱒澤村
	宮古	五二六	宮古市下町	宮古市、下閉伊郡（普代村ヲ除ク）
	岩泉分所	呼一	下閉伊郡岩泉町岩泉	下閉伊郡ノ內岩泉町、小本村、田野畑村、有藝村、安家村、小川村、大川村
	花卷	四四六	稗貫郡花卷町縣前	稗貫郡、和賀郡ノ內土澤町、小山田村、中內村、谷內村
	一關	五〇二	西磐井郡一關町	西磐井郡、東磐井郡ノ內長島村、鎚川村
	高田	一五五	氣仙郡高田町	氣仙郡（唐丹村ヲ除ク）
	岩手	一三七	九戸郡久慈町長內	九戸郡（伊保內村戶田村、江刺村、葛卷町ヲ除ク）
	久慈	一四八	九戸郡福岡町下中町	下閉伊郡ノ內普代村
	二戸	四四四	膽澤郡水澤町常磐	二戸郡、九戸郡ノ內伊保內村、戶田村
	水澤	三九	岩手郡沼宮內町	膽澤郡、江刺郡（福岡村ヲ除ク）東磐井郡ノ內生母村
	沼宮內			岩手郡ノ內沼宮內町、御堂村、一方井村、川口村、卷堀村、澁民村、大更村、田頭村、松尾村、平館村、寺田村、九戸郡ノ內葛卷町、江刺村
	黑澤尻	一、二一四	和賀郡黑澤尻町里分	和賀郡（花卷國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、江刺郡ノ內福岡村
森	鰺ヶ澤	七一	西津輕郡鰺ヶ澤町本町四	西津輕郡
	五所川原	二七五	北津輕郡五所川原町旭町	北津輕郡（百石町、下田村ヲ除ク）、東津輕郡ノ內東平內村
	野邊地	一二六	上北郡野邊地町二六ノ一	南津輕郡（碇ヶ關村、藏館村、大鰐町、石川町ヲ除ク）
	黑石	三〇三	南津輕郡黑石町字內町	三戸郡ノ內三戸町、田子町、留崎村、平良崎村、斗川村、上鄉村、猿邊村、野澤村、淺田村、北川村、名久井村、田部村、向村
	三戸	九	三戸郡三戸町八日町一〇ノ一	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
宮城	仙臺	三九七・一、九二八	仙臺市荒町	
	石卷	九二	石卷市日和山下	
	鹽釜	五八一	鹽釜市小島町	
	吉岡分所	六三	黑川郡吉岡町字中町六五	
	古川	四三二	志田郡古川町	
	大河原	四二	柴田郡大河原町	
	築館	一三〇	栗原郡築館町	
	佐沼	一三五	登米郡佐沼町	
	氣仙沼	四三八	本吉郡氣仙沼町	
	志津川分所	呼一一	本吉郡志津川町字鹽入七	
	白石	三三五	刈田郡白石町	
秋田	秋田	二、三九〇	秋田市下中城町四ノ二	秋田市、南秋田郡、河邊郡
	船川分所	一〇四	南秋田郡船川港町字元濱	南秋田郡ノ內船川港町、船越町、北浦町、拂戶村、脇本村、戶賀村、男鹿中村、五里合村、潟西村
	能代	三四二	能代市上後町二〇	能代市、山本郡
	大館	四七三	北秋田郡大館町三	北秋田郡(鷹巢國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)
	横手	一八六	平鹿郡橫手町前鄉字外不	平鹿郡
	本莊	三七四	由利郡本莊町田町八四	由利郡
岩手	盛岡	一、四〇・八七四	盛岡市馬場町一番地	盛岡市、紫波郡、岩手郡、和賀郡、稗貫郡、上閉伊郡、下閉伊郡、九戶郡、二戶郡
	花卷	二三・八二六	花卷町	花卷町、東和町、石鳥谷町、大迫町、遠野町、宮守村、土澤町、江刺郡、胆沢郡、西磐井郡、東磐井郡(生母村、長島村、舞川村ヲ除ク)
	一關	一九一・七二四	一關町字大町一	一關町、千厩町、室根村、川崎村、大東村、東磐井郡(生母村、長島村、舞川村ヲ除ク)、西磐井郡
	水澤	一、四四〇・八七四	水澤町字中道	水澤町、金ケ崎町、前沢町、衣川村、南都田村、東磐井郡(千厩町、室根村、川崎村、大東村ヲ除ク)、胆沢郡(大籠村ヲ除ク)、西磐井郡
	一戶	一二三・八二六	一戶町字舊町一	一戶町、福岡町、金田一村、軽米町、九戶郡(大野村ヲ除ク)、二戶郡
	宮古	一九一・七二四	宮古町字上町一	宮古町、山田町、大槌町、大野村、下閉伊郡(宮古町、山田町、大槌町ヲ除ク)、上閉伊郡(大迫町、遠野町、宮守村ヲ除ク)
	釜石	一四〇	釜石町字大只越一	釜石町、大野村、下閉伊郡(宮古町、山田町、大槌町ヲ除ク)、上閉伊郡(大迫町、遠野町、宮守村ヲ除ク)
	久慈	二一〇	久慈町字川崎一	久慈町、種市町、大野村、九戶郡(福岡町、軽米町ヲ除ク)、二戶郡(一戶町、福岡町ヲ除ク)
	二戶	一四〇	二戶町字舊町一	二戶町、一戶町、福岡町、浄法寺町、安代町、金田一村、軽米町、九戶郡(大野村ヲ除ク)
山形	山形	一、四四〇・八七四	山形市旅籠町三二一	山形市、南村山郡、東村山郡
	米澤	一四三・八二六	米澤市立町四、二六二	米澤市、南置賜郡、東置賜郡ノ內和田村、上郷村、鷹岡村、中郡村、小松町、大川村
	鶴岡	一九一・七二四	鶴岡市馬場町十日町口一〇番ノ二	鶴岡市、東田川郡(酒田國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)、西田川郡(柚浦村ヲ除ク)
	酒田	九〇	酒田市本町四ノ一七	酒田市、飽海郡、東田川郡ノ內清川村、狩川町、大和村、常萬村、余目町、新堀村、立谷澤村、西田川郡ノ內柚浦村
	最上	三六三	最上郡新庄町金澤字沖一、〇四八番ノ一二	最上郡
	新庄	一六〇	西村山郡寒河江町大字寒河江乙ノ一九一	西村山郡
	寒河江	三二二	西置賜郡長井町大字小出一、四一六	西置賜郡、東置賜郡ノ內伊佐澤村
	長井	一四六	北村山郡楯岡町大字楯岡一、二九〇ノ六	北村山郡
	楯岡	二五五	東置賜郡宮內町三、〇四三ノ四	東置賜郡(和田村、上郷村、鷹岡村、中郡村、小松町、犬川村、伊佐澤村ヲ除ク)
福島	福島	九六・一、三二九	福島市若松町一八一	福島市、信夫郡、伊達郡、相馬郡ノ內大館村、飯曾村
	若松	一八一	若松市	若松市、北會津郡、大沼郡、耶麻郡ノ內磐梯村、翁島村、千里村、月輪村、長瀬村、猪苗代町、吾妻村、河沼郡(喜多方國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)
	若松	五六七	郡山市	郡山市、安達郡ノ內熱海町、安積郡、田村郡

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
福島	平	五六二	平市	平市、石城郡
	白河	四一八	西白河郡白河町	西白河郡、東白河郡
	田島	一〇一	南會津郡田島町	南會津郡
	喜多方	四二八	耶麻郡喜多方町	耶麻郡（會津若松國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、河沼郡ノ內尾野本村、下谷村、登世島村、陸合村、野澤町、群岡村、寶坂村、上野尻村、新郷村、千咲村
	富岡	五三	雙葉郡富岡町	雙葉郡
	相馬	三〇七	相馬郡中村町	相馬郡（大館村、飯曾村ヲ除ク）
	二本松	三四三	安達郡二本松町	安達郡（熱海町ヲ除ク）
	須賀川	五一二	岩瀨郡須賀川町	岩瀨郡、石川郡
茨城	水戸	九二一・九九六	水戸市梅町二三ノ內	水戸市、那珂郡（常陸大宮國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、東茨城郡（上野合村、白河村、橘村、小川町、竹原村、堅倉村ヲ除ク）
	日立	二七二	日立市助川二、二〇ノ一	日立市、多賀郡
	土浦	八六四	土浦市前川町	土浦市、新治郡（石岡國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、稻敷郡ノ內蒐崎村、舟島村、阿見村、朝日村、筑波郡（水海道及下妻國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	下館	八六	眞壁郡下館町丙二五〇	眞壁郡（下妻町、上妻村、川西村、大寶村、騰波ノ江村ヲ除ク）、結城郡ノ內結城町、絹川村
	太田	三四九	久慈郡太田町木崎二ノ二、〇〇一	久慈郡（常陸大宮國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	古河	四六一	猿島郡古河町字石町	猿島郡（水海道國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、結城郡ノ內江川村、山川村、上山川村、中結城村、名崎村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
栃木	宇都宮	四、四二七・四、四八三	宇都宮市旭町一丁目三、四三七	宇都宮市、河內郡
	下妻	二三八	眞壁郡下妻町	眞壁郡（下妻町ヲ除ク）、結城郡ノ內大花羽村、菅原村、豐岡村、五箇村、三妻村、大生村、水海道町、猿島郡ノ內沓掛村、弓馬田村、飯島村、神大實村、岩井町、七郷村、中川村、筑波郡ノ內眞瀨村、稻岡村、十和村、谷原村、小張村、板橋村、豐村、谷井田村、三島村、久賀村、北相馬郡ノ內坂手村、菅生村、內守谷村、小絹村、大井澤村、大野村、守谷町、高野村、高井村、稻戸井村、山王村、相馬町、寺原村
	石岡	三三二	新治郡石岡町大字石岡	稻敷郡（土浦及龍ヶ崎國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、北相馬郡ノ內坂手町、井野村、六鄕村、小文間村、高須村、川原代村、北文間村、文村、文間村、東文間村、布川町
	龍ヶ崎	二一〇	稻敷郡龍ヶ崎町	鹿島郡、東茨城郡ノ內上野合村、白河村、橘村、行方郡ノ內秋津村
	鉾田	一三一	鹿島郡鉾田町大字鉾田	鹿島郡ノ內波崎町、矢田部村、若松村、輕野村
	波崎分所	一三一	鹿島郡波崎町九四〇八番地ノ二	行方郡（秋津村ヲ除ク）稻敷郡ノ內浮島村、本新島村、伊崎村、十餘島村
	麻生	七三	行方郡麻生町九一	西茨城郡
	笠間	呼七七	西茨城郡笠間町大字笠間	那珂郡ノ內諫鄕村、檜澤村、山方村、鹽田村、小瀨村、八里村、長倉村、靜村、大場村、上野村、大宮町、大賀村、玉川村、野口村、久慈郡ノ內黑澤村、佐原村、宮川村、大子町、依上村、袋田村、生瀨村、上小川村、下小川村、諸富野村
	常陸大宮	六六	那珂郡大宮町字上町	新治郡ノ內石岡町、高濱町、田余村、玉川村、關川村、新治村、三村、志筑村、小櫻村、小幡村、柿岡町、林村、園部村、瓦會村、葦穗村、戀瀨村、東茨城郡ノ內竹原村、堅倉村、小川町
	石岡	三三二	新治郡石岡町大字石岡	眞壁郡ノ內下妻町、上妻村、川西村、大寶村、騰波ノ江村、筑波郡ノ內高道祖村、作岡村、吉沼村、上鄕村、結城郡ノ內豐加美村、羽鳥村、宗道村、豐田村、石下町、總上村、玉村、西豐田村、大形村、岡田村、飯沼村、安靜村、下結城村
	下妻	二三八	眞壁郡下妻町	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
栃木	足利	一、六二六・一、六七九	足利市巴町二、五八三	足利市、足利郡栃木市、下都賀郡（小山國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	栃木	八二六	栃木市倭町二六一	
	鹿沼	四六七	上都賀郡鹿沼町大字麻苧一、五五六	上都賀郡ノ内黒磯町、蘆野町、兩郷村、伊王野村、那須村、鍋掛村、東那須野村、高林村
	黒磯	一四四	那須郡黒磯町大字豐浦四三	
	矢板	一二一	鹽谷郡矢板町大字矢板、一、二二〇	那須郡ノ内黒磯町、蘆野町、兩郷村、伊王野村、那須村、鍋掛村、東那須野村、高林村、鹽谷郡（箒根村、鹽原町ヲ除ク）
	眞岡	二四六	芳賀郡眞岡町大字田町二、一九八	芳賀郡
	佐野	六六九	安蘇郡佐野町六四八	安蘇郡
	小山	二六四	下都賀郡小山町大字小山二、三二四	下都賀郡ノ内小山町、桑村、國分寺村、石橋町、委絹村、大谷村、間々田町、野木村、生井村、穗積村、中村
	烏山	二一三	那須郡烏山町二〇〇	那須郡ノ内烏山町、境村、七合村、荒川村、武茂村、下江川村、馬頭町、小川町、大内村、向田村、大山田村、上江川村
	大田原	二〇九	那須郡大田原町字北町二、二五六	那須郡ノ内大田原町、西那須野町、狩野村、野崎村、親園村、佐久山町、金田村、湯津上村、川西町、黒羽町、須賀川村、鹽谷郡ノ内鹽原町、箒根村、
群馬	前橋	二、九〇〇	前橋市田中町乙六九	前橋市、勢多郡ノ内大胡町、上川淵村、下川淵村、南橋村、富士見村、芳賀村、桂萱村、木瀬村、荒砥村、宮城村、粕川村
	高崎	一九八・九四四	高崎市通町二	高崎市、群馬郡（前橋及澁川國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、多野郡ノ内吉井町、八幡村、多胡村、入野村、碓水郡ノ内豐岡村、八幡村、北甘樂郡ノ内岩平村
	桐生	三、一二六	桐生市永樂町	桐生市、山田郡（毛里田村、矢場川村、休泊村ヲ除ク）、新田郡ノ内笠懸村、藪塚本町、勢多郡ノ内東黒保根村、新里村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
群馬	伊勢崎	四一六	伊勢崎市榮町二四	伊勢崎市、佐波郡
	太田	三二六	新田郡太田町太田九三四	新田郡（笠懸村、藪塚本町ヲ除ク）山田郡ノ内毛里田村、矢場川村、休泊村
	館林	三六七	邑樂郡館林町館林二、三七〇	邑樂郡
	沼田	二四四	利根郡沼田町沼田二一九	利根郡
	中之條	一三七	吾妻郡中之條町中三條九	吾妻郡
	富岡	三一四	北甘樂郡富岡町中町北裏一四一四ノ一	北甘樂郡（岩平村ヲ除ク）
	安中	六三二	碓氷郡安中町安中二、八三二	碓氷郡（豐岡村八幡村ヲ除ク）
	藤岡	二六二	多野郡藤岡町藤岡三六四	多野郡（高崎國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	澁川	三三九	群馬郡澁川町長塚一七七八ノ九	群馬郡ノ内澁川町、清里村、古巻村、明治村、桃井村、豐秋村、伊香保町、金島村、長尾村、白郷井村、小野上村
埼玉	浦和	二、〇七八	浦和市高砂町一丁目二〇	浦和市、北足立郡（川口及大宮國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	川越	一九七 二六五・一八七	川越市大字川越三八	川越市、入間郡ノ内（所澤及飯能國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	熊谷		熊谷市大字熊谷二、八四	熊谷市、大里郡、北埼玉郡ノ内中條村、川口市、北足立郡ノ内戸田町、蕨町、谷塚町、草加町、新田村、安行村、南埼玉郡ノ内蒲生村、川柳村、八條村、八幡村、潮止村、大相模村、北葛飾郡ノ内吉川町、三輪野江村、彦成村、早稻田村、戸ケ崎村、八木郷村
	川口	二、九〇一・三、五八二	川口市本町四丁目二一三	
	大宮	四六〇	大宮市大字大宮三、六〇五ノ二	大宮市、北足立郡ノ内馬宮村、植水村、指扇村、平方町、大谷村、大石村、上尾町、上平村、小室村、小針村、加納村、桶川町、川田谷村、石戸村、馬室村、中丸村、常光村、鴻巣町、春岡村、原市町村、吹上町、七里村、大河原村、櫛川村、矢納村ヲ除ク）、秩父郡（大椚村、
	秩父	六〇九	秩父郡秩父町大字大宮一、一四二	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
玉	本庄	四四八	兒玉郡本庄町四、一〇八	兒玉郡、秩父郡ノ内矢納村
	久喜	一三四	南埼玉郡久喜町大字久喜新七四七ノ二	南埼玉郡ノ内久喜町、菖蒲町、鷲宮町、蓮田町、黒濱村、須賀村、篠津村、平野村、大山村、江面村、三箇村、小林村、栢間村、清久村、太田村、日勝村、北埼玉郡ノ内利島村、川邊村、東村、原道村、元和村、豐野村
	埼玉松山	松山 二四〇	比企郡松山町大字松山四、二二八	北葛飾郡ノ内栗橋町、幸手町、靜村、豐田村、櫻田村、行幸村、上高野村、高野村、權現堂川村、吉田村、八代村
	所澤	四〇四	入間郡所澤町大字所澤字宮ノ前六六二	比企郡、秩父郡ノ内大椚村、大河原村、視川村
	粕壁	二四九	南埼玉郡粕壁町字内出四、四五九	入間郡ノ内三芳村、柳瀬村、松井村、富岡村、所澤町、山口村、吾妻村、小手指村、三ヶ島村、元狹山村、宮寺村、金子村、東金子村、豐岡町、藤澤村、入間村、堀兼村、入間川町
	忍	行田 五二〇	北埼玉郡忍町大字長野三、八九五	南埼玉郡ノ内粕壁町、岩槻町、豐春村、内牧村、川通村、武里村、櫻井村、新方村、增林村、大袋村、荻島村、柏崎村、和土村、新和村、出羽村、越ヶ谷町、大澤町、慈恩寺村、百間村、河合村
	飯能	二五四	入間郡飯能町大字飯能元飯能村三七ノ一	北葛飾郡ノ内田宮村、杉戸町、堤郷村、幸松村、豐野村、松伏領村、旭村、豐岡村、櫻井村、寶珠花村、富多村、南櫻井村、川邊村、金杉村
千	千葉	七二五	千葉市市場町二	北埼玉郡(利島村、川邊村、東村、原道村、元和村、豐野村、中條村ヲ除ク)
	市川	六三一	市川市八幡五四八ノ一	入間郡ノ内飯能町、入西村、大家村、川角村、毛呂山町、越生町、梅園村、高萩村、高麗川村、高麗村、東吾野村、水富村、元加治村、加治村、精明村、原市場村、南高麗村、名栗村、吾野村
				千葉市、市原郡、千葉郡ノ内生濱町、稚名村、譽田村、白井村、更科村、千城村、犢橋村、幕張村
				市川市、東葛飾郡ノ内浦安町、南行德町、行德町、大柏村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
葉	銚子	八二五	銚子市末廣町三ノ三二五	銚子市、海上郡
	館山	九八	館山市北條一、〇三二	館山市、安房郡
	船橋	六〇八	船橋市本町一丁目二、二七五	船橋市、千葉郡ノ内津田沼町、二宮町、大和田町、睦村、豐富村、東葛飾郡ノ内鎌ヶ谷村
	大原	一五七	夷隅郡大原町七、九五五	夷隅郡
	木津	三六四	君津郡木更津町一、八二一	君津郡
	東金	三〇〇	山武郡東金町岩崎一、三三六	山武郡
	佐原	五五三	香取郡佐原町イ、三、四一三	香取郡(八日市場國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)
	成田	三〇八	印旛郡成田町五一二	印旛郡
	茂原	一七八	長生郡茂原町高師二、九六五	長生郡
	松戸	三〇六	東葛飾郡松戸町二ノ一、三一六ノ一	東葛飾郡(浦安町、南行德町、行德町、鎌ヶ谷村、大柏村ヲ除ク)
	八日市場	三二	匝瑳郡八日市場町イ、二、九四三	匝瑳郡、香取郡ノ内常盤村、久賀村、多古町、東條村、日吉村、中村、飯高村、豐和村、吉田村
東	東京中央	小石川(85) 四、二一—四、二九	東京市小石川區小石川町一ノ一	東京府
	小石川	小石川(85) 二、一〇一—二、一〇五	東京市小石川區小石川町一ノ一	東京市ノ内小石川區、麴町區、日本橋區、京橋區、四谷區、牛込區、本郷區、神田區、大島、八丈島、小笠原島
	本郷勞働分所	四五一—四五三・四七一	東京市本郷區元町一丁目九ノ五	
	下谷	下谷(83) 五、七九八 八八二	東京市下谷區上野三橋町一三	東京市ノ内下谷區、淺草區
	玉姫勞働分所	淺草(84) 七五〇 九六	東京市淺草區石濱町三丁目九ノ一	
	本所	本所(73) 四、四二二 五〇三	東京市本所區綠町四ノ一一ノ一	東京市ノ内本所區深川區
	東駒形勞働分所	墨田(74) 二、八〇七 二、〇七〇	東京市本所區東駒形町四丁目一五	
	深川勞働分所	本所(73) 四、四五四 四、四五九	東京市深川區高橋三丁目九ノ二	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
芝		三田(45) 一、六一六 三、〇〇六	東京市芝區海岸通三ノ一	東京市ノ内芝區、麻布區、赤坂區
品川		大崎(49) 一八二 一、〇一五	東京市品川區五反田五ノ一〇七	東京市ノ内品川區、目黒區、荏原區
	目黒勞働分所	澁谷(46) 二、六九六	東京市目黒區上目黒三丁目一、八三八ノ二	
	大井勞働分所	大森(06) 五、八五五	東京市品川區大井關ヶ原町一、三六〇	
大森	蒲田勞働分所	蒲田 三、六六一	東京市大森區大森一ノ四九	東京市ノ内蒲田區、大森區
			東京市蒲田區東六郷三ノ一一ノ四	
澁谷		青山(36) 六、〇一二 六、〇九四	東京市澁谷區氷川町三四	東京市ノ内澁谷區、世田ヶ谷區
	世田ヶ谷勞働分所	世田ヶ谷 四、六四三	東京市世田ヶ谷區若林町六二五ノ四	
	新宿勞働分所	四谷(35) 六、二〇四 五、四二〇	東京市澁谷區千駄ヶ谷五丁目一、〇〇三	
淀橋		淀橋(37) 八三	東京市淀橋區柏木一ノ九一	東京市ノ内淀橋區、中野區、杉並區
	杉並勞働分所	萩窪 三、五七一	東京市杉並區阿佐ヶ谷一丁目八六四	
豐島		大塚(86) 二、三五三 六、七〇二	東京市豐島區西巣鴨二ノ二、八〇一	東京市ノ内豐島區、板橋區
	板橋勞働分所	大塚(86) 三、六〇五	東京市板橋區板橋町八丁目六一七	
王子		王子 二、三五五	東京市王子區王子二ノ一八	東京市ノ内王子區、瀧野川區
足立		淺草(84) 七、三一〇	東京市足立區宮元町六四	東京市ノ内足立區、荒川區
		足立 三、九五一 四、一七〇		
	三河島勞働分所	下谷(83) 七、八八八	東京市荒川區三河島町二丁目一、〇七〇	東京市ノ内葛飾區、向島區
葛飾		本田 五六三	東京市葛飾區本田町一七	
	吾嬬勞働分所	墨田(74) 四、〇〇六	東京市向島區吾嬬町西五丁目四四	
城東		墨田(74) 二〇	東京市城東區龜戸町三ノ二〇	東京市ノ内城東區、江戸川區、

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
京	小松川勞働分所	江戸川 四六四	東京市江戸川區東小松川三丁目三、四三五	
	北砂町勞働分所	本所(73) 四、五一〇	東京市城東區北砂町四丁目一、四一七	
八王子		八七八	八王子市天神町二五	八王子市、南多摩郡
立川		四六四	立川市曙町二、四三五	立川市、北多摩郡ノ内府中町、小金井町、國分寺町、昭和町、谷保村、西府村、多摩村、東村山町、小平村、拜島村、村山村、大和村、砂川村
青梅		三七三	西多摩郡青梅町二七八	西多摩郡
三鷹		吉祥寺 一、四四三	北多摩郡三鷹町下連雀二六〇	北多摩郡ノ内三鷹町、武藏野町、田無町、調布町、保谷村、狛江村、神代村、清瀬村、久留米村
神奈川	横濱	本局 自 三、七四〇 至 三、七四二	横濱市中區櫻木町二ノ二	横濱市(鶴見區、戸塚區ヲ除ク)
	藤棚勞働分所	長者町 二、九〇八	横濱市中區藤棚町一丁目	
鶴見	港勞働分所	本局 二、六一四 四、二二五	横濱市中區山下町三ノ四	横濱市ノ内鶴見區
	勞働分所	鶴見 四、〇六八	横濱市鶴見區鶴見町一、一三九	
戸塚		二五九	横濱市戸塚區戸塚町三ノ四、一四四	横濱市ノ内戸塚區、鎌倉市、鎌倉郡(片瀬町ヲ除ク)
川崎		二、三一七 四、〇〇九	川崎市中島町一ノ五二	川崎市
	境町勞働分所	横須賀 一三二	川崎市境町一五	横須賀市、三浦郡
平塚		七六六	横須賀市若松町四五	平塚市、中郡(泰野町、南泰野町、東泰野村、西泰野村、北泰野村ヲ除ク)
小田原		二九〇	平塚市平塚新宿一、一八九	小田原市、足柄下郡
藤澤			小田原市幸町一	藤澤市、高座郡ノ内茅ヶ崎町、寒川町、小出村、御所見村、澁谷村、鎌倉郡ノ内片瀬町
相模原		上溝 六五	藤澤市藤澤町一、六六〇	高座郡ノ内相模原町、津久井郡
厚木		八二	高座郡相模原町上溝二、九六二	愛甲郡、高座郡ノ内大和村、綾瀬村、有馬村、海老名町
松田		二〇七	愛甲郡厚木町二、六四二	足柄上郡、中郡ノ内泰野町、南泰野町、東泰野村、西泰野村、北泰野村
			足柄上郡松田町松田總領一、八八七	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
新潟	新潟	二、五五三 三、八五五	新潟市西堀通三番町	新潟市、西蒲原郡ノ内坂井輪村、黒崎村、内野町、中蒲原郡ノ内横越村、大江山村、石山村、大形村、鳥屋野村、曾野木村、兩川村、龜田町
	長岡	一、四五八	長岡市表町一丁目	長野市、三島郡、古志郡（栃尾國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	高田	八七六	高田市大町三丁目	高田市、中頸城郡（直江津國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	三條	八三六	三條市大字四日町	三條市、南蒲原郡
	柏崎	五九五	柏崎市驛前通リ	柏崎市、刈羽郡
	新發田	五六九	北蒲原郡新發田町	北蒲原郡
	村上	四一四	岩船郡村上町	岩船郡
	小出	二一八	北魚沼郡小出町	北魚沼郡
	小千谷分所	小千谷四四一	北魚沼郡小千谷町	北魚沼郡ノ内小千谷町、城川村、吉谷村、山邊村、千田村、川井村、田麥山村、川口村
	十日町	四〇七	中魚沼郡十日町	中魚沼郡
	糸魚川	三三三	西頸城郡糸魚川町	西頸城郡
	兩津	二四八	佐渡郡兩津町	佐渡郡
	新津	四〇九	中蒲原郡新津町	中蒲原郡（新潟國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	津川分所	一一八	東蒲原郡津川町大字津川	東蒲原郡
	卷	二五〇	西蒲原郡卷町	西蒲原郡（坂井輪村、黒崎村、内野町ヲ除ク）
	安塚	三九	東頸城郡安塚村	東頸城郡
	六日町	一〇九	南魚沼郡六日町	南魚沼郡
	直江津	一〇	中頸城郡直江津町	中頸城郡ノ内直江津町、上米山村、米山村、柿崎町、潟町村、八千浦村、大瀁村、明治村、旭村、下黒川村、吉川村、源村、黒川村、黒岩村、春日村、谷濱村、桑取村、[illegible]寺村、諏訪村、保倉村、有田村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
栃尾	栃尾	三三三	古志郡栃尾町	古志郡ノ内[illegible]尾町、北谷村、上北谷村、下鹽谷村、上鹽谷村、入東谷村、東谷村、荷頃村、西谷村、中野俣村、半藏金村
富山	富山	三、二一六 四、六八〇	富山市	富山市、上新川郡、婦負郡
	高岡	一、〇二八	高岡市	高岡市、射水郡（新湊國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	魚津	三六五	下新川郡魚津町	下新川郡
	泊分所	一三五	下新川郡泊町泊四一八	下新川郡ノ内境村、宮崎村、泊町、五ヶ庄村、南保村、大家庄村、山崎村、野中村、舟見町、愛本村
	出町	二七二	東礪波郡出町	東礪波郡
	新湊	四五六	射水郡新湊町	射水郡ノ内新湊町、作道村、塚原村、片口村、堀岡村、海老江村、本江村、七美村、下村
	氷見	四四五	氷見郡氷見町	氷見郡
	滑川	三二四	中新川郡滑川町	中新川郡
	石動	三一〇	西礪波郡石動町	西礪波郡
石川	金澤	一、八四七 一、六八五	金澤市廣坂通	金澤市河北郡ノ内淺川村、川北村、石川郡ノ内金石町、内川村、犀川村、湯涌谷村、二塚村、大野村、戸板村
	七尾	一三〇	七尾市藤橋町	七尾市、鹿島郡
	小松	五六三	小松市東町	小松市、能美郡（白峰村、尾口村、鳥越村、川北村ヲ除ク）
	宇出津	四九〇	鳳至郡宇出津町	鳳至郡ノ内宇出津町、町野町、柳田村、神野村、三波村、鵜川町、諸橋村、兜村、住吉村、珠洲郡
	羽咋	一四二	羽咋郡羽咋町	羽咋郡
	富來分所	一六九	羽咋郡富來町字地頭町	羽咋郡ノ内西浦村、西海村、西增穗村、東增穗村、稗造村、鈍打村、熊野村、上熊野村、福浦村、富來町
	大聖寺	九	江沼郡大聖寺町	江沼郡
	輪島	二八七 三二五	鳳至郡輪島町	鳳至郡（宇出津國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
松任	一五九	石川郡松任町	石川郡(金石町、内川村、犀川村、湯涌谷村、二塚村、大野村、戸板村ヲ除ク) 能美郡ノ内白峰村、尾口村、鳥越村、川北村	
津幡	一三〇	河北郡津幡町	河北郡(淺川村、川北村ヲ除ク)	
福井	福井	三、五三〇・一、〇三四 一、三〇一・四、一一九	福井市日ノ出元町五八	福井市、足羽郡、吉田郡
敦賀	敦賀	五七九	敦賀市蓬萊三八	敦賀市、敦賀郡、三方郡
大野	大野	四〇八	大野郡大野町龜山二二八ノ二六ノ三	大野郡
勝山分所	勝山分所	三二六	大野郡勝山町下元祿三ノ二	大野郡ノ内平泉寺村、勝山町、村岡村、野向村、荒土村、北谷村、北郷村、鹿谷村、遲羽村
武生	武生	七八・七八〇	南條郡武生町吾妻一五三ノ四	南條郡、今立郡
小濱	小濱	三七八	遠敷郡小濱町白鬚五〇ノ一	遠敷郡、大飯郡
三國	三國	三五四	坂井郡三國町今新二三	坂井郡
朝日	朝日	五四	丹生郡朝日村西田中	丹生郡
山梨	甲府	四、四五九 四、四九三	甲府市紅梅町二一	甲府市、西山梨郡、東八代郡、中巨摩郡
谷村	谷村	二五八	南都留郡谷村町一、七二九	南都留郡 南巨摩郡ノ内增穗村、穗積村、鰍澤町、五開村、西島村、大須成村、靜川村 西八代郡(富里村、共和村、大河内村、榮村ヲ除ク)
鰍澤	鰍澤	一二〇	南巨摩郡鰍澤町一、七一三	北巨摩郡
韮崎	韮崎	二三六	北巨摩郡韮崎町一、九〇〇	東山梨郡、北都留郡ノ内丹波山村
鹽山	鹽山	二一五	東山梨郡鹽山町上於曾一、〇四〇	北都留郡(丹波山村ヲ除ク) 南巨摩郡(增穗村、穗積村、鰍澤町、五開村、西島村、大須成村、靜川村ヲ除ク) 西八代郡ノ内富里村、共和村、大河内村、榮村
大月	大月	一七四	北都留郡大月町六二	
身延	身延	一一三	南巨摩郡身延町一、七六七	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
長野	長野	三、九五八 三、二三七	長野市大字南長野一、〇二四ノ二	長野市、上水内郡
松本	松本	九四二	松本市大字北深志西堀町二五〇ノ四	松本市、東筑摩郡、南安曇郡
上田	上田	八八一	上田市常入字權現坂一、七九二ノ一	上田市、小縣郡
岡谷	岡谷	三、二〇四	岡谷市岡谷區三ノ七二五ノ一	岡谷市、諏訪市、諏訪郡
諏訪分所	諏訪分所	六一一	諏訪市大字諏訪字和泉町九、七一七	諏訪市
飯田	飯田	九七四	飯田市大字飯田字荒町一、三三八ノ一	飯田市、下伊那郡
小諸	小諸	三一一	北佐久郡小諸町一ノ八	北佐久郡
野澤	野澤	三四八	南佐久郡野澤町大字取出字八幡四八五	南佐久郡
伊那	伊那	二七七	上伊那郡伊那町大字伊那字青木田三、四九九ノ二	上伊那郡
長野福島	長野福島	二三三	西筑摩郡福島町字八澤五、三三〇ノ一	西筑摩郡
大町	大町	三四〇	北安曇郡大町二、四九五ノイ	北安曇郡
須坂	須坂	四八七	上高井郡須坂町七五七ノ一	上高井郡
飯山	飯山	一六三	下水内郡飯山町字升浦七八一ノ三	下水内郡、下高井郡
篠ノ井	篠ノ井	三一〇	更級郡篠ノ井町字布施高田九七三ノ二	更級郡、埴科郡
岐阜	岐阜	四、二四四・一、四九二	岐阜市明徳町一七	岐阜市、稲葉郡、本巣郡、山縣郡、羽島郡
大垣	大垣	四九一	大垣市郭町一九ノ九	大垣市、海津郡、養老郡、不破郡、安八郡
高山	高山	八三	高山市大字三町字明神町一、二九四ノ一	高山市、益田郡、大野郡、吉城郡
船津分所	船津分所	一四四	吉城郡船津町大字船津一一三ノ一	吉城郡ノ内船津町、袖川村、阿曾布村、上寶村
多治見	多治見	七〇七	多治見市山下一、三八四ノ一	多治見市、土岐郡、可兒郡
大井	大井	三一八	惠那郡大井町字下屋敷六一三ノ一	惠那郡(中津川國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)
岐阜八幡	岐阜八幡	二六一	郡上郡八幡町大字島谷五〇四	郡上郡
岐阜太田	岐阜太田	二二五	加茂郡太田町字中町三、八六八ノ一	加茂郡(田原村、富岡村ヲ除ク)、武儀郡ノ内神淵村、菅田町、金山町、坂ノ東村、上麻生村
中津川	中津川	三五二	惠那郡中津町中津川一、七一六ノ八	惠那郡ノ内中津町、落合村、坂下町、川上村、加子母村、付知町、福岡村、苗木町

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
阜	關	三六四	武儀郡關町甲二、八五八ノ四	武儀郡（神淵村、菅田町、金山町、坂ノ東村、上麻生村ヲ除ク） 加茂郡ノ内田原村、富岡村
	揖斐	一四九	揖斐郡揖斐町三輪九〇五ノ一	揖斐郡
靜岡	靜岡	一、七四六・四、一一三	靜岡市相生町一丁目三四	靜岡市、安倍郡
	濱松	一、九〇七・三、七三七	濱松市榮町一二八ノ一二	濱松市、濱名郡
	沼津	四五一・五二五	沼津市上香貫一二九ノ内	沼津市、駿東郡
	清水	一、〇三三・一、三七〇	清水市江尻小芝町六ノ二	清水市、庵原郡
	三島	六五五	三島市四三二ノ一	三島市、田方郡（伊東町、網代町、宇佐美村、小室村、對島村ヲ除ク） 小笠郡
	堀之内	一六一	小笠郡堀之内町二七二	富士宮市、富士郡
	富士宮	四七五	富士宮市大宮一、〇四二ノ一	志太郡、榛原郡ノ内金谷町、五和村、上川根村、中川根村、下川根村
	島田	四一二	志田郡島田町二、〇一四ノ一	磐田郡
	磐田	中泉 三五七	磐田郡磐田町中泉九七一ノ一	賀茂郡
	下田	四二六	賀茂郡下田町四二四	引佐郡
	氣賀	一六二	引佐郡氣賀町氣賀九八八	周智郡
	遠州森	四三	周智郡森町三一一	榛原郡（金谷町、五和村、上川根村、中川根村ヲ除ク） 熱海市、田方郡ノ内伊東町、網代町、宇佐美村、小室村、對島村
	遠州川崎	呼出 二〇	榛原郡川崎町靜波一、四三一ノ一	
	伊東	二七九	田方郡伊東町松原八六ノ二六	
愛	名古屋中	中 三、一六一	名古屋市中區丸田町一ノ一五	名古屋市ノ内中區、千種區、中村區、昭和區、中川區 愛知郡ノ内天白村、猪高村、日進村、東郷村
	日置勞働分所	西 二、八七〇・二、八八〇	名古屋市中村區西日置町二丁目五	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
知	名古屋南	南 二、七一〇	名古屋市熱田區熱田東町	名古屋市ノ内熱田區、港區、南區 愛知郡ノ内鳴海町、豐明村
	熱田勞働分所	南 三、七〇八	名古屋市熱田區横田町二丁目二六	
	名古屋北	本 四、八二七	名古屋市西區御幸本町	名古屋市ノ内西區、東區、西春日井郡
	大曾根勞働分所	東 四、五一〇	名古屋市東區東大曾根町上二丁目九五六	
	豐橋	二、五八〇	豐橋市東小田原町三八	豐橋市、渥美郡
	岡崎	九一一	岡崎市康生町四四〇ノ二	岡崎市、額田郡
	一宮	二二八	一宮市石野町一ノ一	一宮市、丹羽郡ノ内丹陽村、葉栗郡、中島郡
	半田	二五二	半田市荒古五ノ一	半田市、知多郡 瀬戸市、愛知郡ノ内長久手村、幡山村、東春日井郡ノ内品野町、旭村、水野村
	瀬戸	三、〇二一	瀬戸市大字瀬戸二、七九九	寶飯郡、八名郡ノ内賀茂村、金澤村、三上村、石卷村、大和村
	豐川	四一五	寶飯郡豐川町大字豐川	東春日井郡ノ内鳥居松村、小牧町、勝川町、守山町、坂下町、高藏寺町、篠木村、鷹來村、志段味村、味岡村、篠岡村
	鳥居松	勝川 一四二	東春日井郡鳥居松村大字松河戸	西加茂郡、東加茂郡
	擧母	三一〇	西加茂郡擧母町擧母	南設樂郡、北設樂郡、八名郡ノ内大野町、七郷村、舟着村、山吉田村、八名村
	新城	三四二	南設樂郡新城町字町並	海部郡
	津島	五八七	海部郡津島町津島	丹羽郡（丹陽村ヲ除ク）
	犬山	一八五	丹羽郡犬山町	幡豆郡
	西尾	二二九	幡豆郡西尾町館ケ崎一八ノ一	碧海郡
	刈谷	六七	碧海郡刈谷町刈谷字緒川町	
三	津	一、〇五一・一、八九一	津市西町	津市、河藝郡、安濃郡
	四日市	一、八二五・六二〇	四日市市濱田	四日市市、三重郡
	松阪	二九四・九一〇	松阪市殿町	松阪市、飯南郡、多氣郡
	宇治山田	一、五六二・一九三	宇治山田市豐川町	宇治山田市、度會郡

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
重	桑名	六三・三五	桑名市吉津屋町	桑名市、桑名郡、員辨郡
	上野	七〇三・七〇九	上野市丸ノ内	上野市、阿山郡、名賀郡
	尾鷲	三二七	北牟婁郡尾鷲町南ノ浦	北牟婁郡
	木本	二四二	南牟婁郡木本町	南牟婁郡
	久居	一二五	一志郡久居町本町	一志郡
	龜山	二四七	鈴鹿郡龜山町江ケ室	鈴鹿郡
	鳥羽	二四・三〇四	志摩郡鳥羽町	志摩郡
滋賀	大津	一、六五六・一、六六〇	大津市上京町一六	大津市、滋賀郡、栗太郡
	彦根	四〇二	彦根市金龜町四	彦根市、愛知郡（豐椋村、西小椋村、東小椋村、高野村ヲ除ク）犬上郡
	水口	二三三	甲賀郡水口町水口三、三六	甲賀郡
	八日市	一七九	神崎郡八日市町八日市一九〇	神崎郡ノ內八日市町、山上村、御園村、建部村、旭村、南五箇莊村、北五箇莊村
	長濱	八七二	坂田郡長濱町南呉服六七	蒲生郡（近江八幡國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	今津		高島郡今津町今津一六七	愛知郡ノ內豐椋村、西小椋村、東小椋村、高野村
	近江八幡	八幡 四七六	蒲生郡八幡町新町三丁目一五	坂田郡、東淺井郡、伊香郡
				高島郡
京都	下京	下三、八三〇・三、四〇四・三、四一〇	京都市下京區新町通七條下ル	京都市（伏見區ヲ除ク）、愛宕郡、葛野郡、乙訓郡

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
京都	千本	下 三、四三〇・三、五九〇	下京區朱雀正會町	下京區、朱雀正會町
	伏見	三九・九三	京都市伏見區南部町	京都市ノ內伏見區、宇治郡、久世郡、綴喜郡
	舞鶴	五七〇	舞鶴市字本	舞鶴市、東舞鶴市、加佐郡
	福知山	七四五	福知山市字內記	福知山市、天田郡、何鹿郡
	宮津	三五八	與謝郡宮津町	與謝郡（野間村ヲ除ク）
	木津	二〇二	相樂郡木津町	相樂郡
	園部	二四六	船井郡園部町	船井郡、南桑田郡、北桑田郡
	峰山	三三三	中郡峰山町	中郡、竹野郡、熊野郡、與謝郡ノ內野間村
大阪	中央	新町 南 三〇一・八六一・八六三	大阪市西區阿波座下通町	大阪府
	大阪城東	四七九 東 五〇九 四、三一〇	大阪市東區宰相山町	大阪市ノ內東區、東成區、天王寺區
	今里勞働分所		大阪市東區京橋前之町	
	西野田	福島 七、七二一 七、七二二・三、四三三	大阪市東成區片江町二九	大阪市ノ內此花區、西淀川區
	千鳥橋勞働分所	此花 五、〇四〇	大阪市此花區上福島中三ノ六	大阪市ノ內住吉區、西成區
	阿倍野	櫻川 六九〇	大阪市西成區旭南通五丁目	
	天王寺假分室	戎 二、六五〇・五、九五〇	大阪市天王寺區下寺町四丁目	大阪市ノ內北區、旭區、東淀川區ノ內淀川以南、北河內郡ノ內守口町、茨田町、三郷町、南郷村、住道町
	天滿	北 六五五・六、〇五四	大阪市北區野崎町二八ノ內	大阪市ノ內西區、浪速區、南區
	浪速	新町 四、五〇〇・四、五〇三	大阪市西區阿波堀通一丁目	
	大阪港	泉尾 二、一〇一・二、一〇〇	大阪市大正區大正通一丁目	大阪市ノ內港區、大正區
	築港勞働分所	築港 一二〇	大阪市港區南海岸通一丁目三	
福岡	市岡勞働分所	西 四、六〇一 北 四、三六〇	大阪市港區高尾町一丁目一七	大阪市ノ內東淀川區ノ內淀川以北、吹田市

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
阪	堺	一、四一七 一、六三六 三、一五七	堺市宿院町東三丁	堺市、泉北郡ノ内濱寺町、高石町、鳳町、東百舌鳥村、踞尾村、深井村、八田莊村、中河内郡ノ内天美村、布忍村、南河内郡ノ内北八下村
	岸和田	二、四四七	岸和田市岸城町	岸和田市、泉南郡ノ内貝塚町
	布施	六六五 一、一七二	布施市荒川一丁目	布施市、中河内郡ノ内孔舍衙村、枚岡村、縄手村、三野郷村、大戸村、英田村、盾津村、八尾町、西郡村、若江村、玉川村、久寶寺村、巽村、高安村
	池田	二、五九五	池田市	池田市、豐中市、豐能郡
	茨木	五一〇	三島郡茨木町	三島郡
	枚方	三六八	北河内郡枚方町	北河内郡（守口町、三郷町、茨田町、南郷村、住道町ヲ除ク）
	河内長野	二七六	南河内郡長野町	南河内郡（古市町、駒ヶ谷村、國分町、埴生村、高鷲村、藤井寺町、道明寺村、志紀村、北八下村ヲ除ク）
	和泉佐野	五六七	泉南郡佐野町大將軍町	泉南郡（貝塚町ヲ除ク）
	和泉大津	八七〇	泉大津市下條二〇四	泉大津市、泉北郡（濱寺町、高石町、鳳町、東百舌鳥村、踞尾村、深井村、八田莊村ヲ除ク）
	河内柏原	柏原 四三三	中河内郡柏原町市村	中河内郡ノ内柏原町、長吉村、瓜破村、矢田村、松原村、三宅村、惠我村、南高安村、曙川村、龍華町、加美村、大正村 南河内郡ノ内古市町、駒ヶ谷村、國分町、埴生村、高鷲村、道明寺村、藤井寺町、志紀村
兵	神戸	元町四二〇—四二六	神戸市湊東區相生町二ノ二七	神戸市ノ内兵庫區、神戸區、湊東區、湊區、有馬郡、武庫郡ノ内山田村
	神戸東	葺合 六、五六〇	神戸市葺合區脇濱町三ノ三九	神戸市ノ内葺合區、灘區
	神戸西	兵庫 二、六四〇	神戸市林田區大橋町三ノ二	神戸市ノ内林田區、須磨區
	尼崎	五〇一・一、三二四	尼崎市昭和通一ノ三四	尼崎市
	姫路	二、七一二	姫路市光源寺前町二八ノ二	姫路市、神崎郡、飾磨郡ノ内四郷村、御國野村、花田村、谷外村、谷内村、曾左村、置鹽村、鹿谷村、菅野村、余部村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
庫	明石	九九七	明石市大明石町一、三一五	明石市、明石郡、美嚢郡
	西宮	五五八	西宮市字六湛寺町一〇〇	西宮市、武庫郡ノ内鳴尾村、良元村
	洲本	六二〇	洲本市山下町舊城前	洲本市、三原郡、津名郡ノ内岩屋町、假屋町、佐野町、生穗町、志筑町、由良町、浦村、釜口村、鹽田村、安乎村、中川原村、廣石村、鳥飼村、上灘村
	芦屋	三、三七一	芦屋市芦屋字樋口新田一、九一四ノ六	芦屋市、武庫郡ノ内本庄村、本山村、魚崎町、住吉村、御影町
	飾磨	二八八	飾磨市妻鹿字喜多八八七ノ一	飾磨市、飾磨郡ノ内家島町、白濱町、廣畑町、八木村、糸引村
	伊丹	九七九	伊丹市伊丹中町四〇七	伊丹市、川邊郡
	加古川	五六八	加古郡加古川町寺家町四、二	加古郡、印南郡
	豐岡	七〇	城崎郡豐岡町永樂通一七〇	出石郡、城崎郡（香住町、長井村、余部村、口佐津村、奥佐津村ヲ除ク）
	龍野	四七七	揖保郡龍野町龍野四三〇	揖保郡（網干國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	社	一四八	加東郡社町社七七七ノ七	加東郡、加西郡
	和山	一一六	朝來郡和田山町和田山一九九	朝來郡、養父郡ノ内糸井村、大藏村
	篠山	九二	多紀郡篠山町二階町一八	多紀郡
	相生	三五一	赤穗郡相生町隣字前田一、一四一	赤穗郡、佐用郡
	柏原	一五七	氷上郡柏原町柏原六八一	氷上郡
	香住	一三七	城崎郡香住町香住字水取一、二二四ノ一	城崎郡ノ内香住町、口佐津村、奥佐津村、長井村、余部村、美方郡
	八鹿	二〇三	養父郡八鹿町八鹿一、二二ノ三	養父郡（糸井村大藏村ヲ除ク）
	山崎	二七四	宍栗郡山崎町山崎三三ノ三	宍栗郡
	郡家	七八	津名郡郡家町郡家組二八五ノ二	津名郡（洲本國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	網干	二六六	揖保郡網干町興濱二二	揖保郡ノ内網干町、大津村、勝原村、余部村、御津村、石海村、室津村、河内村
	西脇	六四九	多可郡西脇町西脇香住二九九	多可郡

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
奈良	奈良	三、八八七	奈良市三條町六〇六	奈良市、添上郡、山邊郡
	葛城	高田 六六〇	北葛城郡高田町高田一、八〇一	北葛城郡、南葛城郡、高市郡ノ內眞菅村、金橋村、天滿村、新澤村
	下市	三六七	吉野郡下市町下市五三五	吉野郡（四鄕村、中龍門村、小川村、高見村ヲ除ク）、宇智郡
	大宇陀郡	一四九	宇陀郡大宇陀町下山口	宇陀郡ノ內四鄕村、中龍門村、小川村、高見村
	山邊郡	八五	生駒郡山町新紺屋町一	生駒郡
	櫻井	八四	磯城郡櫻井町谷一九	磯城郡、高市郡（眞菅村、金橋村、天滿村、新澤村ヲ除ク）
和歌山	和歌山	五、二三五、七〇七	和歌山市西町	和歌山市、海草郡（海南國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	新宮	大八五	新宮市新宮六、七九八ノ一	新宮市、東牟婁郡（串本國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	海南	七二六	海南市日方	海南市、海草郡ノ內亀川村、巽村、仁義村、加茂村、鹽津村、大崎村、椒村、下津町
	邊河	八五七	田邊市湊	那賀郡ノ內東野上村、北野上村、中野上村、南野上村、小川村、上神野村、下神野村、長谷毛原村、猿川村、眞國村、細野村、志賀野村
	淺本	二五六	那賀郡粉河町粉河	田邊市、西牟婁郡（串本國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	坊	四〇七	有田郡湯淺町湯淺一、〇五ノ一	那賀郡（海南國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	御坊	九四	日高郡御坊町薗二四ノ一	有田郡
	橋本	二七七	伊都郡橋本町古佐田六五	日高郡
	串本	二一二	西牟婁郡串本町	伊都郡
				西牟婁郡ノ內串本町、潮岬村、有田村、田並村、和深村、江住村、大都河村、佐本村、東牟婁郡ノ內西向町、古座町、高池町、大島村、田原村、明神村、三尾川村、小川村、七川村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
鳥取	鳥取	六〇・一、八二	鳥取市吉方七六五	鳥取市、岩美郡、氣高郡
	米子	一九七	米子市中町二四	米子市、西伯郡
	倉吉	一九六	東伯郡倉吉町明治町一、〇二八ノ一	東伯郡
	八頭	一	郡家呼出	八頭郡
	根雨	六五	日野郡根雨町大字根雨七二八	日野郡
島根	松江	九二四、一五四	松江市殿町一三〇	松江市、八束郡（意東村、揖屋村ヲ除ク）
	濱田	六四四	濱田市大字黑川一、一四九	濱田市、那賀郡
	出雲	九七	出雲市今市町新町七四三	出雲市、簸川郡
	益田	三四二	美濃郡石見町上吉田三二一	美濃郡、鹿足郡
	大	一三三	大原郡木次町八日市一五三	大原郡、仁多郡、飯石郡
	岐	一六一	周吉郡西鄕町大字八尾二三	周吉郡、穩地郡、海士郡、知夫郡
	隱	六九	知夫郡黑木村大字別府四八	知夫郡、海士郡
	黑木所	一	邑智郡川本町川本西側共	邑智郡
	本	六九	安濃郡大田町大田イ二九六	安濃郡、邇摩郡
	大田	一五八	能義郡安來町大字安來一、五三二	能義郡、八束郡ノ內意東村、揖屋町
	安來	七一		
岡山	岡山	四、三二一、二九・六、〇四八	岡山市天瀨三七	岡山市、御津郡、赤磐郡ノ內竹枝村、葛城村、高月村、五城村
	津山	八二九	津山市山下九二ノ七	津山市、苫田郡、久米郡
	倉敷	四七七	倉敷市前神町三〇二	倉敷市、都窪郡（清音村、常盤村、山手村、三須村、加茂村ヲ除ク）
	玉	二三一	玉野市和田一〇〇	玉野市、兒島郡（琴浦國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	野	一五九	兒島郡琴浦町田ノ口八〇ノ二	兒島郡ノ內琴浦町、味野町、下津井町、本莊村、福田村、粒江村、藤戸町、鄕內村、兒島町
	玉			
	琴			
	浦			

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
山	和氣	一二九	和氣郡和氣町四三〇ノ二	和氣郡、赤磐郡（竹枝村、葛城村、高月村、五城村ヲ除ク）
	高梁	三一六	上房郡高梁町松山一、九〇五ノ三	上房郡、川上郡
	笠岡	三二〇	小田郡笠岡町二、五六三	小田郡（大江村、稻倉村ヲ除ク）
	玉島	三八〇	淺口郡玉島町阿賀崎九四八	淺口郡
	勝山	一四一	眞庭郡勝山町九一	眞庭郡
	新見	二三九	阿哲郡新見町一、一九二	阿哲郡
	林野	一三七	英田郡林野町三倉田五二八ノ四	英田郡、勝田郡
	總社	二七〇	吉備郡總社町七五三ノ三	吉備郡、都窪郡ノ內淸音村、常盤村、山手村、三須村、加茂村
	西大寺	五〇九	上道郡西大寺町一三六	上道郡、邑久郡
	井原	三二六	後月郡井原町一、〇六四ノ一	後月郡、小田郡ノ內大江村、稻倉村
廣	廣島	中 二、五一〇	廣島市千田町三丁目	廣島市、安藝郡（吳國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）、佐伯郡ノ內五日市町、大柿町、井口村、石內村、河內村、八幡村、砂谷村、三高村、沖村、高田村、中村、鹿川村、深江村、飛渡瀨村
	勞働分所	中 一、七二〇	廣島市千田町三丁目七一八ノ一	安佐郡ノ內長束村、山本村、祇園町、原村、三川村、安村、伴村、戶山村
	吳	二、九三九 二、〇〇七	吳市公園通一丁目	吳市、安藝郡ノ內昭和村、大屋村、江田島村、音戶町、倉橋島村、上蒲刈島村、下蒲刈島村
	尾道	五四九	尾道市土堂町海岸通	賀茂郡ノ內內海町、三津口町、川尻町、安登村、野路村
	福山	五九六	福山市東霞町	尾道市、御調郡、沼隈郡ノ內東村、西村、高須村、百島村、田島村、橫島村
				福山市、深安郡、沼隈郡（尾道國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）

山	島			
山口	三原	三一六	三原市本町	三原市、豐田郡（竹原及廣島西條國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	三次	三六九	雙三郡三次町	雙三郡
	可部	一三三	安佐郡可部町	安佐郡（廣島國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）山縣郡ノ內壬生町、八重町、大朝町、新庄村、川迫村、南方村、本地村
	竹原	二七七	賀茂郡竹原町	賀茂郡ノ內早田原村、三津町、竹原町、下野村、東野村、莊野村、賀永村、豐田郡ノ內吉名村、木谷村、久友村、大長村、御手洗町、大崎南村、西野村、中野村、木ノ江町、東野村、豐濱村
	庄原	二六五	比婆郡庄原町	比婆郡
	府中	三七一	蘆品郡府中町	蘆品郡、神石郡
	大竹	二一〇	佐伯郡大竹町	佐伯郡ノ內大竹町、木野村、小方村、玖波町、大野村、栗谷村、淺原村、津田町、四和村、友和村、玖島村、宮內村、嚴島町、地御前村、廿日市町、平良村、觀音村、原村
	廣島西條	二二九	賀茂郡西條町	賀茂郡ノ內西條町、下三永村、板城村、乃美尾村、上黑瀨村、中黑瀨村、下黑瀨村、鄕原村、鄕田村、吉川村、熊野跡村、原村、川上村、東高屋村、西高屋村、造賀村、東志和村、西志和村、志和堀村、豐田郡ノ內戶野村、竹仁村、久芳村、乃美村、川源村
	甲山	一二八	世羅郡甲山町	世羅郡、甲奴郡
	吉田	七三	高田郡吉田町	高田郡
	加計	五七	山縣郡加計町	山縣郡ノ內加計町、殿賀村、上殿村、簡賀村、戶河內町、八幡村、雄鹿原村、中野村、美和村、原村、都谷村、吉坂村、安野村、佐伯郡ノ內吉和村、上水內村、水內村
山口	山口	四三 九八六	山口市今市常陸	山口市、吉敷郡（阿知須町、佐山村、東岐波村、西岐波村、大道村ヲ除ク）阿武郡ノ內佐々並村、篠生村、地福村、德佐村、生雲村、嘉年村
	下關	三、七六一 三、九一二	下關市東南部町	下關市、豐浦郡（豐田前村ヲ除ク）

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
口	宇部	五七〇	宇部市常盤通	宇部市、厚狹郡ノ内厚東村、二俣瀬村、小野村、吉部村、萬倉村、美禰郡ノ内太田町、綾木村、眞長田村、秋吉村、岩永村、赤郷村、吉敷郡ノ内阿知須町、佐山村、東岐波村、西岐波村
	德山	五五四	德山市新町三、七七一ノ一	德山市、都濃郡(米川村、中須村、須禰萬村、須金村ヲ除ク)
	岩國	一六一	岩國市今津二ノ割	岩國市、玖珂郡(柳井國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)
	小野田	三四二	小野田市	小野田市、厚狹郡ノ内船木町、厚狹町、生田村、王喜村、吉田村、美禰郡ノ内伊佐町、大嶺町、東厚保村、西厚保村、於福村、別府村、共和村、豐浦郡ノ内豐田前村
	萩	二三四	萩市江向四七七	萩市、大津郡、阿武郡(山口國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)
	防府	六二七	防府市	防府市、佐波郡、吉敷郡ノ内大道村
	下松	三六五	下松市	下松市、都濃郡ノ内米川村、中須村、須々萬村、須金村
	光	島田市 五四	熊毛郡光町	熊毛郡ノ内高水村、勝間村、八代村
	柳井	四五七	玖珂郡柳井町	熊毛郡ノ内光町、室積町、平生町、田布施町、室津村、上關村、佐賀村、大野村、曾根村、麻里府村、麻郷村、鹽田村、城南村、三輪村、岩田村、周防村、東荷村、三丘村
				大島郡、玖珂郡ノ内由宇村、日積村、神代村、鳴門村、柳井町、新庄村、餘田村、伊陸村、通津村、祖生村
				熊毛郡ノ内伊保庄村、阿月村
德	德島	四、三四四・五、一〇五	德島市幸町一丁目一加島跡	德島市、名東郡、名西郡
	德島富岡	富岡 一五六	那賀郡富岡町大字石塚字トノマチ二三ノ一	那賀郡
	德島池田	池田 二三八	三好郡池田町字マチ二、二六一	三好郡、美馬郡ノ内東祖谷山村、西祖谷山村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
島	脇町	一四九	美馬郡脇町大字諸尻字東分一一一ノ一	美馬郡(東祖谷山村、西祖谷山村ヲ除ク)
	牟岐	六七	海部郡牟岐町大字牟岐浦字濱崎四ノ一	麻植郡ノ内木屋平村
	鴨島	一三二	麻植郡鴨島町大字本郷一六五	海部郡
	撫養	四五二	板野郡撫養町大字南濱字蛭子前西四ノ一	阿波郡、麻植郡(木屋平村ヲ除ク)
	小松島	一七八	勝浦郡小松島町大字小松島字松島二九七ノ一	板野郡
				勝浦郡
香川	高松	四、八二三・三、六四七	高松市七番町	高松市、香川郡、木田郡(井戸村、下高岡村、神山村、氷上村ヲ除ク)
	丸龜	三一四	丸龜市地方	丸龜市、仲多度郡、綾歌郡ノ内土器村、川西村
	坂出	六一六	坂出市字濱田	坂出市、綾歌郡(土器村、川西村ヲ除ク)
	觀音寺	四五九	三豐郡觀音寺町大字觀音寺字白濱	三豐郡
	長尾	五一	大川郡長尾町	大川郡、木田郡ノ内井戸村、下高岡村、神山村、氷上村
	土庄	一六二	小豆郡土庄町	小豆郡
愛媛	松山	四六〇・九二六	松山市本町一丁目四一	松山市、温泉郡、伊豫郡
	今治	五八四	今治市大字今治村	今治市、越智郡(新居濱國民職業指導所管轄區域ヲ除ク)
	宇和島	二〇一	宇和島市本町八六	宇和島市、北宇和郡、南宇和郡
	八幡濱	六八〇	八幡濱市宮ノ下	八幡濱市、西宇和郡
	新居濱	四五八	新居濱市甲三七三	新居濱市、新居郡(大生院村、加茂村、大保木村ヲ除ク)、越智郡ノ内宮窪村大字友浦ノ内梶島、明神島、家ノ島、美濃島、鼠島(通稱四坂島)、宇摩郡ノ内別子山村
	西條	一八四	西條市明尾數一六三	西條市、周桑郡、新居郡ノ内大生院村、加茂村、大保木村
	愛媛三島	三島 二六五	宇摩郡三島町字井關	宇摩郡(別子山村ヲ除ク)
	大洲	三二九	喜多郡大洲町大字中村	喜多郡
	久万	七三	上浮穴郡久万町大字久万町	上浮穴郡

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
卯之町		五八	東宇和郡宇和町大字卯之町	東宇和郡
高知	高知	一、六〇〇 二、二六七	高知市本町	高知市、長岡郡（山田國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）土佐郡ノ内宇治村、一宮村、土佐山村、鏡村
	須崎	二五一	高岡郡須崎町	吾川郡（須崎及伊野國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）高岡郡（伊野及窪川國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	中村	二六三	幡多郡中村町	吾川郡ノ内名野川村、大崎村、池川町、横畠村
	安藝	二二五	安藝郡安藝町	幡多郡（佐賀町、大正村、昭和村、十川村、江川崎村ヲ除ク）安藝郡
	山田	七四	香美郡山田町	香美郡ノ内山田町、岩村、明治村、佐古村、在所村、大楠植村、横山村、上韮生村、片地村、佐岡村、美良布村、曉霞村
	伊野	二六	吾川郡伊野町	長岡郡ノ内新改村、天坪村、東豐永村、西豐永村、大杉村、本山町、吉野村、田井村
	窪川	呼出 一	高岡郡窪川町	土佐郡ノ内森村、地藏寺村、大川村
	赤岡	呼出 四二	香美郡赤岡町	吾川郡ノ内伊野町、八田村、神谷村、三瀬村、上八川村、下八川村、清水村、小川村、明治村
				高岡郡ノ内黑岩村、能津村、加茂村、日下村、川内村、高岡町、高石村、新宇佐町、蓮池村、波介村、戸波村、北原村
				土佐郡ノ内本川村
				高岡郡ノ内窪川町、東又村、松葉川村、與津村、仁井田村
				幡多郡ノ内佐賀町、大正村、昭和村、十川村、江川崎村
				香美郡（山田國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
福岡	福岡	西 一、二九四	福岡市因幡町五	福岡市（箱崎町ヲ除ク）早良郡、糸島郡、筑紫郡
	北濱勞働分所	東 五、五〇四	福岡市北濱町三丁目一三	
	西新勞働分所	西 五、五〇三	福岡市西新町一丁目三八	
	小倉	二、六七八	小倉市菜園場	小倉市、企救郡
	門司	門司 一、三八二	門司市老松町	門司市
	老松勞働分所	門司 一、三八二	門司市老松町	
	戸畑	一一二	戸畑市大字戸畑字淺生	戸畑市
	八幡	九六七	八幡市藤田	八幡市
	若松	八二〇	若松市南海岸通	若松市
	久留米	三、三四一	久留米市花畑	久留米市、浮羽郡、三井郡
	大牟田	三、五三二	大牟田市有明町	大牟田市、山門郡、三池郡
	直方	六五六	直方市古町	直方市、鞍手郡
	飯塚	八六二	飯塚市吉原町	飯塚市、嘉穗郡
	箱崎	東 二、三三二	福岡市箱崎町	福岡市ノ内箱崎町、糟屋郡
	後藤寺	四〇八	田川郡後藤寺町	田川郡
	折尾	七四	遠賀郡折尾町	遠賀郡、宗像郡
	甘木	二四六	朝倉郡甘木町	朝倉郡
	福岡	福島 五〇二	八女郡福島町	八女郡
	行橋	四〇七	京都郡行橋町	京都郡
	八屋	二四九	筑上郡八屋町	筑上郡
	大川	若津 四三六	三瀦郡大川町	三瀦郡
佐賀		一、八〇九 五六八	佐賀市松原町六七	佐賀市、佐賀郡

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
佐賀	唐津	七六二	唐津市大字唐津三〇五第一三二	唐津市、東松浦郡
	武雄	三二〇	杵島郡武雄町大字富岡八、二七二ノ一	杵島郡
	伊萬里	三三九	西松浦郡伊萬里町甲五三六ノ口	西松浦郡
	鹿島	二四九	藤津郡鹿島町大字高津原四、〇〇一	藤津郡
	鳥栖	三〇四	三養基郡鳥栖町大字藤木八五五	三養基郡
	小城	三四	小城郡小城町五七二	小城郡
	神埼	一六四	神埼郡神埼町大字神埼四四四四四八	神埼郡
長崎	長崎	二、〇二八 二、〇八七 四、二八〇	長崎市元船町五丁目九	長崎市、西彼杵郡ノ内茂木町、伊木力村、長與村、矢上村、時津村、香焼村、三重村、福田村、式見村、樺島村、高濱村、脇岬村、野母村、爲石村、高島村、川原村、日見村、大草村、深堀村、伊王島村、蚊焼村
	勞働分所	三、八一九 三、八四二	長崎市出島町四	佐世保市、北松浦郡ノ内小値賀町、世知原町、佐々町、小佐々村、黒島村、平村、神浦村、柚木村、吉井村
	佐世保	二、四五一 二、八三二	佐世保市港町	諫早市、北高來郡、西彼杵郡ノ内喜々津村、南高來郡ノ内大正村、山田村、守山村、愛野村、千々石町、島原市、南高來郡（大正村、山田村、守山村、愛野村、千々石町ヲ除ク）
	勞働分所	四、八八〇	佐世保市港町六六	大村市、東彼杵郡
	諫早	一五四	諫早市永昌町	北松浦郡ノ内平戸町、生月町、江迎町、大島村、中野村、獅子村、紐差村、中津良村、志々伎村、南田平村、津吉村、田平村、鹿町村
	島原	四七六	島原市大手町	北松浦郡ノ内志佐町、新御厨町、今福町、上志佐村、調川村、福島村、鷹島村
	大村	一六二	大村市杭出津郷	
	平戸	二二七	北松浦郡平戸町	
	志佐	六四	北松浦郡志佐町	

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
長崎	長崎瀬戸		西彼杵郡瀬戸町	西彼杵郡ノ内瀬戸町、崎戸町、村松村、長浦村、鯨岳村、大串村、瀬川村、面高村、黒瀬村、江島村、多以良村、松島村、雪浦村、神浦村、黒崎村、七釜村
	對馬	嚴原 一七二	下縣郡嚴原町	下縣郡、上縣郡
	佐須奈分所		上縣郡佐須奈村大字佐須奈乙九一七	上縣郡
	福江	一六三	南松浦郡福江町	南松浦郡（有川國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	壹岐	御ノ浦 五四	壹岐郡武生水町	壹岐郡
	有川	二三	南松浦郡有川町	南松浦郡ノ内有川町、青方町、日島村、若松村、濱ノ浦村、魚目村、北魚目村、奈良尾村
熊本	熊本	五、〇六九 四、五九八	熊本市花畑町七七	熊本市、飽託郡、宇土郡
	八代	四七二	八代市松江町八七四	天草郡ノ内湯島村、登立町、中村、上村、維和村
	人吉	四六三	人吉市鍛冶屋町三	八代市、八代郡
	荒尾	一一五	荒尾市役所内	人吉市、球磨郡
	本渡	四〇三	天草郡本渡町二二二ノ二	荒尾市、玉名郡ノ内神尾村、緑村、春富村、坂下村、大原村、南関町、賢木村、六榮村、腹赤村、長洲町、浦里村、米富村
	高瀬	三〇四	玉名郡玉名町大字繁根木七〇ノ一	天草郡（熊本及牛深國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	山鹿	八二	鹿本郡山鹿町堀明一五一〇ノ一	玉名郡（荒尾國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
	隈府	三二九	菊池郡隈府町大字隈府一一六	鹿本郡
	宮地	四〇	阿蘇郡宮地町一、九三五	菊池郡
	水俣	二四五	葦北郡水俣町二、七七九ノ一	阿蘇郡（馬見原町、柏村、菅尾村、小峰村ヲ除ク）
	濱町	一一六	上益城郡濱町大字濱町一八〇ノ九	葦北郡
	豐野	一	下益城郡豐野村糸石	上益城郡ノ内濱町、下矢部村、中島村、白糸村、御嶽村、名連川村、朝日村
	御船	七七	上益城郡御船町三七二	阿蘇郡ノ内柏村、菅尾村、小峰村、馬見原町
				下益城郡
				上益城郡（濱町國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
大分	大分	一、二四〇 三三八	大分市大字大分字荷揚町	大分市、大分郡
中津	中津	一九二	中津市豐田五八七	中津市、下毛郡
別府	別府	五六三	別府市大字別府不老町ノ一	別府市、速見郡
佐伯	佐伯	五六三	佐伯市字馬場町	佐伯市、南海部郡、大野郡ノ內小野市村、重岡村
日田	日田	八九	日田市字南豆田	日田市、日田郡
臼杵	臼杵	七	北海部郡臼杵町大字口手	北海部郡
竹田	竹田		直入郡竹田町向町	直入郡
國東	國東	一五三	東國東郡國東町大字鶴川	東國東郡
三重	三重	一三一	宇佐郡四日市町字荒卷	宇佐郡
大野	大野	一三四	大野郡三重町字市場	大野郡（小野市村、重岡村ヲ除ク）
西國東	西國東	一二九	西國東郡高田町字玉津	西國東郡
玖珠	玖珠	一五二	玖珠郡森町森殿	玖珠郡
牛深	牛深	四一	天草郡牛深町二、二二七	天草郡ノ內牛深町、久玉村、魚貫村、早浦、龍浦、組合村、大江村、宮津村、一町田村、新合村、宮野河內村、深海村

道府縣名	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
宮崎	宮崎	一、三二四	宮崎市	宮崎市、宮崎郡、東諸縣郡
都城	都城	七四五	都城市	都城市、北諸縣郡
延岡	延岡	八三七	延岡市	延岡市、東臼杵郡ノ內北方村、南方村、北川村、南浦村、北浦村、西臼杵郡（諸塚村、椎葉村ヲ除ク）
高鍋	高鍋	一七八	兒湯郡高鍋町	兒湯郡
小林	小林	二三八	西諸縣郡小林町	西諸縣郡
飫肥	飫肥	四九	南那珂郡飫肥町	南那珂郡（宮崎縣島國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
富島	富島	一六三	東臼杵郡富島町	東臼杵郡（延岡國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
福島	福島	一二五	南那珂郡福島町	西臼杵郡ノ內諸塚村、椎葉村 南那珂郡ノ內福島町、南郷町、榎原村、大東村、北方村、本城村、市木村、都井村
鹿兒島	鹿兒島	八一〇 五二九	鹿兒島市泉町二七	鹿兒島市、鹿兒島郡、揖宿郡
指宿	指宿	一四八	揖宿郡指宿町十町上堂地	揖宿郡ノ內指宿町、今和泉町、山川町、頴娃村
川內	川內	四三六	川內市向田町	川內市、薩摩郡
宮之城	宮之城	一五三	薩摩郡宮之城町屋地一、〇三二ノ一	薩摩郡ノ內宮之城町、山崎村、佐志村、鶴田村、黑木村、大村、鶴牟田村、永野村、求名村
鹿屋	鹿屋	二六一	鹿屋市	鹿屋市、肝屬郡
垂水	垂水	七四三、四二七ノ二	肝屬郡垂水町神宇上	肝屬郡ノ內垂水町、新城村、手根村、大根占町、根占町、田代村、佐多村
大島	大島	七六	大島郡名瀨町	大島郡
栗野	栗野	二四	姶良郡栗野町	姶良郡ノ內栗野町、横川町、吉松村、牧園町、伊佐郡
阿久根	阿久根	一一九	出水郡阿久根町大丸	出水郡
志布志	志布志	四七	囎唹郡志布志町志布志二、五二一ノイ	囎唹郡ノ內志布志町、西志布志村、大崎町、松山村、野方村 川邊郡ノ內萬世町、加世田町、笠沙町、川邊町、勝目村
萬世	萬世	五九	川邊郡萬世町	
伊集院	伊集院	七二	日置郡伊集院町下谷三、八六七ノ二	日置郡ノ內伊作町、日置村、永吉村、吉利村、阿多村、田布施村 姶良郡（栗野國民職業指導所管轄區域ヲ除ク）
伊作	伊作	一〇六	日置郡伊作町中原二、八四	
國分	國分	三	姶良郡國分町向花字平五	
熊毛	熊毛	四〇三—四〇七	熊毛郡西之表町種子島	熊毛郡 囎唹郡ノ內岩川町、財部町、末吉町、恒吉村、市成村、月野村
岩川	岩川	五七	囎唹郡岩川町	
枕崎	枕崎	六五	川邊郡枕崎町	川邊郡ノ內枕崎町、知覽町、西南方村
那覇	那覇	六五七	那覇市松山町一ノ三	那覇市、首里市、島尻郡、八重山郡
石垣分	八重山局五七	二二八	八重山郡石垣町字登野城	八重山郡ノ內石垣町、大濱村、竹富村、與那國村

道府縣名	沖繩			
	職業指導所名	電話番號	位置	管轄區域
	國頭分所	三七	國頭郡名護町字名護一四〇	國頭郡ノ内本部町、今歸仁村、伊江村
	渡久地分所	本部呼出 一	國頭郡本部町字渡久地渡久地一	國頭郡ノ内本部町、今歸仁村、伊江村
	宮古島分所	一二八	宮古郡平良町字西里二五五	宮古郡
	中頭分所	宜野灣呼出二	中頭郡宜野灣村	中頭郡
	泡瀨分所	泡瀨局呼出	中頭郡美里村字泡瀨八五	中頭郡ノ内勝連村、與那城村、具志川村、美里村

製本控

961 函	11 號	年 月 日

勞務管理法規集

1 冊

備考

昭和十七年十二月三十一日 發行
昭和十七年十二月二十八日 印刷

編纂者 東京市麹町區丸ノ内(郵船ビル内)
日本通運株式會社内
法規研究會
代表者 [illegible]

勞務管理法規集
(非賣品)

昭和十七年十二月二十八日 印刷
昭和十七年十二月三十一日 發行

（非賣品）

勞務管理法規集

編纂者 東京市麴町區丸ノ内（郵船ビル内）
發行者 日本通運株式會社内
法規研究會
代表者 並木健

印刷者 東京市神田區小川町二丁目一三（東東四一二三）西川喜右衛門

發行所 東京市麴町區丸ノ内（郵船ビル内）
日本通運株式會社
電話丸ノ内（23）（自代表二三三一・至二三三二 自代表三三八一・至三三八八）

961
11

終